Future X Communications

FXC-NVR2000 Series User Guide

2011 年 9 月

FXC株式会社

本マニュアルについて

■ 本マニュアルでは、FXC-NVR2000 シリーズの各種設定について説明します。

目次

1. 基本設定 1

1.1 NVR の設置 1

1.2 初期設定 3

1.2.1 DiscOnModule の概要 3

1.2.2 DoM の無効化 3

1.2.3 時刻設定 5

1.2.4 IP アドレス設定 8

1.3 言語設定 11

1.3.1 クライアント PC 仕様 13

1.4 構成例 14

2. SCM プログラム ユーザーガイド 15

2.1 SCM の概要 15

2.2 SCM プログラムの実行 17

2.3 ボリュームの作成 18

2.4 ボリューム名の変更 20

2.5 ボリュームの削除 21

2.6 ボリュームの修正 22

2.6.1 ハードディスクを既存のボリュームに追加 22

2.6.2 既存のボリュームからハードディスクを削除 24

2.6.3 ハードディスクの取り外し 26

2.7 ログの保存 27

2.8 SCM プログラムの終了 28

3. システムオペレーション 29

3.1 概要 29

3.1.1 操作モード 29

3.1.2 ディスプレイモードの概要 32

3.2 システムタブ 33

3.3 デバイスツリー & マップ 34

3.3.1 デバイスツリー 34

3.3.2 マップ 36

3.4 パターン & ツアー 37
3.4.1 パターンテンプレート 37
3.4.2 パターンのカスタマイズ 39
3.4.3 ツアーを実行 44

3.5 ビューア 45
3.5.1 ビューアの概要 45
3.5.2 画像の再生 46
3.5.3 OSD 設定 48
3.5.4 ビューアの最大化 50
3.5.5 画像比率の調節 52
3.5.6 ビューアでマップを操作 53
3.5.7 サブチャンネルからの画像を再生 55
3.5.8 PTZ カメラを再生 56
3.5.9 ROI の再生 61
3.5.10 デジタルズームモード（ePTZ） 64
3.5.11 画像のスナップショット 65
3.5.12 手動録画 66
3.5.13 AVA ファイルを開く 67
3.5.14 コーディックの切り替え 68
3.5.15 画像送信の切断 69

3.6 タイムスライダ 70
3.6.1 タイムスライダについて 70
3.6.2 ビデオの検索 73
3.6.3 過去のビデオを再生 75
3.6.4 スプーラへエクスポート 76
3.6.5 同期再生 77
3.6.6 ビデオループ 78
3.6.7 タイムラインの記号 / 文字色の変更 79
3.6.8 メガプレイヤの実行 80

3.7 スプーラ 82
3.7.1 画像の閲覧 82
3.7.2 ビデオクリップの閲覧 83
3.7.3 画像またはビデオファイルを保存 84
3.7.4 スプーラのファイルを削除 86

4. アラーム & イベントモード 87

4.1 アラームモード 87
4.1.1 アラームに対処 87
4.1.2 ポップアップアラームの ON/OFF 88
4.1.3 アラーム音の ON/OFF 88
4.1.4 アラームの検索 89

4.1.5 アラームの受信確認 90
4.1.6 アラームのエクスポート 92
4.1.7 紛失物検索 93
4.1.8 置き去り検索 95

4.2 イベントモード 97
4.2.1 イベントの検索 98
4.2.2 イベントのエクスポート 100

5. 構成モード 101

5.1 デバイス設定 102
5.1.1 NVR 102
5.1.2 カメラ / チャンネル 113

5.2 ストレージ設定 127

5.3 システム設定 128
5.3.1 マップ 128
5.3.2 ユーザアカウント 133
5.3.3 グループアカウント 138
5.3.4 アラーム規則 142
5.3.5 スケジュール 153

6. HD NVR クライアント 159

6.1 インストール 159

6.2 操作指令 163

付録 165

1. 基本設定

1.1 NVR の設置

FXC-NVR2000 シリーズとは、HD NVR マネージャがインストールされた、PC ベースのコントロール装置です。以下、文中では「NVR」と表記します。

コントロールワークステーションは、接続された複数の NVR と、対応する IP カメラ、ビデオサーバをネットワーク経由で管理すると共に、これらの接続された装置の操作を行います。

全ての操作コンポーネントは外部ケースの前面および背面のパネルに配置されています。

図 1-1 NVR の前面パネル

① RESET LED

② SYSTEM LED

③ LAN LED

④ HDD LED

⑤ Power LED

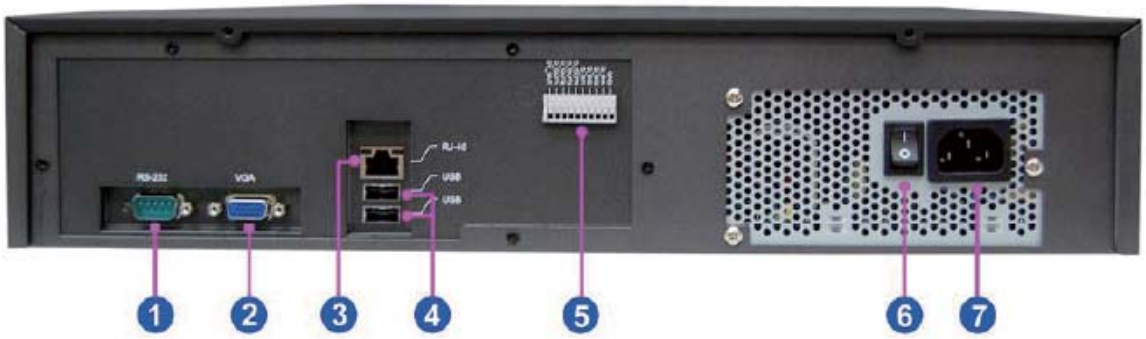

図 1-2 NVR の背面パネル

（1）RS-232

（2）VGA（モニター）

（3）RJ-45 ギガビット LAN ポート（eth0）

（4）USB2.0 ポート

（5）アラーム入力 / 出力（デジタル I/O）

（6）スイッチングパワーサプライー 115/230V、50/60 Hz

（7）AC パワー入力

1.2 初期設定

NVR を起動した後に、次の手順にて初期設定を行って下さい。

1.2.1 DiscOnModule の概要

DiscOnModule(DoM) はセキュリティの一種であり、OS やアプリケーションに対する書き込み制御を行います。操作によって DoM を有効、無効に設定することが可能であり、有効の場合には外部からの攻撃を防ぐ事ができます。

Windows のデスクトップにて右下のタスクトレイを確認して下さい。DoM アイコンが表示されていますので、右クリックして下さい。

1.2.2 DoM の無効化

NVR の初期設定では DoM を無効にする必要があります。有効のままでは時刻設定や IP アドレス設定を変更しても、再起動により初期設定に戻ってしまいます。

DoM の無効化には、以下の手順を参照して下さい。

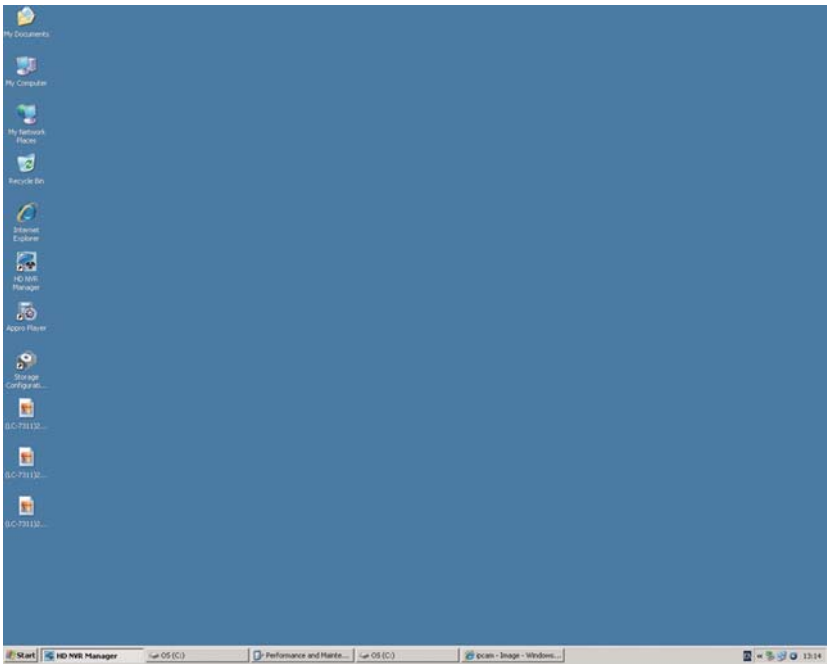

図 1-3 デスクトップ画面

（1）デスクトップの「My Computer」をダブルクリックします。

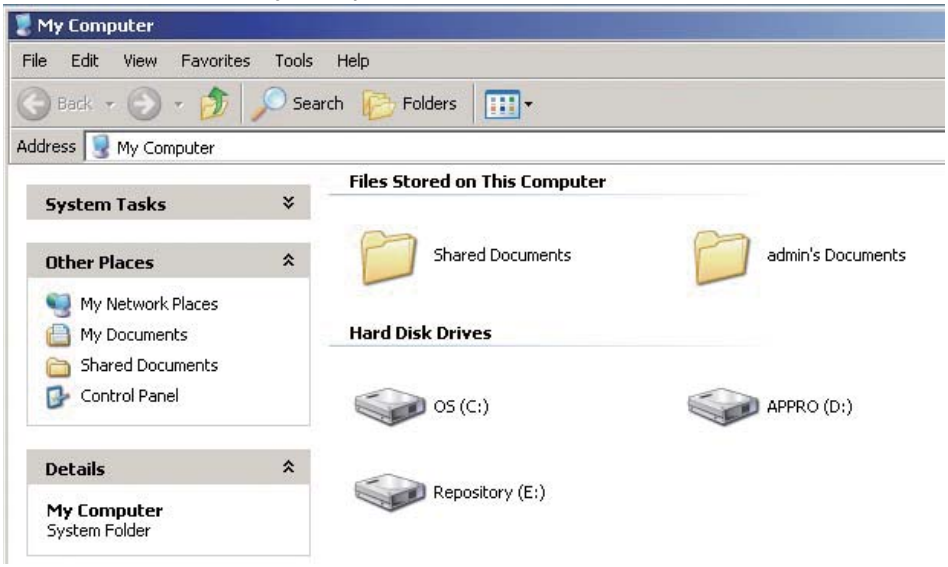

図 1-4

（2）Hard Disk Drives 欄に表示されている「OS(C:)」をダブルクリックします。

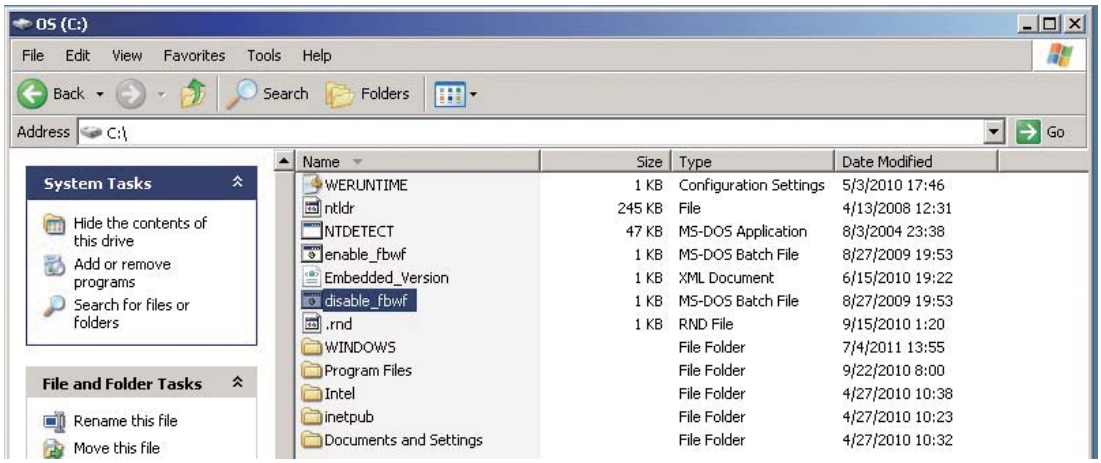

図 1-5 DoM の無効化

（3）「disable_fbwf」をダブルクリックします。

※ DoM を停止している状態では下図のような DoM の有効化を促すメッセージがポップアップされます。設定終了後には「OS(C：)」フォルダ内の「enable_fbwf」をダブルクリックし、DoM を有効化して下さい。

図 1-6 メッセージポップアップ

1.2.3 時刻設定

時刻設定には、以下の手順を参照して下さい。

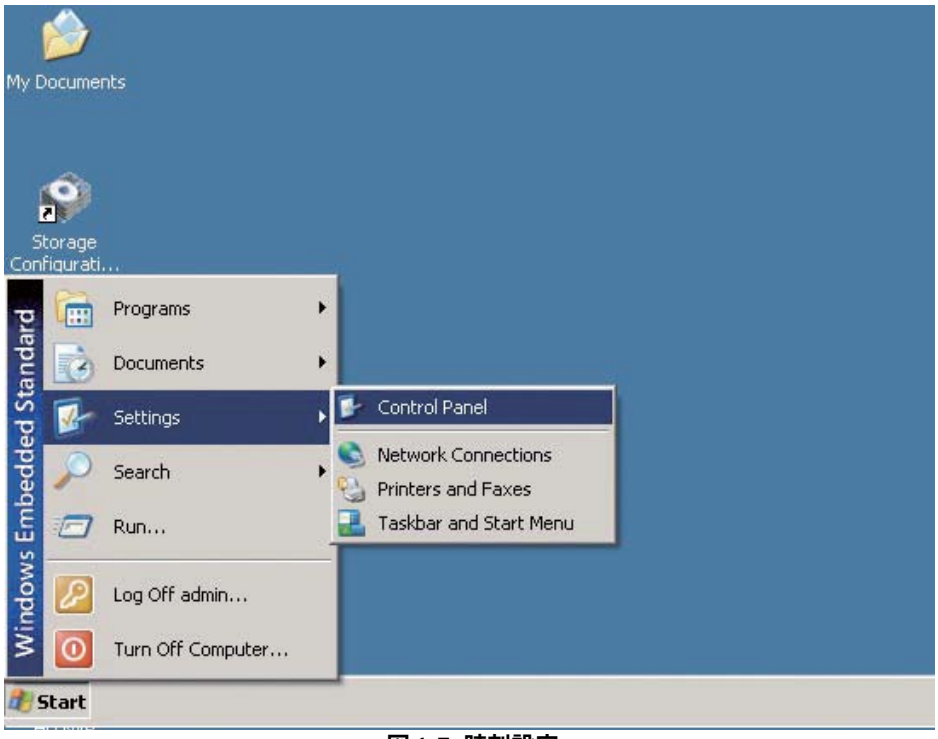

図 1-7 **時刻設定**

（1）デスクトップの「Start**」＞「**Setting**」＞「**Control Panel**」をクリックします。**

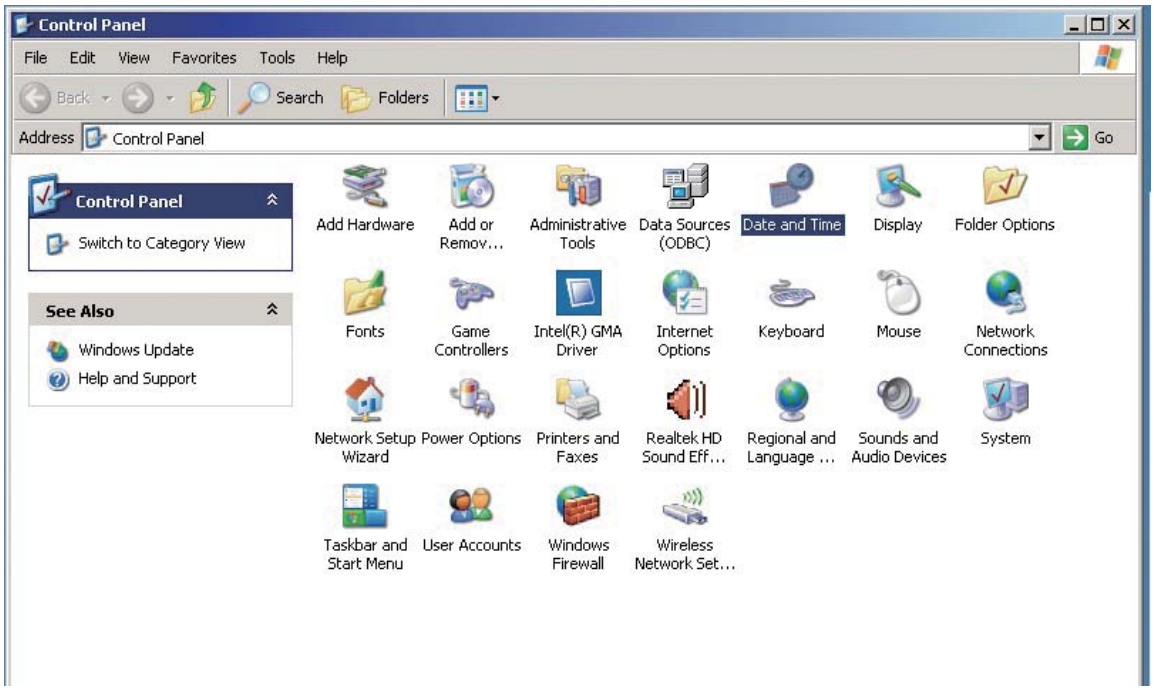

図 1-8

(2)「Date and Time」アイコンをダブルクリックします。

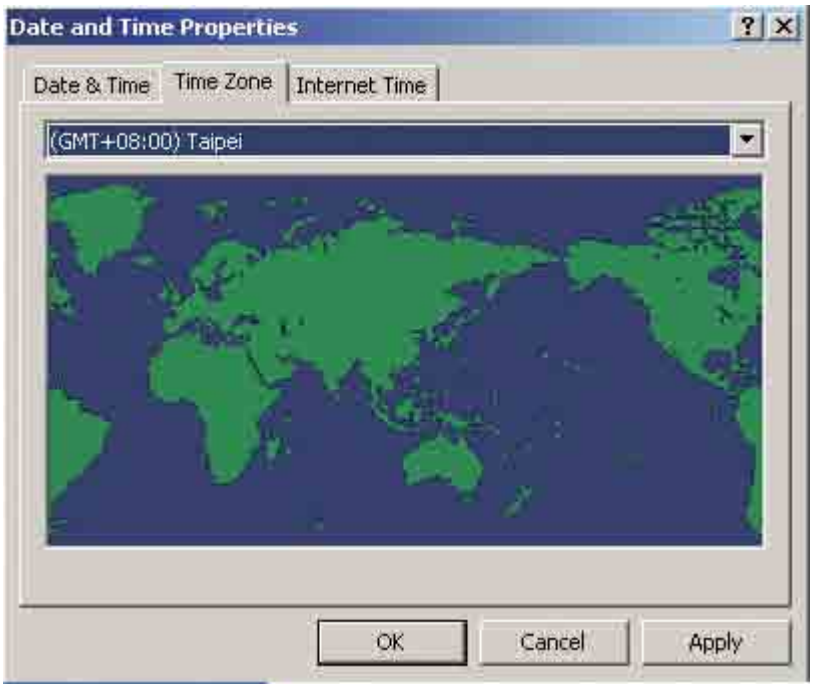

図 1-9

(3)「TimeZone」タブをクリックします。

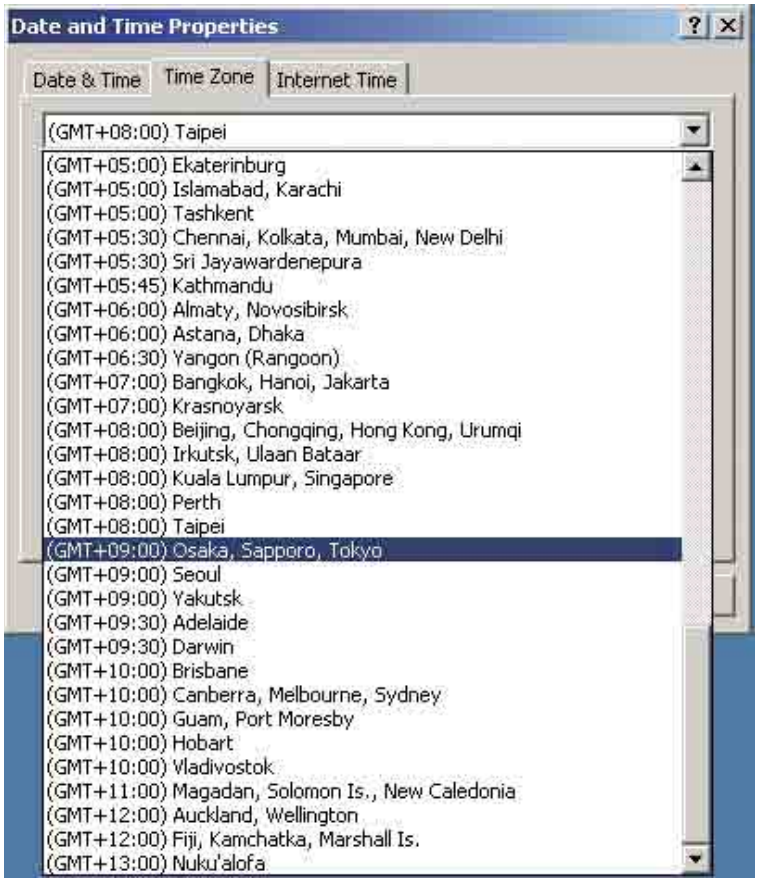

図 1-10

（4）選択項目から「（GMT+09:00）Osaka,Sapporo,Tokyo」を選択します。

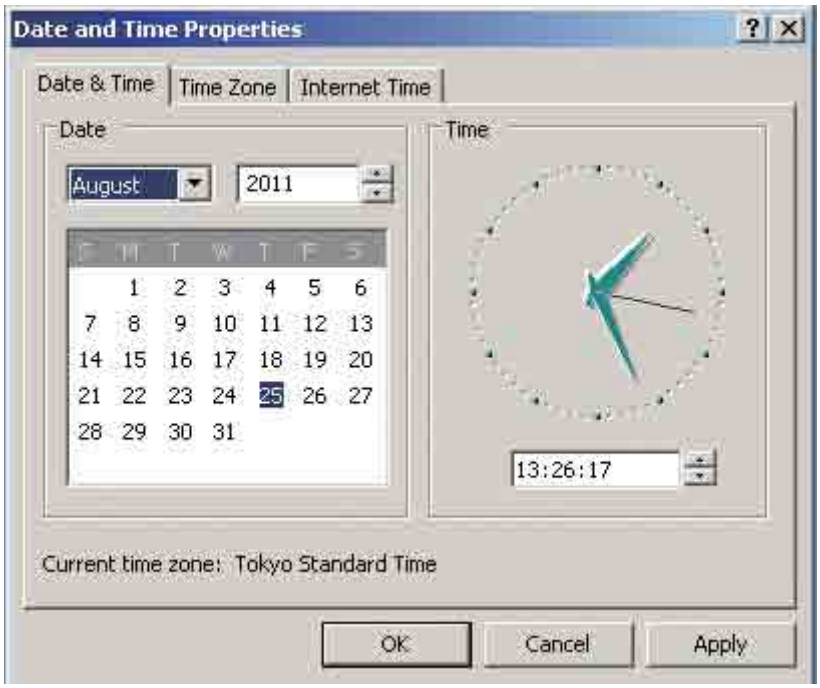

図 1-11

（5）「Date&Time」タブをクリックします。

（6）年、月、日付、時刻を調整して下さい。

※初期設定では NTP サーバアドレスを「time.windows.com」としております。ローカル内に NTP サーバを設置しない場合、NVR を外部ネットワークに接続できるよう設定して下さい。

1.2.4 IP アドレス設定

IP アドレスの設定には、以下の手順を参照して下さい。またアドレス情報についてはネットワーク管理者等にお問い合わせ頂き、ご準備下さいますようお願い申し上げます。

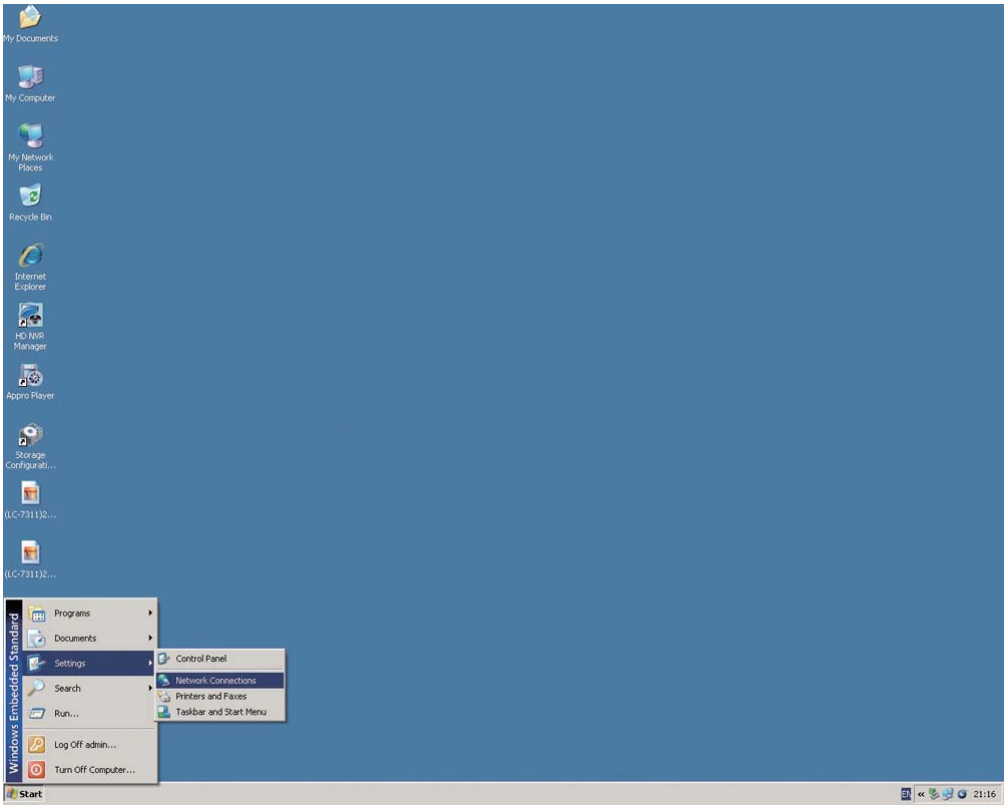

図 1-12

(1) デスクトップの「Start」＞「Setting」＞「Network Connections」をクリックします。

図 1-13

(2)「Local Area Connection」アイコンをダブルクリックします。

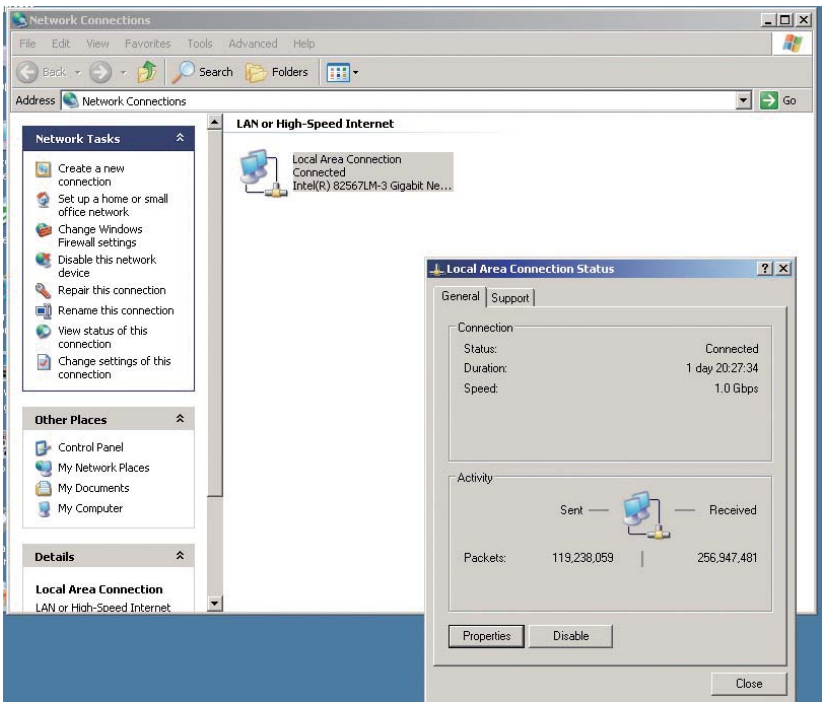

図 1-14

(3)「Properties」ボタンをクリックします。

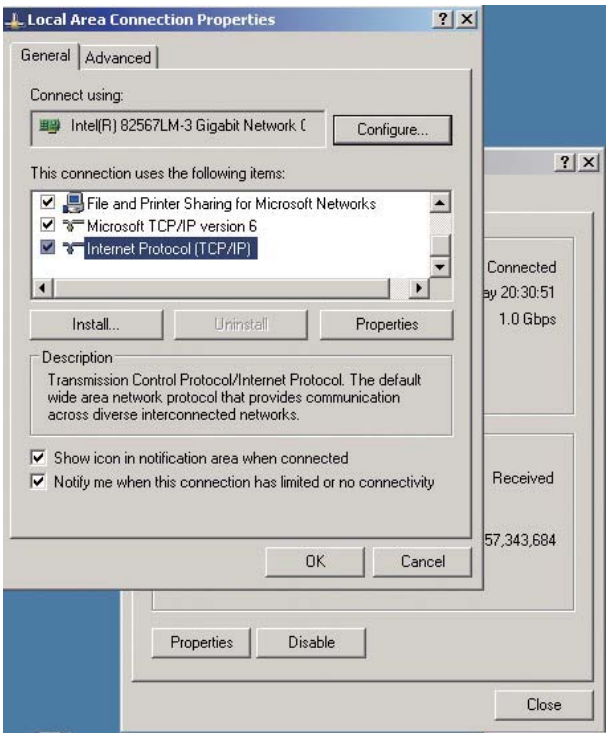

図 1-15

(4)「This connection users the following items:」欄の「Internet Protocol (TCP/IP)」をダブルクリックします。

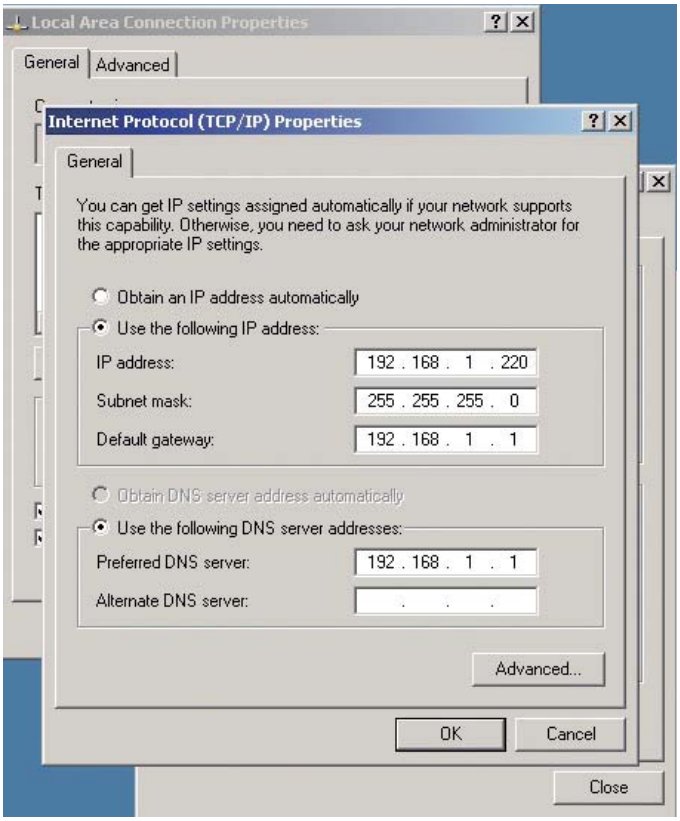

図 1-16

（5）各アドレスに必要な情報を入力し、「OK」ボタンをクリックして下さい。

1.3 言語設定

HD NVR マネージャ、SCM プログラムを日本語表示に設定するには、以下の手順を参照して下さい。

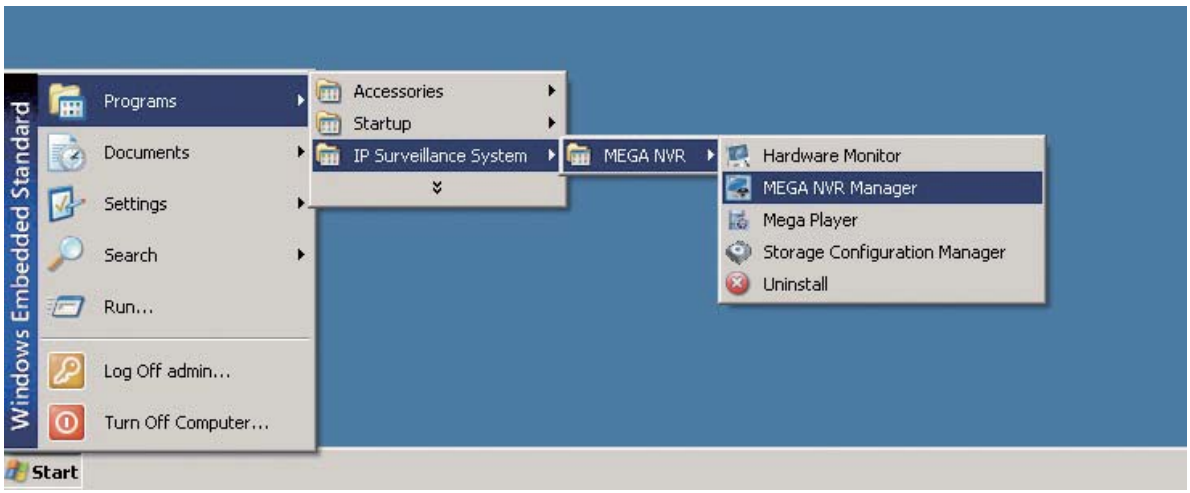

図 1-17 HD NVR マネージャの起動

(1) デスクトップで「Start」>「IP Surveillance System」>「MEGA NVR 」>「HD NVR Manager」をクリックします。

図 1-18 ログイン画面

(2) ログオンダイアログが表示されますので、ユーザー名に「admin」を入力し、パスワード「9999」を入力します。小 / 大文字を正しく入力して下さい。「Sign in」をクリックして下さい。

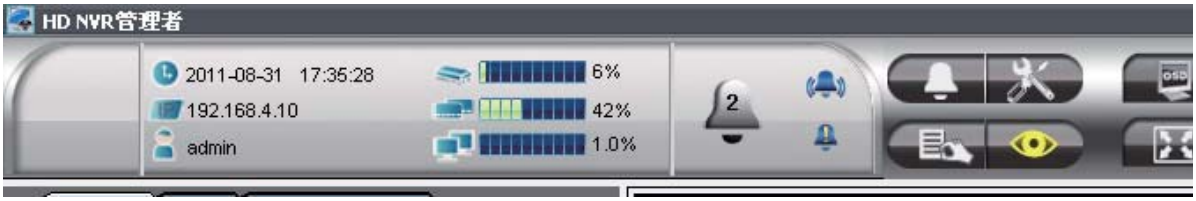

図 1-19 構成モード

(3) 構成モードボタンをクリックします。

図 1-20 言語設定

（4）デバイスツリーの NVR 名を右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。

（5）ポップアップメニューの「Modify HD NVR」をクリックします。

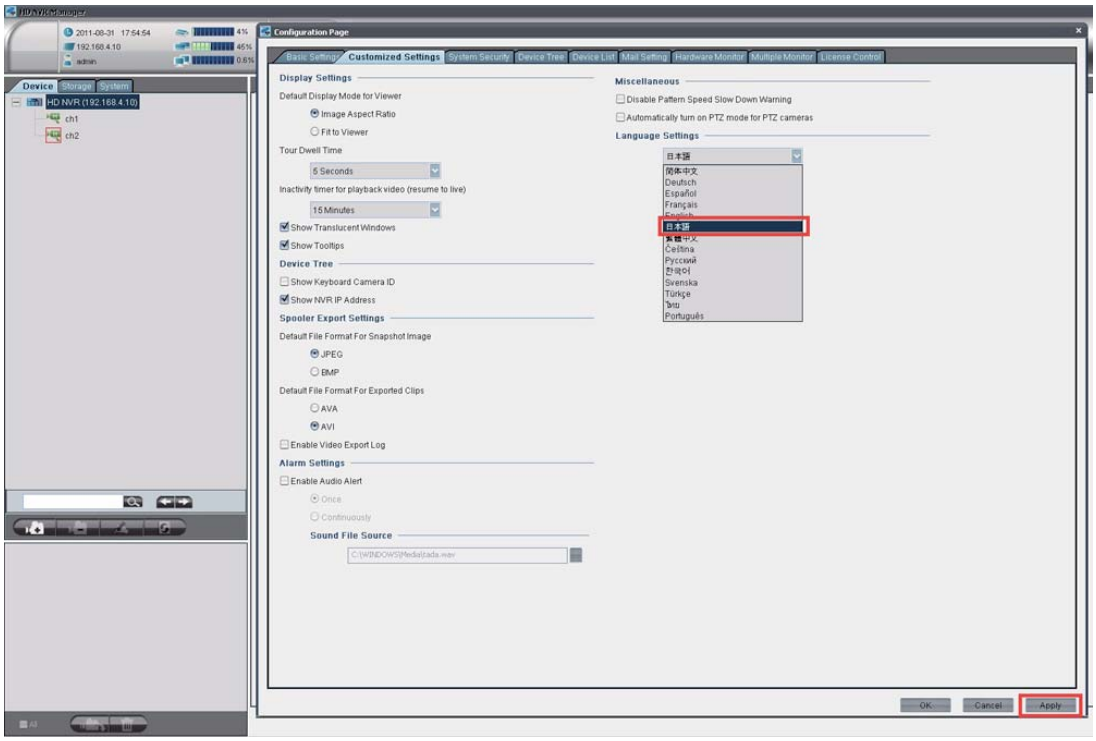

図 1-21

（6）設定画面がポップアップされます。「Customized Settings」タブをクリックします。

（7）Language Settings 項目のメニュータブから「日本語」をクリックします。

（8）設定画面右下にあります「Apply」をクリックします。

図 1-22

（9）言語設定を変更する許可を求めるポップアップが表示されます。「Yes」をクリックして下さい。

図 1-23

（10）設定を有効にするために再起動を求めるポップアップが表示されます。「Yes」をクリックして下さい。

（11）HD NVR マネージャの再起動後、日本語表示に変更されます。

1.3.1 クライアント PC 仕様

システム	CPU	Dual Core 2.4GHz 以上
	メモリ	çÝí·2GB
	OS	Windows XP SP3 以上 / Windows 7
	HDD	OS とビデオデータを物理的に分けることを推奨
	HDD 容量 （ビデオデータ領域）	最低 1TB(クライアントに保存する場合)
	LAN ポート	ギガビットイーサネットを推奨
	表示モニタ	最低 1280x1024, 推奨 1680x1050
	グラフィック	3D グラフィックボード DirectX3D が快適に動作する環境

1.4 構成例

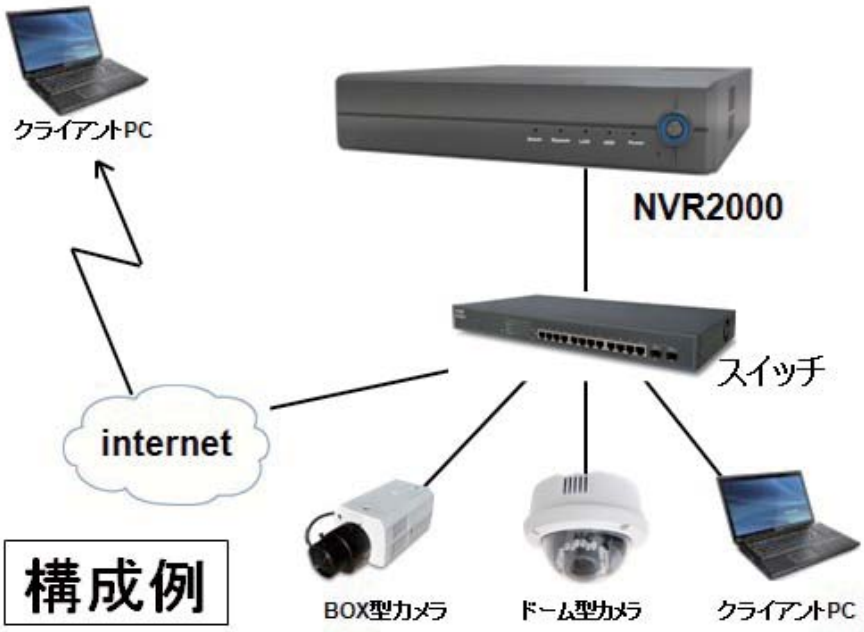
クライアントPC
NVR2000
スイッチ
internet
構成例
BOX型カメラ
ドーム型カメラ
クライアントPC

図 1-24

2. SCM プログラム ユーザーガイド

2.1 SCM の概要

Strage Configuration Manager プログラムはリポジトリ管理機能を提供します。システム管理者は希望するストレージを割り当てる必要があります。

管理者はシステムを使用する前に、すべてのアクセス可能なリポジトリを画像ストレージ用の計画を行ってください。

システムのストレージ管理は「ボリューム」に基づいています。
すべての「ボリューム」は 1 つ以上のハードドライブ、（装着されたすべてのハードドライブ）を管理することができます。

SCM プログラムは 4 つのパネルから構成されています。

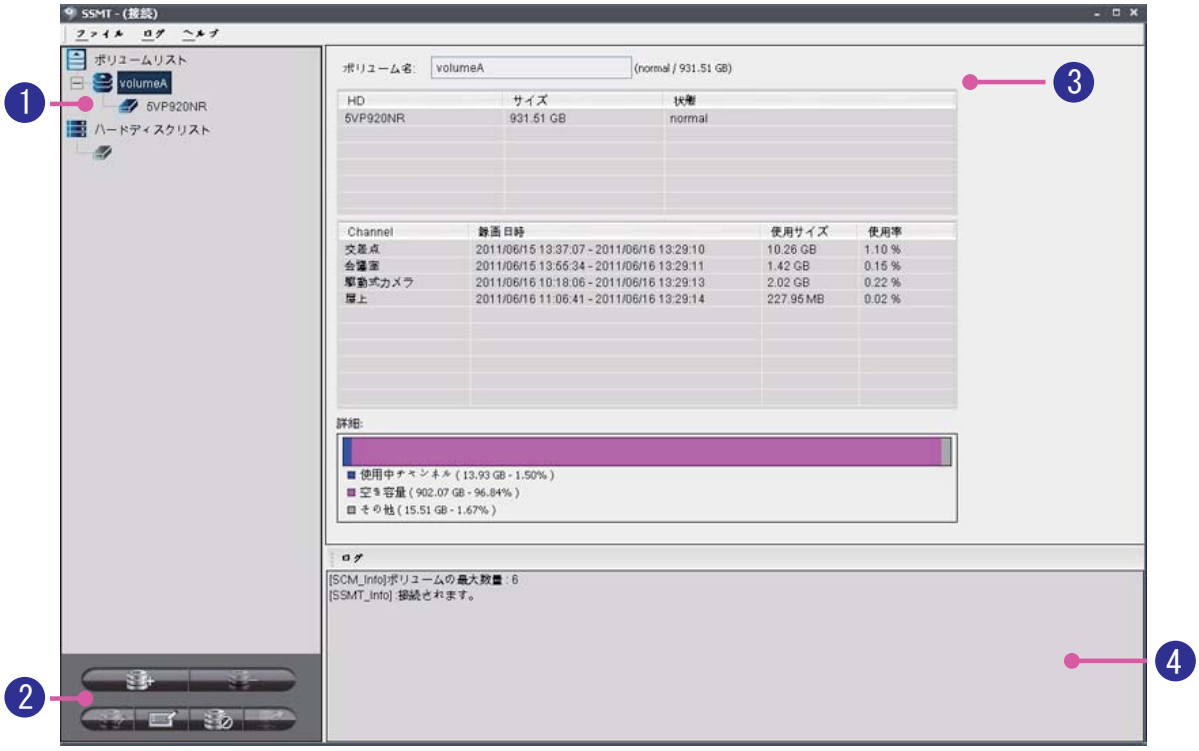

図 2-1 SCM プログラム

①デバイスパネル
②ボタン
③設定パネル
④ログパネル

システムは、ボリュームとハードドライバの状況をアイコンで表示します。アイコンについては以下の表を参照してください。

	ボリューム	ハードドライバ
正常		
無効		
警告		
損傷		

警告アイコンは、ハードディスク内の録画データが 5%ロスした場合に、また損傷アイコンは 15%がロスした場合に表示されます。
これらのアイコンが表示された場合、速やかにハードディスクのバックアップと交換をお願いします。

2.2 SCM プログラムの実行

SCM プログラムを実行するには、以下の手順を参照してください。

図 2-2 SCM プログラムの実行

(1) デスクトップで「Start」> 「IP Surveillance System」> 「MEGA NVR 」> 「Storage Configuration Manager」をクリックします。

図 2-3

(2) ログオンダイアログが表示されますので、ユーザー名に「admin」を入力し、パスワード「9999」を入力します。ユーザー名は小 / 大文字を正しく入力してください。

(3)「ログオン」をクリックします。

2.3 ボリュームの作成

ボリュームの作成には、以下の手順を参照してください。
ボリュームとは、複数のハードディスクをグループ化して、1 つのハードディスクとして使用することをいいます。但し、1 つのハードディスクを利用する場合でも NVR をボリュームとして設定します。

図 2-4 **ボリュームの作成**

（1）SCM **プログラムで 「新規ボリューム」をクリックします。**

図 2-5

（2）**「ボリューム名」に任意の名称を入力します。**

(3) 利用可能なハードディスクのリストから、希望のハードディスクをクリックします。「追加」ボタンをクリックし、選択したハードディスクを「ハードディスクのボリューム」のリストに追加します。

(4)「リストに追加」をクリックします。
選択されたハードディスクがリストに表示されます。

(5)「作成」をクリックして続けます。

(6) もしくは「キャンセル」をクリックして終了します。)

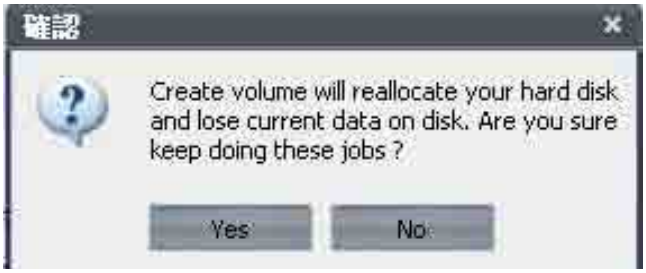

図 2-6

(7) 上図のようなダイアログが表示されます。「Yes」をクリックして続けます。

(8) プログレスバーが表示されます。このプロセスが完了すると、デバイスパネルは新規ボリュームとそれに属するハードディスクを表示し、フォーマットされたハードディスクの情報が構成パネルに表示されます。

[注意] デバイスパネルのボリュームに属したハードディスクのアイコンをクリックすると、選択したハードディスクの情報が構成パネルに表示されます。

2.4 ボリューム名の変更

ボリューム名を変更するには、以下の手順を参照してください。

図 2-7 ボリューム名の変更

(1) SCM プログラムで、デバイスパネルに表示された中からご希望のボリュームをクリックします。

(2)「名称変更」をクリックします。「ボリューム名称変更」ダイアログが表示されます。

図 2-8

(3) 新しいボリューム名を入力し、「OK」をクリックします。

図 2-9

(4) ボリューム名が変更されます。

2.5 ボリュームの削除

ボリュームを削除するには、以下の手順を参照してください。

図 2-10 ボリュームの削除

(1) SCM プログラムで、デバイスパネルに表示された中から希望するボリュームをクリックします。

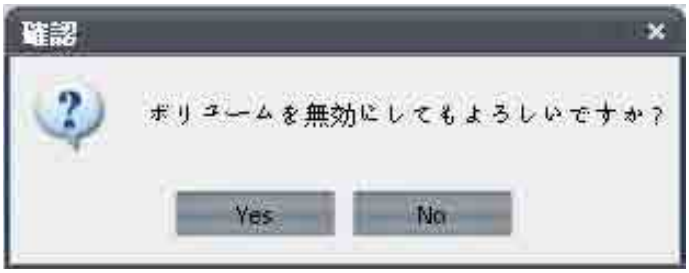

図 2-11

(2)「無効化」をクリックします。システムは確認メッセージ「このボリュームを無効にしてもよろしいですか？」を示します。「Yes」をクリックします。

(3)「ボリュームを削除」をクリックします。

(4) システムは確認メッセージ 「このボリュームを削除しますか？」を示します。Yes をクリックして続行します。（もしくは「No」）をクリックして終了します。）

図 2-12

(5) 選択されたボリュームがボリュームリストから削除されます。

2.6 ボリュームの修正

ボリュームは 1 台および複数のハードディスクで構成されます。SCM では、1 台のハードディスクが故障した際、ユーザは故障したハードディスクをボリュームから削除し、保存した画像データを破損することなく新しいハードディスクをボリュームに追加することができます。

2.6.1 ハードディスクを既存のボリュームに追加

既存のボリュームにハードディスクを追加するには、以下の手順を参照してください。

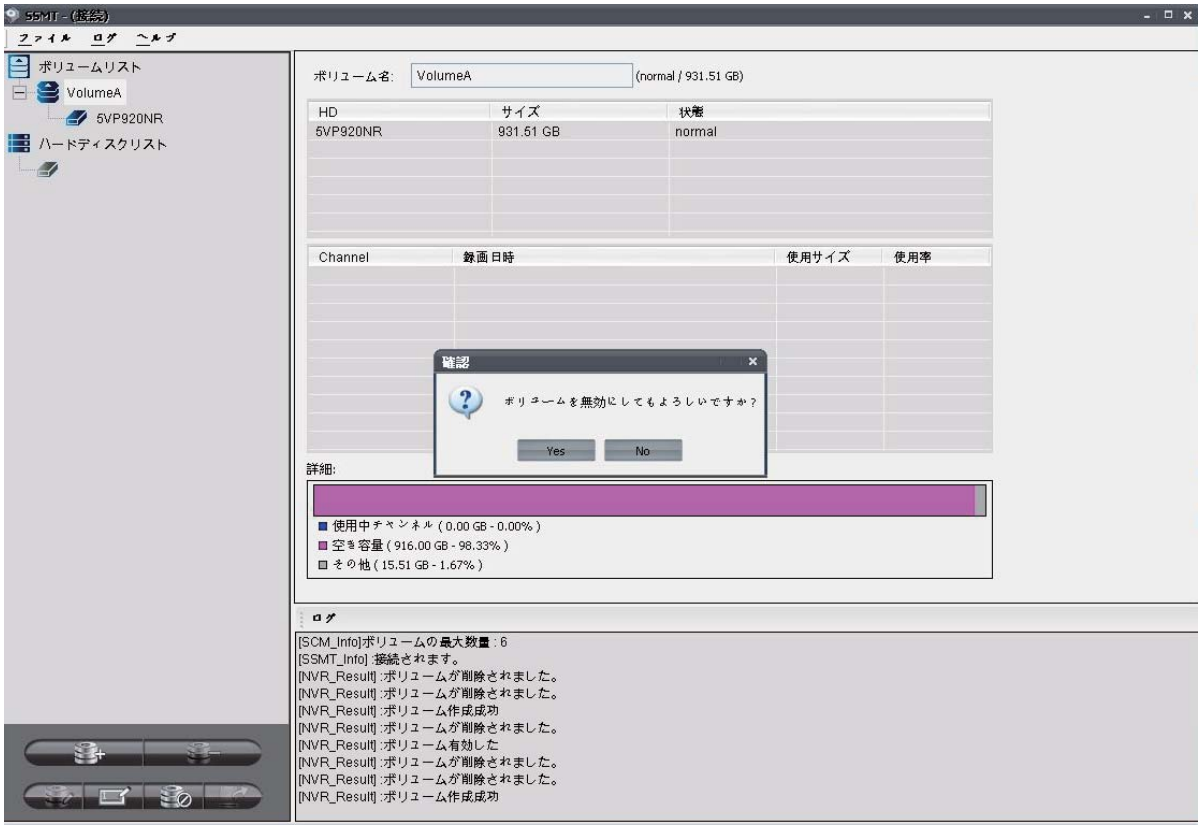

図 2-13 ハードディスクを既存のボリュームに追加

(1) SCM **プログラムで、デバイスパネルに表示された中から希望のボリュームをクリックします。**

(2) **または「無効」をクリックします。システムは確認メッセージ「このボリュームを無効にしてもよろしいですか？」を表示します。「Yes」をクリックして続行します。**

(3)「修正」をクリックします。「ボリュームの修正」ダイアログが表示されます。

図 2-14

(4) 使用可能なハードディスクのリストから希望するのハードディスクをクリック後、「>>」をクリックします。選択されたハードディスクは「ハードディスクのボリューム」のリストに追加されます。

(5)「OK」をクリックして続行します。(もしくは「取消」をクリックして終了します。)

図 2-15

(6)「有効化」をクリックしてボリュームを再スタートします。

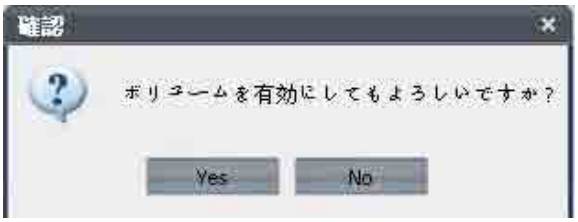

図 2-16

(7) 確認メッセージ 「このボリュームを有効にしますか？」が表示されます。「はい」をクリックして完了します。

2.6.2 既存のボリュームからハードディスクを削除

既存のボリュームからハードディスクを削除するには、以下のステップを参照してください。

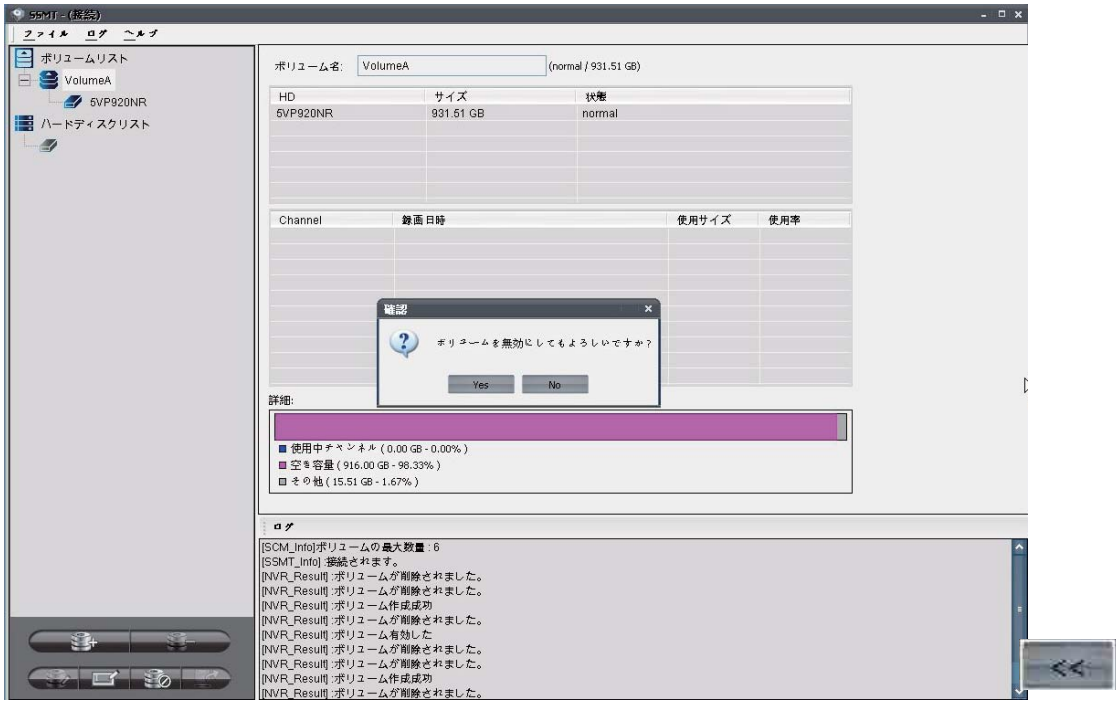

図 2-17 **既存のボリュームからハードディスクを削除**

(1) SCM **プログラムで、デバイスパネルに表示された中から希望のボリュームをクリックします。**

(2)**「無効化」をクリックします。システムは確認メッセージ「このボリュームを無効にしてもよろしいですか？」を表示します。「**Yes**」をクリックして続行します。**

図 2-18

(3)**「修正」をクリックします。「ボリュームの修正」ダイアログが表示されます。**

（4）ハードディスクのリストで選択したハードディスクをクリックしてから、　　をクリックします。選択されたハードディスクは「ハードディスクのボリューム」のリストから削除されます。

（5）「確認」をクリックして続行します。（もしくは「キャンセル」）をクリックして終了します。）

図 2-19

（6）「有効」をクリックしてボリュームを再起動します。

図 2-20

（7）確認メッセージ 「このボリュームを有効にしてもよろしいですか？」が表示されます。「Yes」をクリックして完了します。

2.6.3 ハードディスクの取り外し

SCM では、ユーザはボリュームを無効にすることなく、破損したハードディスクの取り外しができます。この機能により録画機能が終了するのを防げます。ハードディスクを取り外すには、以下の手順を参照してください。

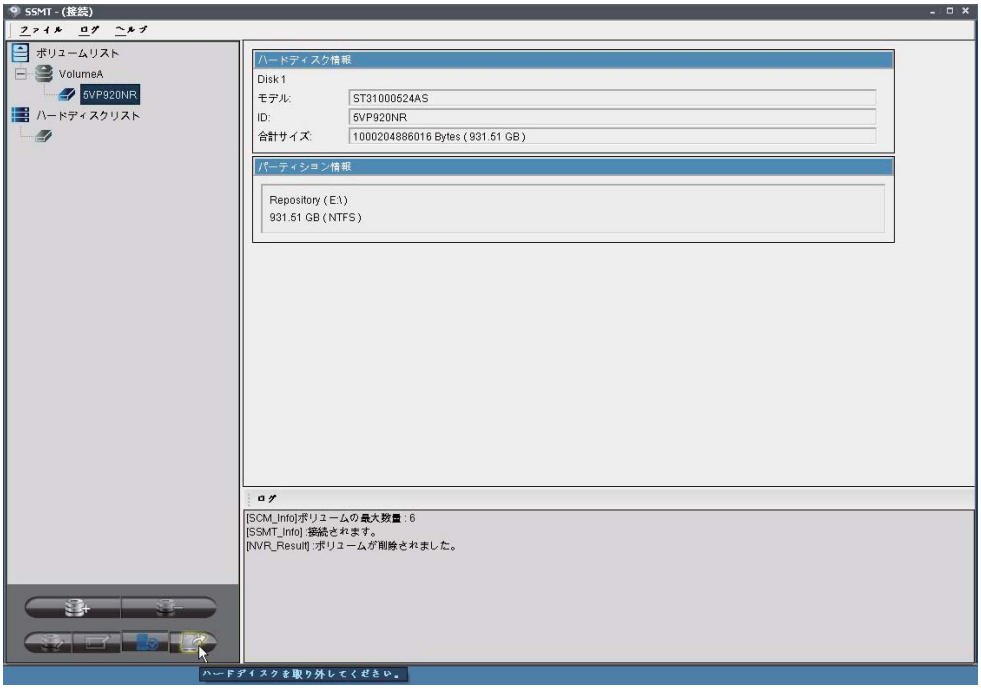

図 2-21 ハードディスクの取り外し

(1) SCM プログラムで、デバイスパネルに表示された中から取り外したいハードディスクをクリックします。

(2)「ハードディスクを取り外す」をクリックします。

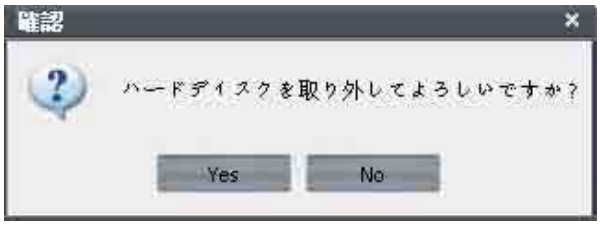

図 2-22

(3) 確認メッセージ「このハードディスクを取り外してよろしいですか？」が表示されます。「Yes」をクリックして続行します。

(4) 選択されたハードディスクが取り外されます。

[注意] ボリュームが１つのハードディスクのみ管理している場合、「ハードディスクを取り外す」機能を実行するとボリュームも同時に削除されます。

2.7 ログの保存

ログはプログラムの実行以降のすべてのイベントを記録します。SCM プログラムでは、ユーザーは外部ファイルにログを保存することができます。ログを外部ファイルに保存するには、以下の手順を参照してください。

図 2-23 ログの保存

(1) メインメニューの 「ログ」をクリックします。

(2)「ログ保存」をクリックします。「名前を付けて保存」ダイアログが表示されます。

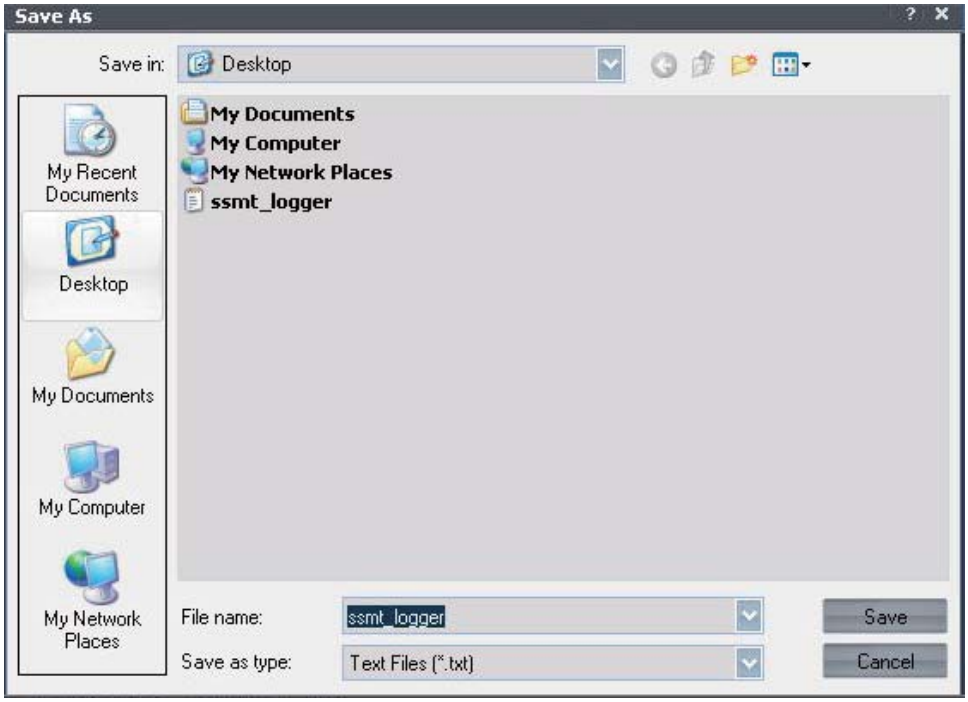

図 2-24

(3) ディレクトリを変更し、ファイル名を入力します。

(4)「保存」をクリックして完了します。

2.8 SCM プログラムの終了

SCM プログラムを終了するには、以下の手順を参照してください。

図 2-25 SCM プログラムの終了

(1) メインメニューの「ファイル」をクリックします。

(2)「終了」をクリックします。

図 2-26

(3)「Yes →終了 .No →最小化」というメッセージが表示されます。「Yes」をクリックします。

3. システムオペレーション

3.1 概要

3.1.1 操作モード

- ディスプレイモード
- アラームモード
- イベントモード
- 構成モード

図 3-1 4 つの操作モード

ディスプレイモードでは、ユーザはチャンネルからの画像をモニターし、チャンネルまたは関連する DI/DO ポイントを操作することで、必要なファイルをエクスポートすることができます。ディスプレイモードは下図を参照してください。

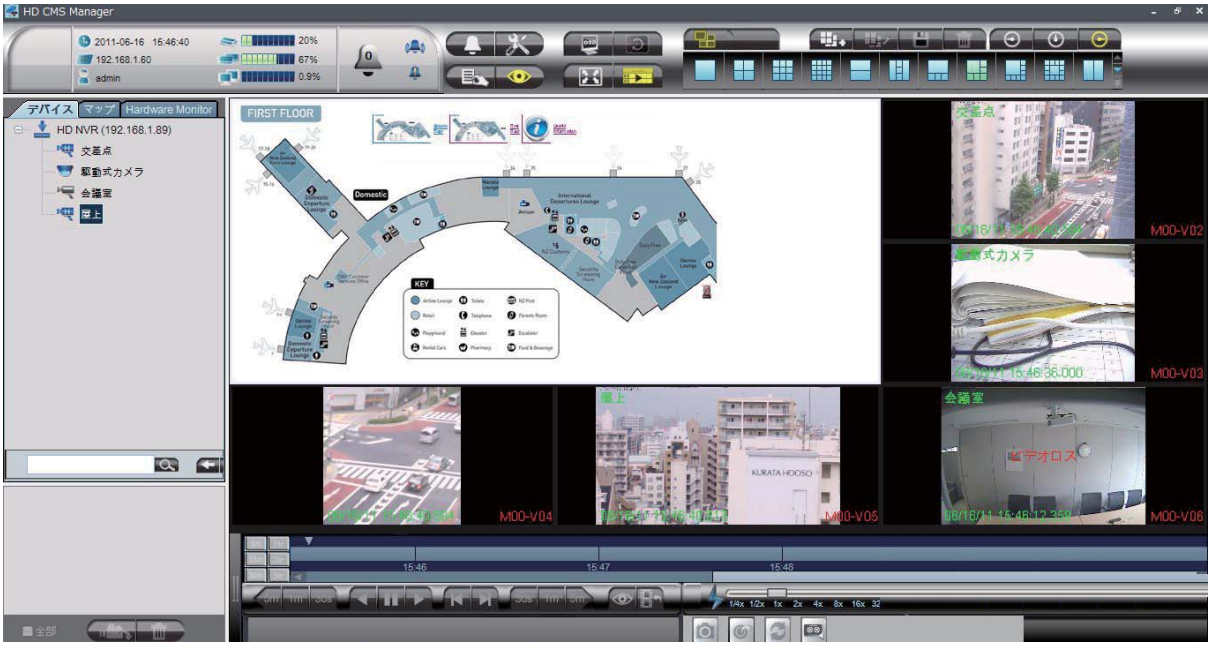

図 3-2 ディスプレイモード

アラームモードは、アラームリスト内の非アクティブ、またはペンディング中のアラームをすべて表示します。このモードでは、アラームにより録画されたビデオクリップをプレビューすることも可能です。また、多数のアラームの中から希望のアラームを簡単に見つけるためのアラーム検索機能も提供します。詳細は 87 ページの「アラーム & イベントモード」を参照してください。アラームモードは下図を参照してください。

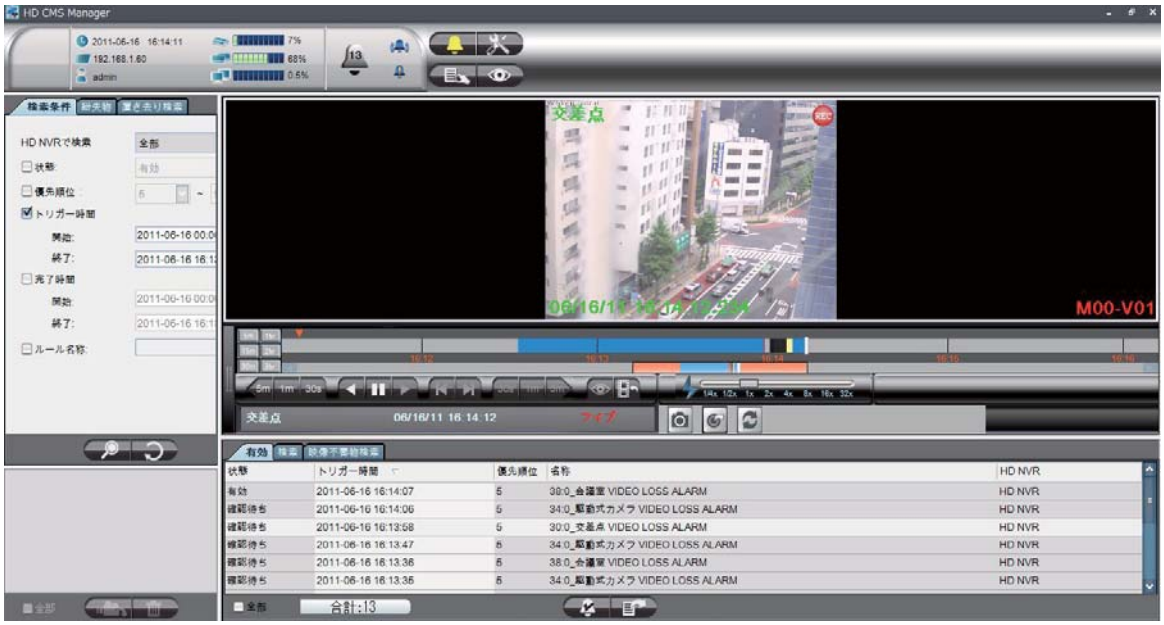

図 3-3 アラームモード

イベントモードでは、システム別、ユーザー別、およびカメラ別の 3 つのイベントをプレビューすることができます。また、多数のアラームの中からユーザーが希望のイベントを簡単に見つけるイベント検索機能も提供します。詳細は 87 ページの「アラーム & イベントモード」を参照してください。イベントモードは下図を参照してください。

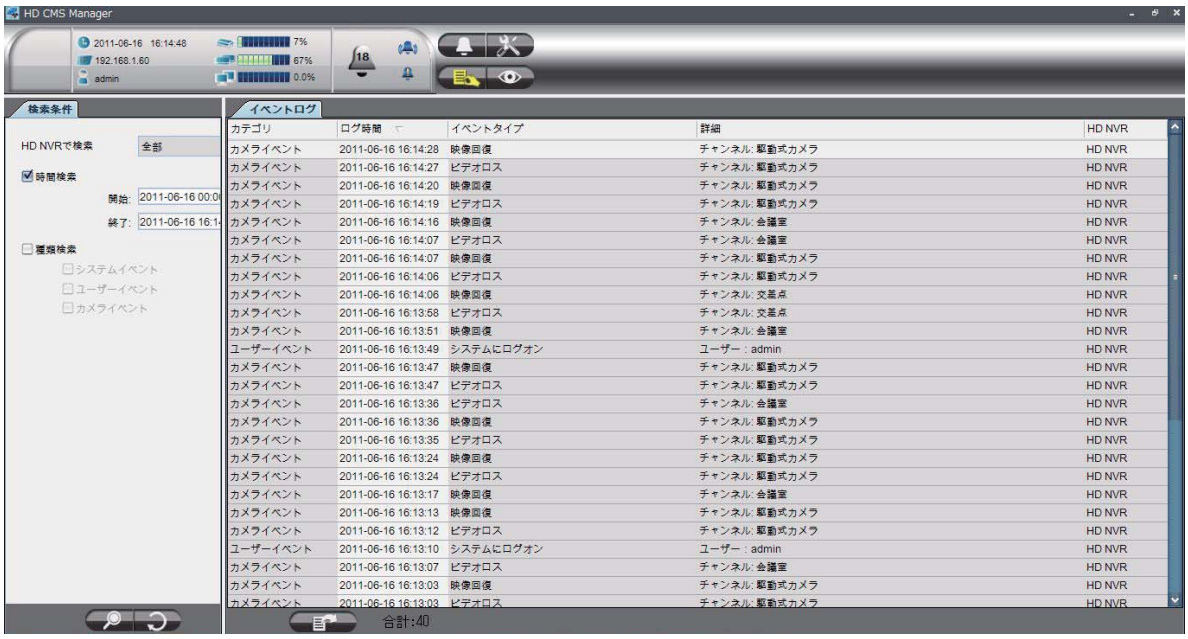

図 3-4 イベントモード

構成モードでは、デバイス設定、ストレージ設定、システム設定の 3 つの設定を実行することができます。デバイス設定は接続しているすべてのデバイスの情報を表示し、ユーザは接続しているデバイスを追加。修正、および削除することができます。ストレージ設定では、ストレージ情報をレビューすることもできます。システム設定はマップ設定、ユーザーアカウント設定、アラーム規則設定、およびスケジュール設定の 4 つの設定から構成されています。詳細は 101 ページの「構成モード」を参照してください。構成モードは下図を参照してください。

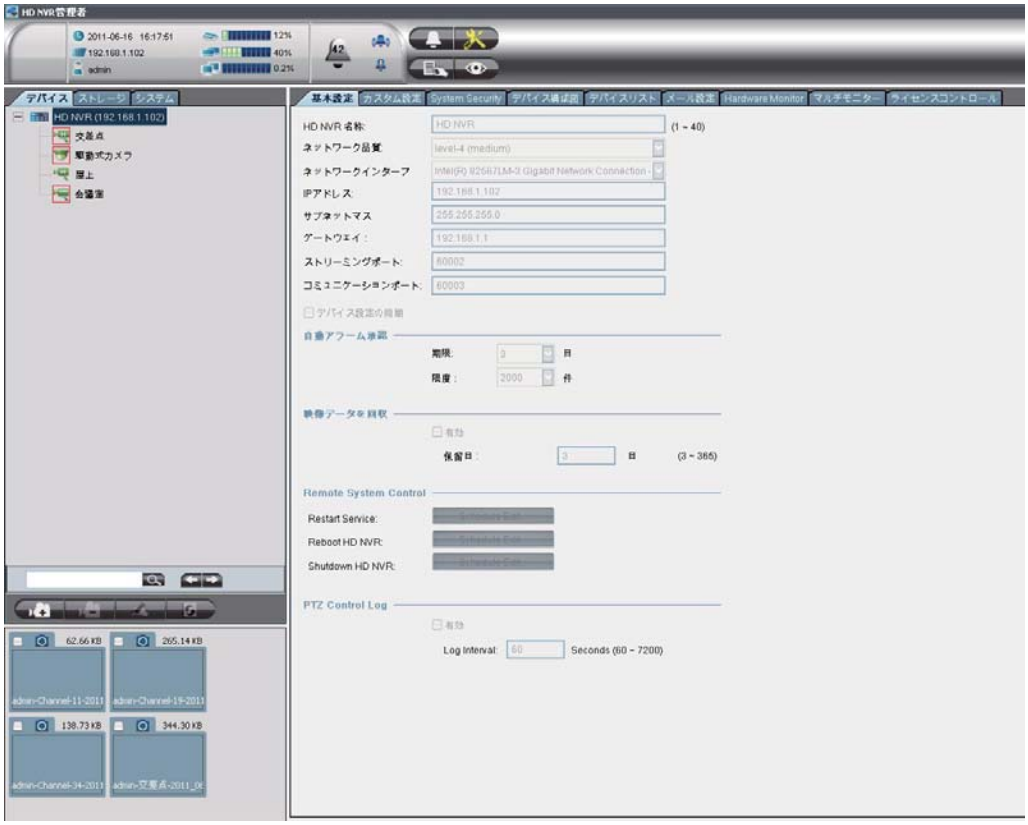

図 3-5 構成モード

3.1.2 ディスプレイモードの概要

ディスプレイモードは以下の要素から構成されています。

① ロゴ＆システム情報
② ツリーパネル
③ パターンパネルモードボタン、機能ボタン、ツアーリスト
④ ビデオディスプレイパネル
⑤ スプーラパネル

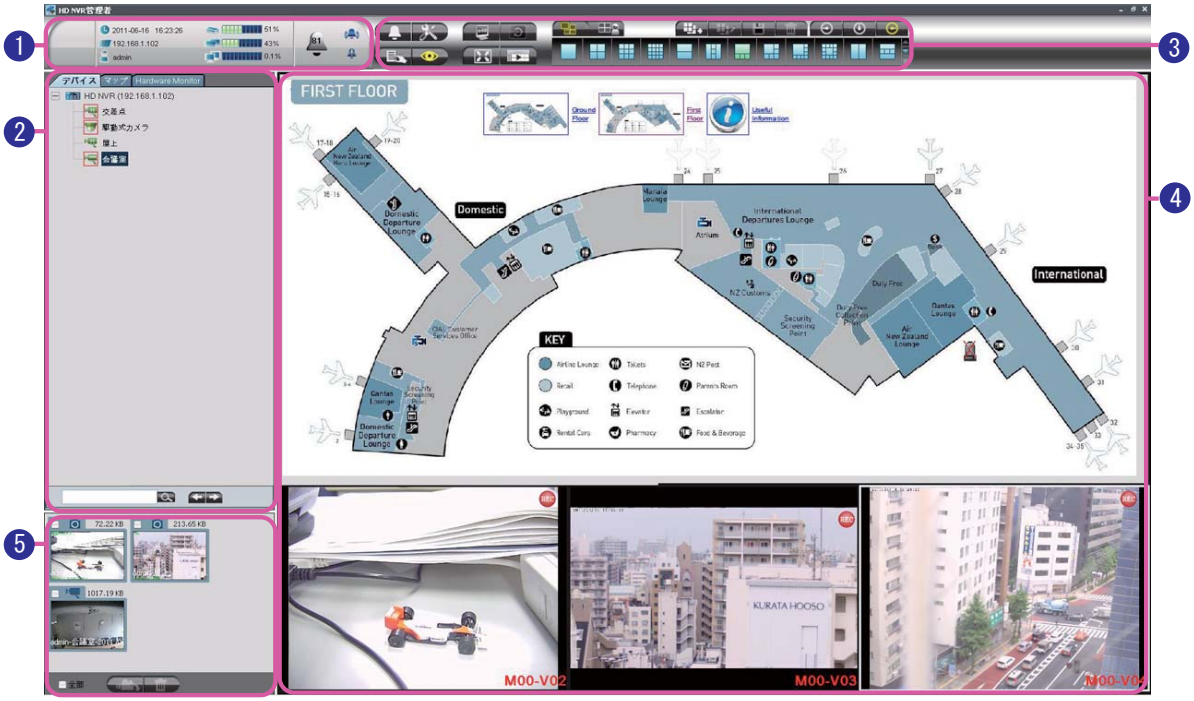

図 3-6 ディスプレイモード

3.2 システムタブ

システムタブは、システム情報及びアラーム情報の 2 つのパネルで構成されます。

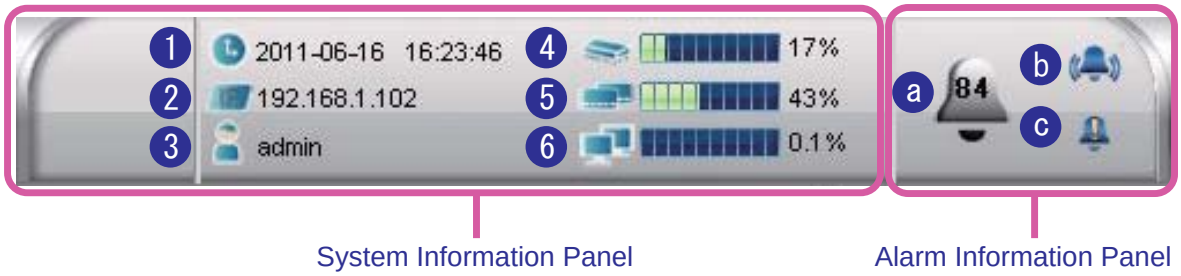

図 3-7 システムタブ

システムタブは、
①現在の日付及び時刻
②本機の IP アドレス
③ ログイン アカウント
④ CPU の使用パーセンテージ
⑤メモリの使用パーセンテージ
⑥ネットワーク使用パーセンテージ
の 6 つの情報を含みます。

アラーム情報パネルは、
(a) アラームの数
(b) アラーム警報ボタン
(c) アラーム ポップアップボタン
を含みます。
詳細は 88 ページの「ポップアップアラームの ON/OFF」を参照してください。

3.3 デバイスツリー & マップ

ディスプレイモードでは、画面左にカメラツリー、マップパネル、2 つのタブが表示されます。

図 3-8 ツリーパネル

3.3.1 デバイスツリー

カメラツリーは、システムに追加された NVR 及びすべてのチャンネルと、それに属する DI/DO ポイントを表示します。
チャンネルは、ビューア上のプレーヤーになれるビデオ画像を表します。
チャンネルには、一般 IP カメラ、PTZ カメラ、およびサブチャンネルの 3 つのタイプがあります。PTZ カメラとは上下左右にレンズを動かすことができ、ズーム機能も所持している IP カメラです。サブチャンネルカメラとは H.264 や MPEG4 など別々のコーデックを持った映像を録画できるカメラです。
カメラアイコンの変化を見ることにより、ユーザーはすべてのカメラの状況を容易に区別することが可能です。ユーザはまた、カメラアイコンをドラッグしてビューアにドロップすることにより画像を表示したり、あるいは DI/DO ポイントの状況を変更することができます。

カメラツリーは、カメラがサブチャンネル機能に対応し、かつこの機能がアクティブである場合は、サブチャンネルも表示します。一部の IP カメラがサブチャンネル機能に対応しています。サブチャンネルの画像は部分的にオリジナルのカメラ画像から補足されます。これによりサブチャンネル画像は通常のカメラ画像と同様に、システムによって再生及び録画することが可能です。

アイコンの状況

システムは異なるチャンネルアイコンによりチャンネル状況を表示します。下表を参照してください。

	一般 D1 チャンネル	高解像度 チャンネル	サブ チャンネル	PTZ D1 チャンネル	180 度 IP ドーム	360 度 IP ドーム
接続済み						
録画中						
ビデオ喪失						
録画中＆アラーム						
ビデオ喪失 & アラーム						

	デジタル 入力ポイント	デジタル 出力ポイント
アクティブ		
アクティブ＆ アラーム		
オフライン		
非アクティブ		
非アクティブ & アラーム		

3.3.2 マップ

マップタブは、ディスプレイモードの画面左に表示されますタブから選択できます。マップタブに表示されるマップツリーは、システムに追加されたマップノードを表示します。

チャンネルアイコンと同様に、マップノードはマップツリーからドラッグし、ビューア上にドロップすることができます。

マップは HTML ファイルで作成されており、カメラと DI/DO ポイントに接続することが可能で、マップ上にデバイスが表示されます。ユーザーは接続しているカメラまたは DI/DO ポイントの種類と位置のほか、デバイスの使用状況をマップから確認することができます。

また、マップ上のカメラアイコンをドラッグし、他のビューアにドロップして画像を再生することも可能です。さらに、カメラツリー上で行うのと同様に、マップ上から直接 DO ポイントをコントロールすることができます。

マップはハイパーリンク機能対応です。マップ上のハイパーリンクを直接クリックすると、ビューアはリンク先にアクセスします。たとえば、Google マップへのハイパーリンクがマップに追加されていますので、ユーザーがハイパーリンクをクリックするとビューアは Google マップの関連内容を示します。

システムが多くのカメラまたは DI/DO ポイントと接続している場合、特定のデバイスを短時間で検索できるよう複数のマップが表示されます。また、マップとツアー機能とのコンビネーションが、重大な画像をより効果的にモニターする為に有益です。

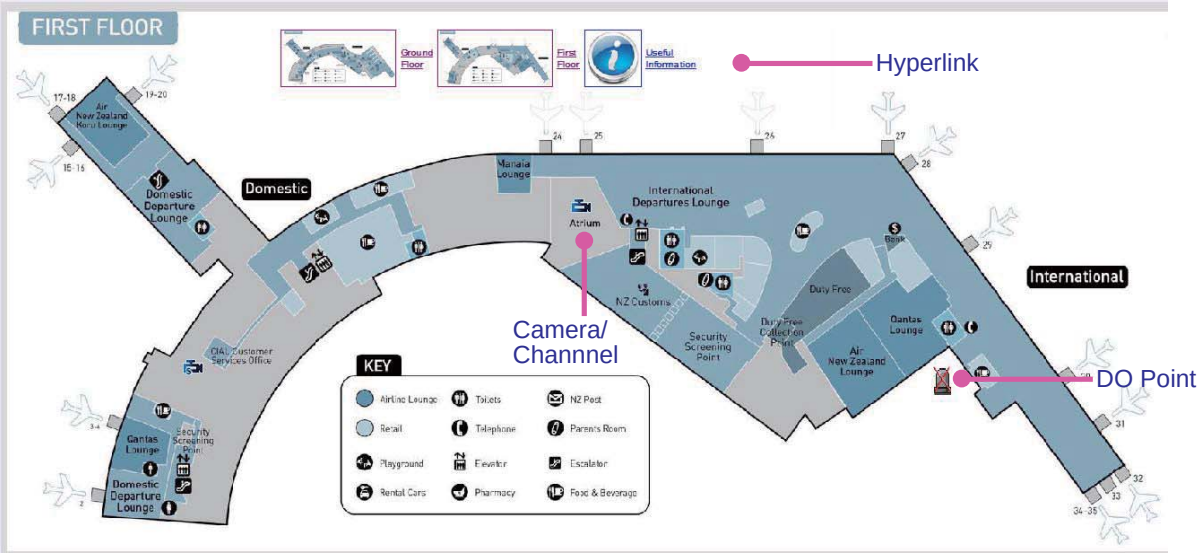

図 3-9 ビューアのマップ

3.4 パターン & ツアー

パターンパネルは機能パネルの右側にあります。
パターンは画面に 1 ～ 16 のビューアを表示するビューアレイアウトです。
これにより、異なるカメラ画像を同時に表示できます。
パターンを切り替えることにより、すべてのカメラ画像を短時間で見ることが可能です。

パターンパネルには、レイアウトの選択とツアーリストの 2 つのタブがあります。
レイアウトの選択は、選択可能なパターンテンプレートを提供します。

当バージョンでは、12 種類のパターンテンプレートが用意されており、ツアーリストは、
ユーザにより追加されたパターンを表示します。
ツアーリストに 2 つ以上のパターンが存在する場合、ツアー機能を実行することが可能です。

3.4.1 パターンテンプレート

パターンテンプレートを見るには、以下の手順を参照してください。

図 3-10 パターンプレート

(1) パターンパネルで、「レイアウトを選択」タブをクリックします。

(2) レイアウトを選択 パネルで、希望のパターンをクリックします。新規パターンレイアウトが画面に表示されます。

[補足] パターンを迅速に選択するために、ユーザーは「1」から「=」までの数字キーをホットキーとして希望するパターンを変更することができます。「1」から 「=」までの 12 のホットキーは、パターンパネルの 12 のパターンに対応しています。
ホットキー「1」を押すとビデオディスプレイパネルは 1x1 パターンレイアウトを示し、ホットキー 「2」を押すと 2x2 パターンレイアウトを示します。

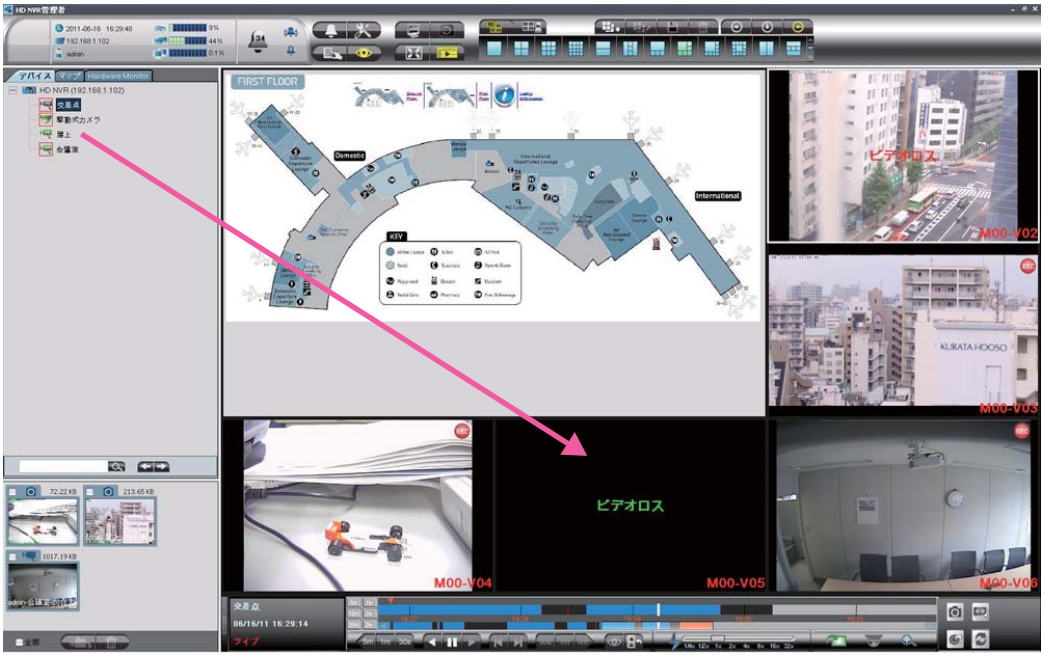

図 3-11

（3）チャンネルアイコンをカメラツリーからドラッグし（カメラツリーが表示されない場合はデバイスタブを最初にクリックします）、そのアイコンを希望のビューア上にドロップします。

（4）選択されたカメラ画像が自動的にビューアで再生されます。

（5）すべてのビューアがカメラ画像を示すまで、手順（3）と（4）を繰り返します。

[補足]　ビューアについての詳細は、45 ページの「ビューア」を参照してください。

[補足]「全画面」ボタンをクリックすると、パターンのサイズが全画面まで拡大されます。「Esc」キーを押すと、パターンは最初のサイズに戻ります。

3.4.2 パターンのカスタマイズ

パターンのカスタマイズでは、お好みのパターンテンプレートを選択して、ツアーリストとして編集することができます。ツアーリストとして保存したパターンには、登録したカメラの配置を記録することができます。
システムはツアーリストに追加、名前を編集、保存、および削除の 4 つの機能ボタンを備えています。

図 3-12 パターンをカスタマイズ

[補足] システムが再起動すると、自動的にツアーリスト内の最初のカスタマイズ・パターンを実行します。

ツアーリストにパターンを追加

すべてのカスタマイズされたパターンは、ツアーリストに自動的に追加されます。カスタマイズされたパターンを作成するには、以下の手順を参照してください。

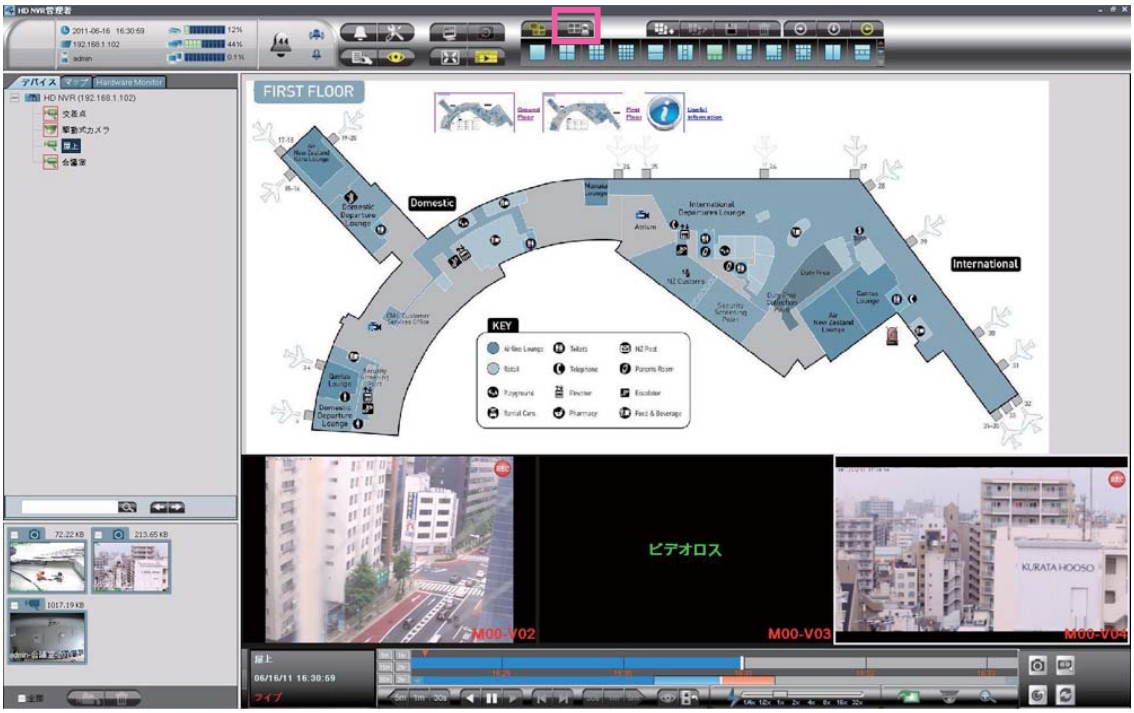

図 3-13 ツアーリストにパターンを追加

(1)「レイアウトを選択」タブをクリックします。

(2)「レイアウトを選択」リストから希望するパターンテンプレートを選択します。

(3) 希望のチャンネルまたはマップアイコンをドラッグし、ビューア上にドロップします。

(4)「ツアーリストに追加」ボタンをクリックします。

図 3-14

(5)「名称編集」ダイアログが現れますので、新しいパターン名を入力し、「確認」をクリックします。(もしくは「キャンセル」をクリックして終了します。)

(6)「ツアーリスト」タブをクリックすると、新しいパターンがツアーリストに表示されます。

[補足] ツアーリストにあるカスタマイズされたパターンが 12 を超える場合はパターンパネルの右手にある上下ボタンをクリックすることで選択用パターンリストが表示されます。

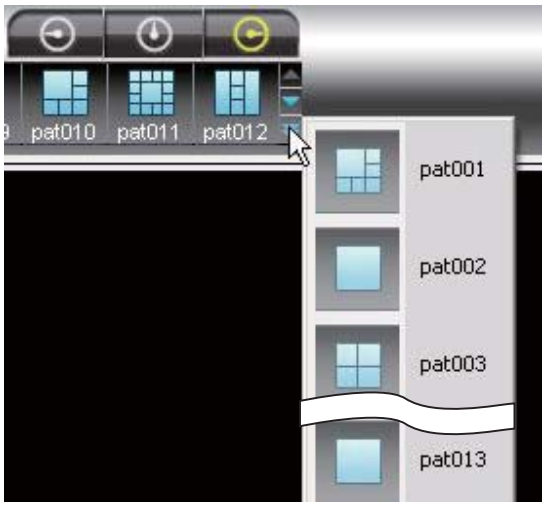

図 3-15

パターン名の変更

パターン名を編集するには、以下の手順を参照してください。

図 3-16 パターン名の変更

(1)「ツアーリスト」タブをクリックします。

(2) 希望するパターンをクリックします。

(3)「名称編集」ボタンをクリックします。

図 3-17

(4)「名称編集」ダイアログが現れますので、新しいパターン名を入力し、「確認」をクリックします。（もしくは「キャンセル」）をクリックして終了します。）

(5) ツアーリストのパターン名が変更されます。

パターンの変更を保存

カスタマイズパターンの設定を保存するには、以下の手順を参照してください。

図 3-18 パターンの変更を保存

(1)「ツアーリスト」タブをクリックします。

(2) ツアーリスト内の希望するパターンをクリックします。

(3) パターンレイアウトに変更を加えた後、「保存」ボタンをクリックします。

ツアーリストからカスタマイズされたパターンを削除

カスタマイズされたパターンをツアーリストから削除するには、以下の手順を参照してください。

図 3-19 ツアーリストからカスタマイズされたパターンを削除

(1)「ツアーリスト」タブをクリックします。

(2) 選択したパターンをクリックします。

(3)「削除」ボタンをクリックします。

(4) 削除されたパターンはツアーリストから削除されます。

パターン速度の変更

帯域幅はビューアの再生速度に影響を及ぼします。
画像再生が過大な帯域幅を必要とする場合、ビューア上の画像の再生は断続的かつ遅くなってしまいます。

機能パネルの右側にある 3 つの速度ボタンにより、帯域幅が不十分な場合に再生速度を改善します。

高速（ ）：白いフレームのアクティブビューアを含め、すべてのビューアがフルスピードで再生。（全フレームが再生）

中速（ ）：アクティブビューアはフルスピードで再生し、他のビューアは低速で再生。（重要なビューアのみ全フレームを再生可能）

低速（ ）：全ビューアが低速で再生。

[注意] CPU 稼動率が 100% に近いか、あるいは 100% に達した場合、システムはクラッシュを回避するため、パターンを中速で再生するよう制御されます。

[補足] ホットキー ‘ P' を押して、パターンのプレー速度を切り換えることが可能です。

パターン順序の変更

ツアー機能の実行中、ツアーはパターン順序にしたがって再生します。パターン順序を変更するには、以下の手順を参照してください。

図 3-20 パターン順序の変更

(1)「ツアーリスト」タブをクリックします。

(2) 希望のカスタマイズされたパターンアイコンをクリックします。

(3) アイコンをドラッグし、希望する位置にドロップします。

図 3-21

(4) ツアーリストに更新された順序が表示されます。

[補足] カスタマイズされたパターンが 12 以上の場合には、ユーザーはツアーリストの右側にあるスクロールバーをクリックして、希望のパターンを見つけることができます。

3.4.3 ツアーを実行

ツアー機能は、ツアーリスト内のカスタマイズされたパターンを連続的かつ周期的に再生します。ツアーを実行するには、以下の手順を参照してください。

図 3-22 **ツアーを実行**

(1)**「ツアーリスト」タブをクリックします。**

(2)**「ツアー」ボタンをクリックします。**

(3)**システムはツアーを自動的に実行します。**

3.5 ビューア

3.5.1 ビューアの概要

ビューアは HD NVR マネージャーの最も重要な要素です。

ビューアは様々なチャンネル（一般カメラ、PTZ カメラ、サブチャンネル、ROI、およびマップ）からの画像をディスプレイモードで再生するだけでなく、その他の画像検索、取り込み、検出機能など、複数の再生機能を提供します。

ビューアは、チャンネル画像、オンスクリーンディスプレイ（OSD）、および 4 つのインジケータから構成されています。ユーザーがサブチャンネルを設定または ROI 機能をアクティブにした際、ビューアは関連エリアを色つきの四角いフレーム内に表示します。

下の図は、ビューアに関連する詳細をすべて表示しています。

図 3-23 ビューアの概要

[補足] アクティブなパターンに複数のビューアがある場合、白いフレームのビューアがアクティブビューアと見なされます。

3.5.2 画像の再生

ビューア上で画像を再生するには、以下の手順を参照してください。

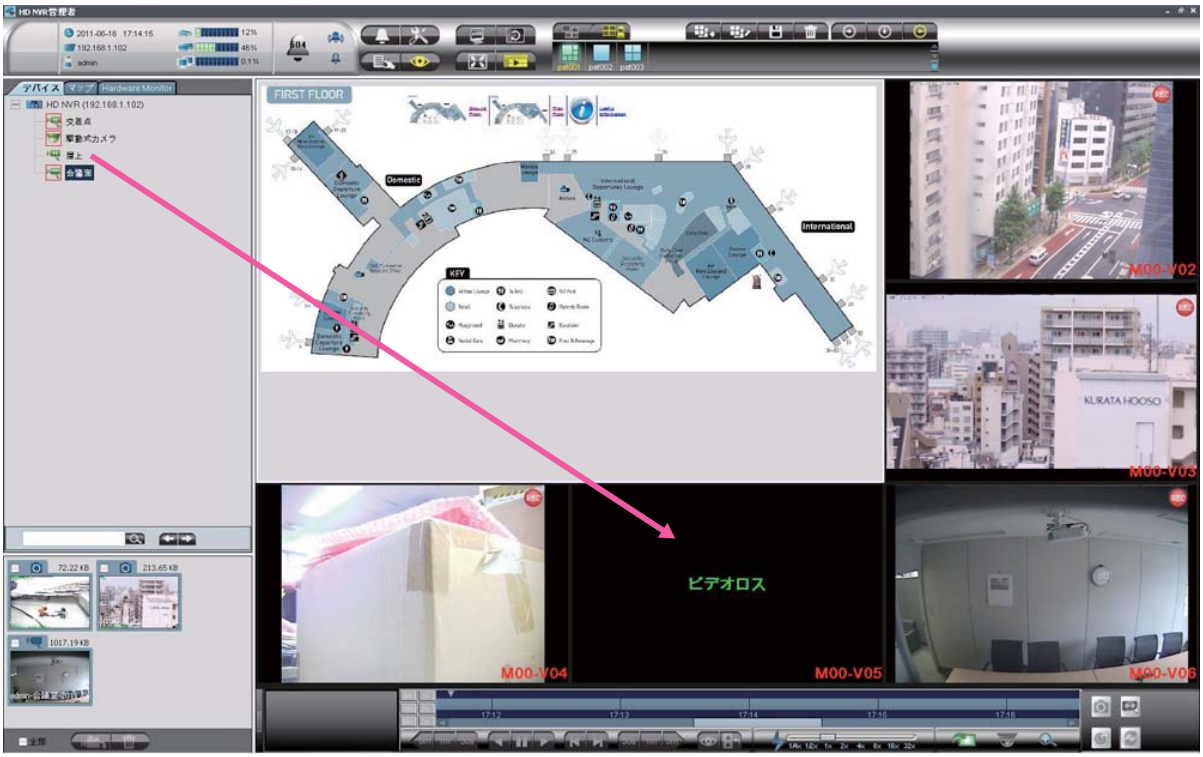

図 3-24 画像の再生

(1)「ディスプレイ」モードボタンをクリックします。

(2) カメラツリーパネルの「デバイス」をクリックします。

(3) カメラツリーから希望するチャンネルアイコンを選択します。（チャンネルアイコンの説明は 35 ページの「アイコンの状況」を参照してください）

(4) 希望するチャンネルアイコンをドラッグして、ビューア上にドロップします。

(5) ビューアはチャンネル画像を自動的に再生します。

[補足] 画面に 2 つ以上の画像が再生される場合、ユーザーはアクティブビューアをドラッグして他のビューア（ビューア 2）にドロップすることができます。2 つのビューアは画像位置を自動的に交換します。

- 画像再生中に「F9」ホットキーを押すと画像情報を表示することができます。表示する情報には以下が含まれます。

図 3-25

「ソース FPS」：1 秒当たりのソースフレーム数

「デコード FPS」：1 秒当たりのデコード（復号）フレーム数

「レンダー FPS」：1 秒当たりのレンダーフレーム数

「タイムスタンプ」：再生画像のタイムスタンプ

「待ち時間」：再生画像の待ち時間（レイテンシータイム）

「キューサイズ」：キューサイズ（待ち行列）

「解像度」：再生画像の解像度

「コーデック」：ビューアが使用中のコーデック

「ビットレート」：再生画像のビットレート

3.5.3 OSD 設定

OSD の設定により、ビューア上のディスプレイメッセージをオン / オフすることができます。

OSD 設定は、チャンネル名、タイムスタンプ、タイムライン、サブチャンネルの 4 つのメッセージを制御することができます。

- チャンネル名：チャンネル名はビューアの左上隅にあります。チャンネル名はチャンネルの画像ソースを示し、カメラツリーのチャンネル名と同じ名前です。オプションによりディスプレイの色を変更することができます。
- タイムスタンプ：タイムスタンプはビューアの左下隅にあります。タイムスタンプは再生画像の日付および時間を示します。オプションにより、ディスプレイの色と時間形式を変更することができます。
- タイムライン：タイムラインはビューアの下部にあるバーです。タイムラインバーは再生画像の再生、録画、およびアラームの状況を示します。
- サブチャンネル：サブチャンネルは対応カメラのみが表示します。ビューア上で、サブチャンネルは紫色の四角いフレーム内に表示されます。詳しくはセクション P55 「サブチャンネルからの画像を再生」を参照してください。

OSD 設定を変更するには、以下の手順を参照してください。

(1) ディスプレイモードで、「OSD 設定」ボタンを直接クリックします。表示 オプション ダイアログが表示されます。

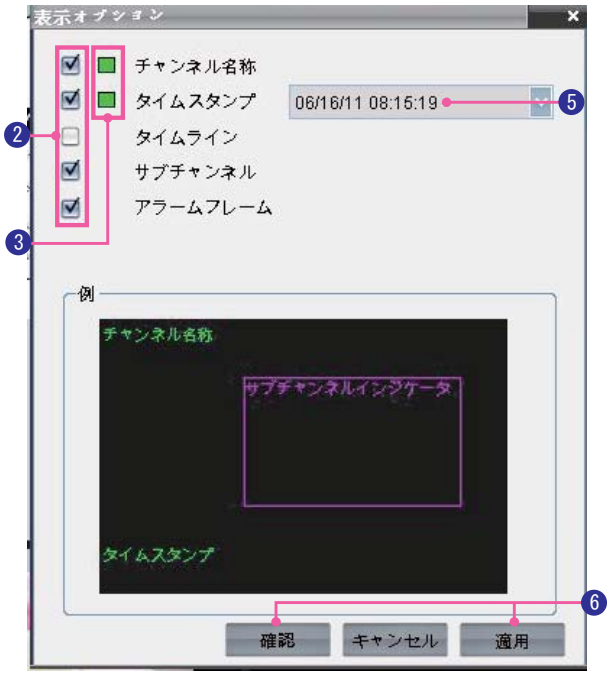

図 3-26

(2) ダイアログ内の希望するチェックボックスにチェックを入れます。ダイアログの下部にある見本パネルが結果を示します。

(3) チャンネル名またはタイムスタンプの色が適切に識別できないときは、チャンネル名のカラースクエアをクリックするとカラーダイアログが表示されます。

図 3-27

(4) カラーダイアログから希望する色をクリックし、「OK」をクリックします。

(5) ビューアのタイムスタンプを変更するには、タイムスタンプの右側にある時間形式のコンボボックスをクリックします。ビューアがタイムスタンプの新しい時間形式を表示します。

(6)「適用」をクリックして変更を確定します。「OK」をクリックして変更を確定し、ダイアログを閉じます。（もしくは「キャンセル」をクリックして変更を取消します。）

3.5.4 ビューアの最大化

この機能によりビューアを 1 × 1 パターンに最大化することができます。
再生画像がメガピクセルカメラからの場合、この機能によりユーザーは画像のより詳細部分を検出できるようになります。

ビューアを最大にするには、以下の手順を参照してください。

図 3-28 ビューアの最大化

(1) 希望するビューアが非アクティブの場合は、ビューアをアクティブビューアに設定します。

(2) マウスを右クリックすると、ポップアップメニューが現れます。

(3) ポップアップメニューのまたは「最大化」項目をクリックします。

図 3-29

（4）アクティブビューアは即座にサイズを 1 × 1 パターンに最大化します。

[補足]　アクティブビューアを直接ダブルクリックすると、ステップ 2 と 3 をスキップすることができます。最大化されたビューアをダブルクリックすると、元のパターンに戻ります。

[補足]　必要に応じ、ユーザーは「全画面」（ ）ボタンをクリックしてビューアを全画面モードで表示することができます。

3.5.5 画像比率の調節

本システムでは、表示比率をオリジナルの画像比率または延伸比率に変更することができます。画像比率を調節するには、以下の手順を参照してください。

図 3-30 画像比率の調節

(1) 希望するビューアが非アクティブの場合は、ビューアをアクティブビューアに設定します。

(2) マウスを右クリックすると、ポップアップメニューが現れます。

(3) マウスを 「ディスプレイ」項目に移動すると、サブメニューが現れます。

(4) サブメニューは 「画像アスペクト比」と「フルビューア」の 2 つのオプションを含みます。「画像アスペクト比」をクリックすると、画像はオリジナルの画像比率で表示されます。「ビューアをフィットさせる」をクリックすると画像は延伸され、ビューアの全可視領域にフィットします。

[注意] 全ビューアをオリジナルの画像サイズまたは延伸サイズに設定するには、102 ページの「NVR」を参照してください。

3.5.6 ビューアでマップを操作

ビューアは一般チャンネル画像だけでなく、HTML ベースのマップファイルも開くことができます。マップでは以下の 3 つの操作が可能です。

- ビューアでマップを開く
- マップからチャンネル画像を表示する
- マップにて DO ポイント値を変更する

ビューアでマップを開く

ビューアでマップを開くには、以下の手順を参照してください。

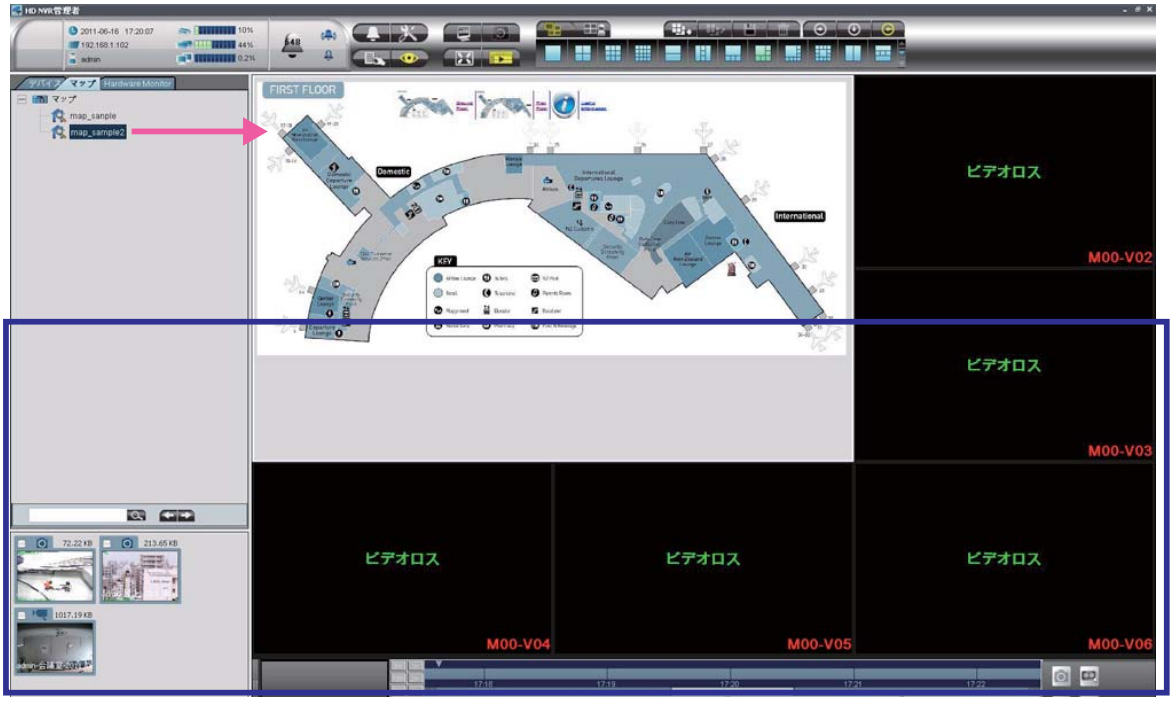

図 3-31 ビューアでマップを開く

(1) ディスプレイモードで、カメラツリー & マップパネルの 「マップ」タブをクリックします。

(2) マップツリーで、希望するマップアイコンをドラッグし、それをビューアにドロップします。

(3) マップがビューアに表示されます。

[補足] マップは HTML ベースのファイルです。マップのハイパーリンクをクリックするだけで、ビューアをブラウザとして実行することができます。

[補足] 同時進行中の画像とマップとを切り替えることができます。操作手順は 2 つの実行中ビューアの切り替えと同じです。

[注意] マップ内のデバイスの状況アイコンは、カメラツリーにあるアイコンと同じです。詳しくはセクション 35 ページの「アイコンの状況」を参照してください。

マップからのチャンネル画像を表示

マップからのカメラ画像を直接表示したい場合は、以下のステップにしたがってください。

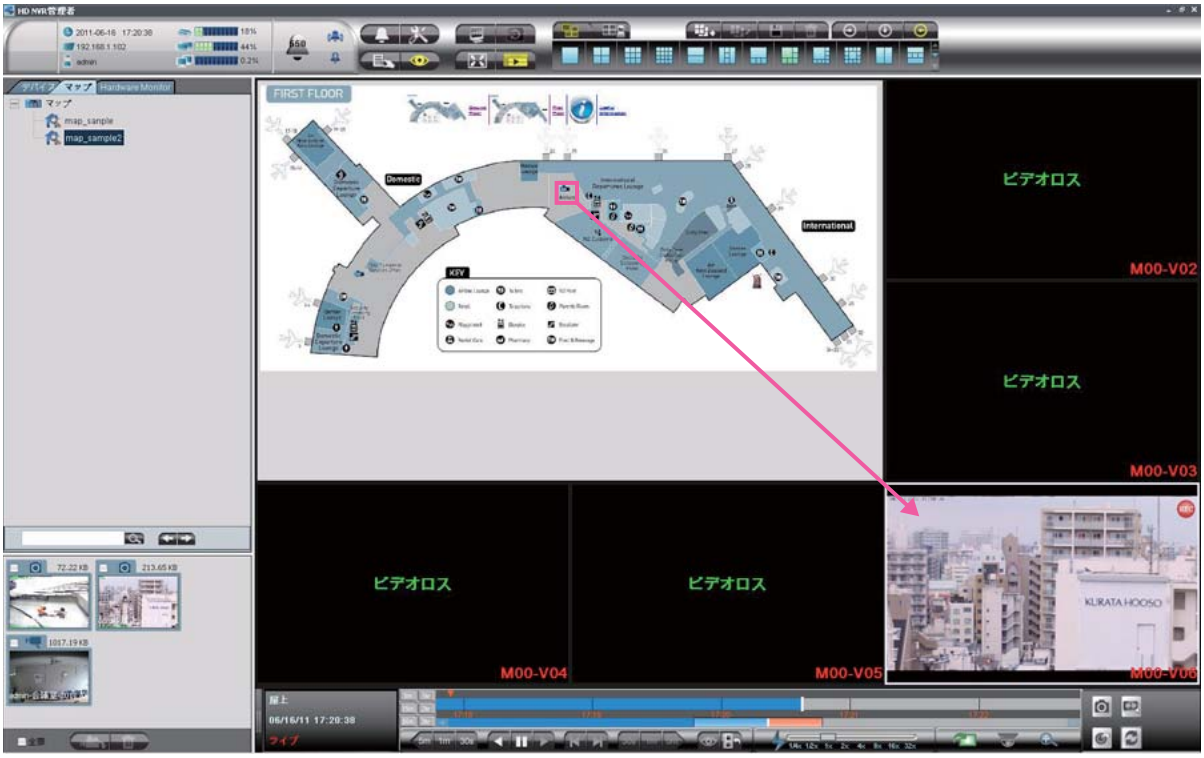

図 3-32 マップからチャンネル画像を表示

（1）マップ上の希望するカメラアイコンをクリックします。

（2）アイコンをドラッグして、別のビューアにドロップします。

（3）ビューアはチャンネル画像を即時に再生します。

3.5.7 サブチャンネルからの画像を再生

サブチャンネルは Arecont 3100 カメラのような一部の特定カメラによる特殊機能です。

サブチャンネルが起動している際は、カメラは完全な画像ストリーミングだけでなく、サブチャンネルからの画像によるストリーミングも送信します。これにより、サブチャンネルはシステムが直接再生および録画することができる独立したストリーミングとして認識されます。

サブチャンネルの画像を再生するには、以下の手順を参照してください。

(1)「ディスプレイモード」ボタンをクリックします。

(2) カメラツリーパネルの「デバイス」タブをクリックします。

(3) サブチャンネルのアイコンが隠れている場合は、アイコンを表示します。サブチャンネルアイコンをクリックします。

(4) アイコンをドラッグして、ビューアにドロップします。

(5) ビューアは自動的にサブチャンネルの画像を再生します。

[補足] サブチャンネルの画像をすばやく再生するには、「Ctrl」[コントロール] キーを押した状態で、ビューアのサブチャンネルフレームをドラッグし、それを別のビューアにドロップします。サブチャンネル画像が直ちに再生されます。

[補足] ビューアが 2 つのサブチャンネル領域を表示する場合は、フォーカスされる領域のフレームが赤で示されます。

3.5.8 PTZ カメラを再生

PTZ カメラは、水平または垂直方向のカメラの動きを補助するローテーションベース付きのカメラです。このカメラは、レンズの焦点を変更して拡張 / 縮小された画像も提供することができます。PTZ カメラの特徴として、つぎの 3 点が挙げられます。

- パン ：カメラレンズの水平方向の移動を制御する
- チルト ：カメラレンズの垂直方向の移動を制御する
- ズーム ：レンズの焦点を制御し、画像を拡大または縮小する

基本操作

ビューアを通して、接続されているすべての PTZ カメラを直接制御しすべての機能を実行することができます。

パン及びチルト

PTZ カメラのパン機能により、PTZ カメラのレンズは最大 360 度まで水平方向に回転することができます。PTZ カメラのチルト機能により、PTZ カメラのレンズは最大 180 度まで垂直方向に角度を変更できます。パンとチルト機能を組み合わせることで、ほぼすべての 3 次元空間をモニターすることができます。PTZ カメラをビューアから制御するには、以下の手順を参照してください。

図 3-33 PTZ カメラのパンおよびチルト機能

(1)「タイムスライダ」を開き、ビューアのモードを PTZ モードに変更します。

[補足] 「O」ホットキーを押して PTZ モードと正常モードとを切り替えることもできます。

(2) マウスをビューアの中心に動かします。マウスの左キーを押した状態で、マウスを希望の方向に移動させます。マウスが移動するにつれ、矢印の付いた赤い線が現れ、ビューア上の画像もそれに合わせて変わります。線の長さはマウスの移動距離によって異なります。マウスが遠くに移動すればするほど線は長くなり、PTZ カメラのレンズはより速く移動します。逆の場合、PTZ カメラのレンズはゆっくり移動します。線が水平の時は、PTZ カメラはパンを実行しており、ラインが垂直に伸びている時はチルトを実行しています。線が斜めに傾いている時は、PTZ カメラはパンとチルト機能を同時に実行しています。

図 3-34

(3) PTZ カメラのレンズが移動するに伴って、ビューアは動画を表示します。ビューアが希望の画像を示したら、マウスの左キーを放します。

ズーム イン / アウト

ズーム機能は PTZ カメラのレンズの焦点を制御します。ズームイン機能の実行中は画像は拡大され、ズームアウト機能の実行中は画像は縮小します。拡大画像または縮小画像の比率は、PTZ カメラの可変焦点レンズにより異なります。PTZ カメラのズームイン / アウト機能を操作するには、以下の手順を参照してください。

図 3-35 PTZ カメラのズーム イン / アウト機能

(1)「タイムスライダ」を開き、PTZ モードのアイコンをクリックします。

(2) 希望するビューアがアクティブビューアでない場合は、ビューアをアクティブに設定します。

図 3-36

(3) マウスをビューアに移動します。マウスのホイールをロールダウンして、画像をズームインします。（またはマウスのホイールをロールアップして、画像をズームアウトします。）画像が最適な比率になるまでロール ダウン / アップを続けます。

(4) 画像を最大限拡大するには、画像が拡大を止めるまでマウスのホイールをロールダウンし続けます。逆の場合も同様です。

プリセットに移動

この機能は、PTZ カメラが選択したプリセットの角度にレンズを向けるよう制御します。この機能を実行するには、以下の手順を参照してください。

図 3-37 プリセットに移動

(1)「タイムスライダ」を開き、PTZ モードのアイコンをクリックします。

図 3-38

(2) ビューア上でマウスを右クリックすると、ポップアップメニューが現れます。

(3) カーソルを 「「プリセットへ」項目に移動すると、サブメニューが現れます。

(4) サブメニューで希望するプリセットをクリックします。

(5) PTZ カメラのレンズは即座にプリセット角度にレンズを向け、ビューアは選択されたプリセット位置の画像を表示します。

プリセットを保存

カスタマイズしたプリセット位置を保存するには、以下の手順を参照してください。

図 3-39 プリセットへ保存

(1)「タイムスライダ」を開き、PTZ モードのアイコンをクリックします。

(2) 希望する画像がビューアに現れるまで PTZ カメラのパン、チルト、およびズーム機能を実行します。

(3) マウスを右クリックするとポップアップメニューが現れます。

(4)「プリセットを保存」をクリックします。「プリセットを保存」ダイアログが表示されます。

(5) ID 欄のコンボボックスをクリックし、プリセット ID を選択します。

(6) プリセットタグのテキストを入力します。

(7)「OK」をクリックしてダイアログを閉じます。

3.5.9 ROI の再生

ROI とは、特定範囲の画像を他のビューア上に分離して再生する部分読み出し機能です。ROI の作成を行うと黄色い長方形のフレームが画像に表示されます。長方形のフレームで指定した範囲が ROI の表示領域を表しています。高解像度のメガピクセルカメラに対して使用することで、より ROI の滑らかな移動と綺麗な画像を表現します

ROI の作成

ROI を作成するには、以下の手順を参照してください。

図 3-40 ROI の作成

（1）選択したビューア上でマウスを右クリックすると、ポップアップメニューが現れます。

（2）マウスを 「ROI」項目に移動すると、サブメニューが現れます。

（3）「ROI の作成」をクリックします。

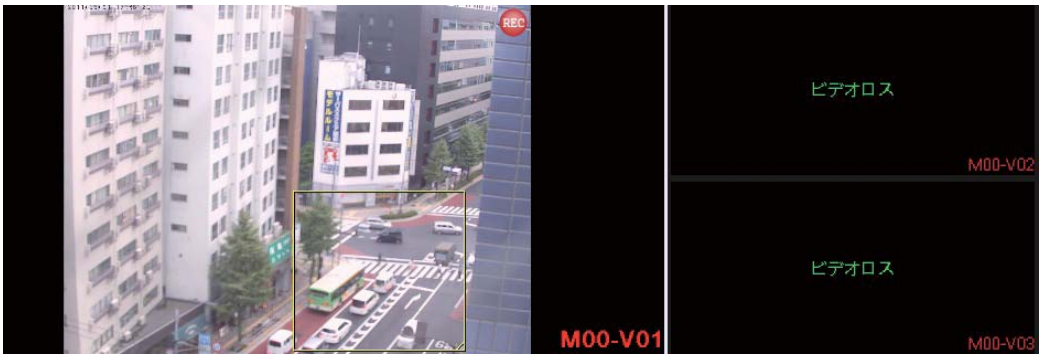

図 3-41

（4）黄色い長方形のフレームがビューア上に現れます。マウスを選択されたシーンの左上隅に移動し、長方形をビューア上にドラッグして選択したシーンをカバーします。

（5）「Ctrl」キーを押したまま黄色のフレームをドラッグして、それを他のビューアにドロップします。

（6）ドロップしたビューアに、そのビューアのアスペクト比で ROI の画像が再生されます。

[補足]　ROI 領域を移動させると、ROI ビューアも同様に移動します。

ROI を隠す

ROI の非表示を行いますと、オリジナルビューアに作成された黄色のフレームが全て隠されます。但し、他のビューアに映した映像は、そのまま表示されます。
ROI を隠すには、以下の手順を参照してください。

図 3-42 ROI を隠す

(1) ROI の表示されているビューア上でマウスを右クリックすると、ポップアップメニューが現れます。

(2) マウスを 「ROI」項目に移動すると、サブメニューが現れます。

(3)「ROI を隠す」をクリックします。

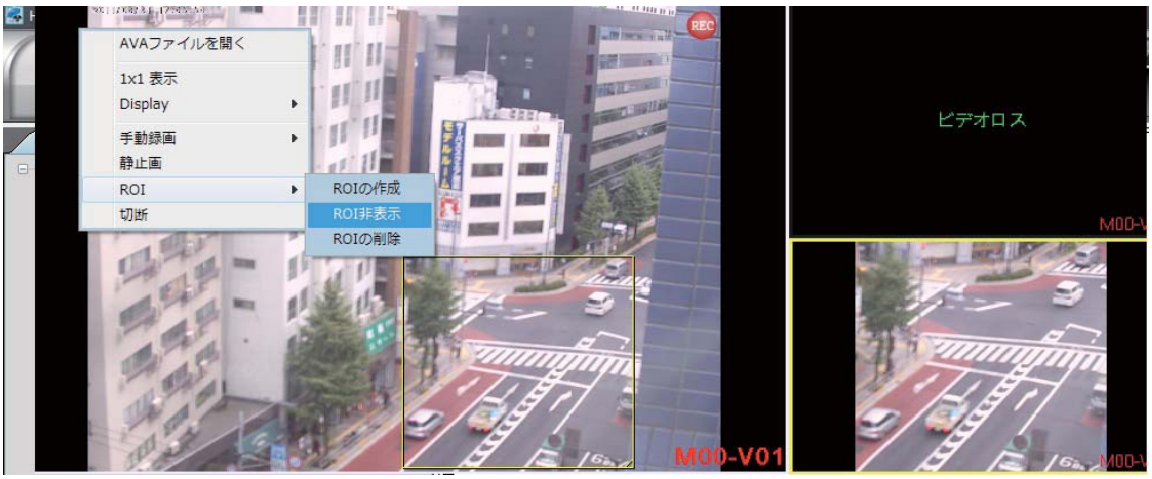

図 3-43

(4) ROI が隠されます。

ROI の削除

ROI の削除を行いますと、選択した黄色のフレームが削除されます。また、他のビューアに映していた映像も削除されます。
ROI を削除するには、以下の手順を参照してください。

図 3-44 ROI の削除

(1) 削除したい ROI をクリックします。

(2) ROI の表示されているビューア上でマウスを右クリックすると、ポップアップメニューが現れます。

(3) マウスを 「ROI」項目に移動すると、サブメニューが現れます。

(4)「ROI を削除」をクリックします。

(5) ROI がビューアから削除されます。

3.5.10 デジタルズームモード（ePTZ）

デジタルズームモードは、画像をデジタル処理してズームアップする機能です。ePTZ モードとも呼ばれ、メガピクセルカメラの高画像解像度特性を利用して PTZ カメラのようにパン、チルト、及びズームとして機能します。デジタルズームモードを有効にすると画像情報をより詳細に表示し、マウスで PTZ 機能のように画像を操作することができます。

デジタルズーム モードで操作するには、以下の手順を参照してください。

図 3-45 デジタルズームモードで実行

（1）タイムスライダを開き、デジタルズームモードのアイコンをクリックします。

[補足] 「Z」ホットキーを押すと、ビューアは通常モードとデジタルズームモードを切り替えます。

（2）希望するビューアをクリックし、アクティブビューアとして設定します。

（3）画像をズームインするには、マウスのホイールをロールダウンします。すると画像は拡大されます。画像をズームアウトするには、マウスのホイールをロールアップします。画像は縮小されます。

（4）マウスの左キーを押したまま、マウスをご希望の方向に移動します。ビューアは対応する画像を表示します。

（5）デジタルズームモードを閉じるには、「タイムスライダ」の通常モードをクリックします。

3.5.11 画像のスナップショット

ユーザーは、ビデオクリップまたはストリーミングを再生中に画像をキャプチャすることができます。キャプチャした画像は用途に合わせて保存または印刷することができます。

画像のスナップショットを撮るには、以下の手順を参照してください。

図 3-46 画像のスナップショット

(1) 希望するビューアが非アクティブの場合は、ビューアをアクティブビューアに設定します。

(2) マウスを右クリックすると、ポップアップメニューが現れます。

(3) ポップアップメニューの「静止画」をクリックします。

図 3-47

(4) ビューアの再生画像はキャプチャされ、一時的にスプーラに保存されます。

(5) 画像を印刷または保存するには、82 ページの「スプーラ」を参照してください。

[補足] 「F11」または「E」ホットキーを押すだけでスナップショット機能をすばやく実行できます。または、タイムスライダのスナップショットボタンをクリックすることもできます。

3.5.12 手動録画

手動録画機能を実行するには、以下の手順を参照してください。

図 3-48 手動録画

(1) 希望するビューアが非アクティブの場合は、ビューアをアクティブビューアに設定します。

(2) マウスを右クリックすると、ポップアップメニューが現れます。

(3) マウスを「手動録画」項目に移動すると、ポップアップメニューの横にサブメニューが現れます。

(4) サブメニューには、30 秒、10 分、30 分、時間指定の 4 項目があります。希望する項目をクリックして録画を手動で開始します。

[注意] 「F10」または「R」ホットキーを押すと、手動録画機能が直ちに実行されます。手動録画ダイアログが現れたら、録画時間を入力し、「スタート」をクリックします。

図 3-49

(5) タイムラインまたはタイムスライダがオンになっている場合は、手動録画バーがタイムラインまたはタイムスライダ上に表示されます。

(6) ユーザーはタイムスライダから録画クリップを再生することができます。詳しい操作方法は、75 ページの「過去のビデオを再生」を参照してください。

3.5.13 AVA ファイルを開く

ビューアは外部ビデオファイルを開くことができます。本システムは現在 AVA ファイルのみ対応しています。AVA ファイルを開くには、以下の手順を参照してください。

図 3-50 AVA ファイルを開く

(1) 選択したビューア上でマウスを右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。

(2)「AVA ファイルを開く」をクリックします。

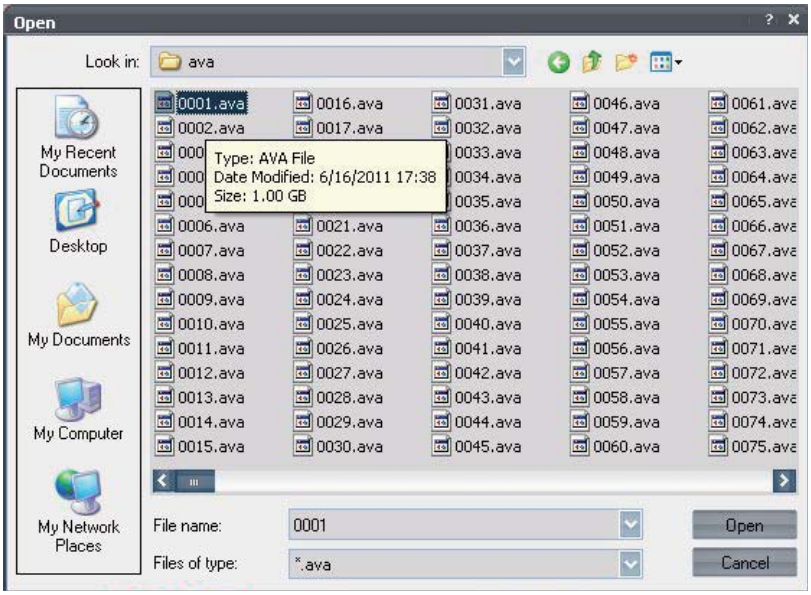

図 3-51

(3)「ファイルを開く」ダイアログが現れます。ハードディスクを参照し、希望のファイルをクリックします。選択したファイルの名前がファイル名欄に表示します。

(4)「開く」をクリックします。

(5) ビューアは選択した AVA ファイルを直接再生します。

3.5.14 コーディックの切り替え

一部のカメラはデュアルコーデック機能をサポートします。
これはカメラが再生および録画において異なる圧縮形式を実行できることを意味します。
デュアルコーデック機能を起動するには、カメラはあらかじめ構成モードでデュアルコーデック設定を完了している必要があります（113 ページの「カメラ / チャンネル」を参照 をしてください）。以下はコーデック圧縮を変更する手順を説明しています。

（1）デュアルコーデックカメラに接続されたビューアを右クリックすると、ポップアップメニューを表示します。

（2）カーソルを「コーデックを切り替える」項目に移動すると、サブメニューを表示します。

（3）カメラのサポート特性によって、サブメニューには Auto、jpeg、mpeg4、H.264 の 4 つのオプションがあります。以下の説明を参照してください

自動 ：ビューアはカメラのビデオ形式設定に基づいて圧縮形式を設定
Jpeg ：ビデオ圧縮形式として Motion JPEG を使用
Mpeg4 ：ビデオ圧縮形式として mpeg4 を使用
H.264 ：ビデオ圧縮形式として H.264 を使用

（4）コーデックが修正されると帯域幅および画質が変わります。

[注意] コーデックを切り替えた後も、画像の差異を見分けづらいときがあります。「F9」ホットキーを押してチャンネル画像情報を表示し、コーデックおよびビットレート値をチェックしてください。

3.5.15 画像送信の切断

画像送信を切断するには、以下の手順を参照してください。

図 3-52 **画像送信の切断**

（1）希望するビューアをクリックし、アクティブビューアとして設定します。

（2）マウスを右クリックするとポップアップメニューが現れます。

（3）ポップアップメニューの「切断」項目をクリックします。

（4）ビューアが画像の送信を切断します。

3.6 タイムスライダ

3.6.1 タイムスライダについて

タイムスライダはビデオをビューアで再生するためのコントロールパネルです。
タイムスライダはビデオの再生中に、再生情報及び時間軸上での再生位置を表示します。
さらに、タイムスライダの再生機能により、NVR に保存された過去のビデオの早送りまたは巻き戻し再生をすることができます。
タイムスライダの速度制御により再生速度のコントロールも可能です。必要に応じ、ビデオグラフィックまたはクリップを、印刷前のファイルバッファであるスプーラ にエクスポートすることもできます。

タイムスライダを表示するには、「ビデオコントロールパネル」ボタンをクリックします。タイムスライダがパターンレイアウトの下端に表示されます。タイムスライダ以下のように構成されています。

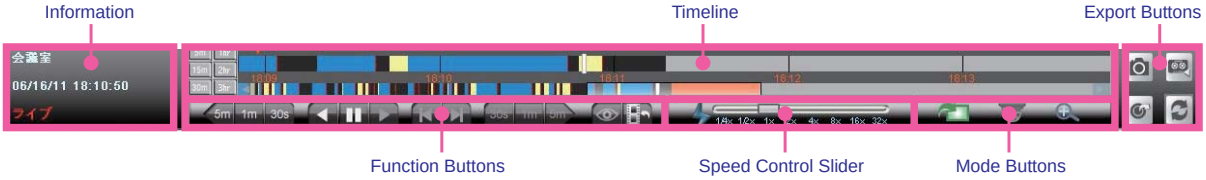

図 3-53 タイムスライダ

情報パネル

- チャンネル名 ：カメラツリーに表示されているチャンネル名
- カーソル タイムスタンプ ：ビデオのタイムスタンプ
- アクション ：次の項目を含むビューアの再生状況

  ライブ：ビューアはライブビデオを再生中です。

  << nx：ビデオの巻き戻し再生速度、n の値は 0.25、0.5、1、2、4、8、16、および 32 のいずれかです。

  >> nx：ビデオの早送り再生速度、n の値は 0.25、0.5、1、2、4、8、16、および 32 のいずれかです。

  >| ：次のフレームにジャンプします。

  |<：前のフレームにジャンプします。

  ||：ビデオを一時停止します。

  ROI：ビデオが ROI であることを示します。

[補足] ビューアにフォーカスがあるとき、ユーザーはスペースキーを押してタイムスライダを表示または隠すことができます。

タイムライン

タイムラインはビデオ再生の時間軸です。タイムラインはビデオの参照情報を表すもので、時間座標、アラームマーク、録画セグメント、および再生インデックスを表示します。タイムラインは上方タイムラインと下方タイムラインから成ります。タイムラインの左側には、上方タイムラインの時間間隔を変更するための期間ボタンがあります。

以下はタイムラインの説明です。

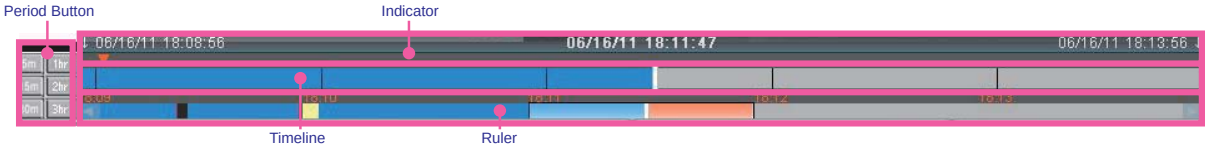

図 3-54

- 「期間ボタン」：タイムラインの合計時間を迅速に変更するためのボタン。5m（5 分）、15m（15 分）、30m（30 分）、1hr（1 時間）、2hr（2 時間）、および 3hr（3 時間）の 6 つのボタンがあります。
- 「上方タイムライン」：3 つの部分に分かれます。主要タイムラインは時間の目盛りがついた濃紺のバーです。次の例に示されるように、主要タイムラインは、接続中のチャンネルの録画ビデオ情報をすべてアクティブビューアに表示します。主要タイムライン上の黒いバーは押しピンの設定機能を提供し、ビデオクリップをスプーラにエクスポートすることができます。主要タイムラインの下にある黒のバーは時間の単位を示します。

[注意] 上方タイムラインを右クリックするとポップアップメニューを表示します。「カーソルへ」項目をクリックすると、上方タイムラインが再生インデックスの位置へ移動します。

- 「下方タイムライン」：再生インデックスの位置、及び長い時間軸における上方タイムラインの位置および長さを示します。
- ルーラ：ルーラは、主にピリオドボタンの長さに対応する時間の長さです。ルーラのビデオインデックスは、全ルーラエリア内のタイムラインの位置と長さを示します。

[注意] タイムスライダを右クリックすると、ポップアップメニューが現れます。「定規を表示」もしくは「ネイルバーを表示」オプションからチェックを外し、ルーラまたはインディケータを隠します。
ルーラまたはインディケータを表示するにはチェックを入れてください。

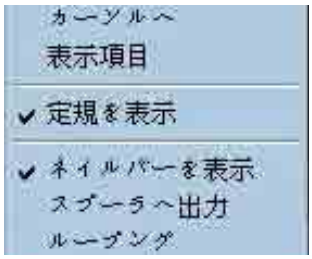

図 3-55

- ボタン：ボタンはタイムラインの下にあります。ボタンには、ビデオ再生のための操作ボタンと、再生インデックスを迅速に移動するためのジャンプボタンの 2 つのグループがあります。以下はボタン機能の説明です。

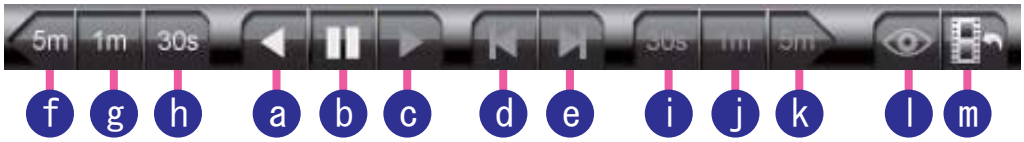

図 3-56

操作ボタン

a. ビデオの巻き戻し再生

b. ビデオの一時停止

c. ビデオの早送り再生

d, 前のフレームにジャンプ

e, 次のフレームにジャンプ

ジャンプボタン

f. 再生インデックスを 5 分前に移動

g. 再生インデックスを 1 分前に移動

h. 再生インデックスを 30 秒前に移動

i. 再生インデックスを 5 分後に移動

j. 再生インデックスを 1 分後に移動

k. 再生インデックスを 30 秒後に移動

l. ライブビデオを再生

m. 再生インデックスを特定の時間に移動

- 速度制御スライダ：速度制御スライダにより、過去のビデオを再生する際の再生速度を変更できます。

- モードボタン：3 つの操作モード―ビューアのモード（通常モード、PTZ モード、およびデジタルズームモード）を変更するためのボタンです。

- エクスポートボタン：この 2 つのボタンにより、ご希望のグラフィックやビデオをスプーラにエクスポートすることができます。
  スナップショット （　）－ビューアからスプーラに画像をエクスポートします。
  スプーラにエクスポート （　）－ビデオクリップをスプーラにエクスポートします。

3.6.2 ビデオの検索

過去のビデオ再生インデックスを見つけるには、4 つの検索方法があります。

- 「移動」ボタンを使用
- 期間ボタンを使用
- ルーラを使用
- ジャンプボタンを使用

例：過去のビデオの再生インデックスが 11 時間 57 分前の場合、以下の手順で検索できます。

期間ボタンを使用

図 3-57 ビデオを期間ボタンによって検索

(1)「5 分間」ボタンをクリックします。

(2) 再生インデックスをタイムラインの最初に移動します。

(3)「3 時間」をクリックします。

(4) 再生インデックスを右に移動し、座標を 57 分で停止します。

(5) ビューアは過去のビデオを即時再生します。

「移動」ボタンを使用

図 3-58 ビデオを「移動」ボタンによって検索

(1)「移動」ボタンをクリックします。

図 3-59

(2)「移動」ダイアログが表示されます。新しい再生インデックスの正確な日付と時間を「移動」欄に入力します。

(3)「確認」をクリックします。

(4) 再生インデックスはタイムラインの新しい位置に移動します。

ルーラを使用

図 3-60 ビデオをルーラによって検索

（1）目標座標が現れるまでビデオインデックスを左に移動し続けます。

（2）目標座標上で、タイムラインをクリックします。

（3）ビューアは過去のビデオを即時再生します。

ジャンプボタンを使用

図 3-61 ビデオをジャンプボタンによって検索

（1）目標座標が現れるまで、左側にあるジャンプボタン 「5m」をクリックし続けます。

（2）目標座標上で、タイムラインをクリックします。

（3）ビューアは過去のビデオを即時再生します。

[補足]　マウスのローラーをタイムライン上に移動すると、カーソルの置かれた位置についての日時メッセージがタイムラインに表示されます。

3.6.3 過去のビデオを再生

チャンネルがデータを記録した時のみ、ビューアは過去のビデオを再生することができます。過去のビデオを再生するには、以下の手順を参照してください。

図 3-62 過去のビデオを再生

(1) 録画中のビューア をクリックします。

(2) タイムスライダが隠れている場合は、タイムスライダを表示させます。

(3) 70 ページの「タイムスライダ」を参照し、タイムライン上のご希望の再生インデックスを見つけます。

(4) タイムインデックスをダブルクリックすると、ビューアが過去のビデオの再生を開始します。

(5) ビデオを巻き戻し再生するには、逆再生ボタンをクリックします。

(6) 再生速度を変えるには、速度スライダをご希望の速度に移動します。
情報パネルのアクションテキストが再生速度を表示します。

[補足] カーソルを下方タイムライン内で移動している際に、時々再生インデックスが消えることがあります。タイムラインを右クリックすると、ポップアップメニューを表示します。「インデックスへ」をクリックして、タイムラインを再生インデックスの位置に移動します。

(7) 画像は新しく指定された速度で再生されます。

3.6.4 スプーラへエクスポート

過去のビデオクリップをスプーラにエクスポートするには、以下のステップを参照してください。

図 3-63 **スプーラへエクスポート**

(1) 75 **ページの「過去のビデオを再生」を参照し、過去のビデオを再生します。**

(2)**「スプーラにエクスポート」ボタンをクリックします。（もしくは押しピン内でマウスを移動し、左のキーを右クリックします。すると「スプーラにエクスポート」項目が表示されます。）**

図 3-64

(3) **ビデオクリップファイルがスプーラにエクスポートされます。**

(4) **続く手順については** 82 **ページの「スプーラ」を参照してください。**

3.6.5 同期再生

同期再生機能によって、複数の再生中の画像の時間を同期することができます。
複数のカメラを共通の場所にインストールされている場合は、すべてからイメージを同期カメラ位置で、ユーザー別のビュー ポイントの特定の時点での監視の場所を提供します。同期再生を実行するには、次の手順を参照してください。

（1）特定のチャネル、デバイス ツリーからドラッグし、ビューアにドロップします

（2）録画画像を再生するすべての選択されているビューアを設定します。

（3）すべてのビューアを選択し、再生中のインデックスを希望する時間、時間スライダを移動します。

（4）画像の再生時間を同期するには、「同期再生」ボタンをクリックします。

3.6.6 ビデオループ

「ビデオループ」間隔内でビデオ クリップを繰り返し再生することができます。「ビデオループ」を実行するには、次の手順を参照してください。

（1）ビューアという目標チャンネルを使用します。

（2）間隔の開始時刻が表示されるまで、インデックス、時刻のスライダを移動します。

（3）間隔のという時間に 1 つのピンを移動します。

（4）間隔の終了時に、次のピンを移動します。

（5）「ビデオループ」ボタンをクリックして、ビデオループを再生します。

3.6.7 タイムラインの記号 / 文字色の変更

タイムラインの記号及び文字の色が互いに酷似している場合、ユーザーは以下の手順にしたがって記号 / 文字色を変更することができます。

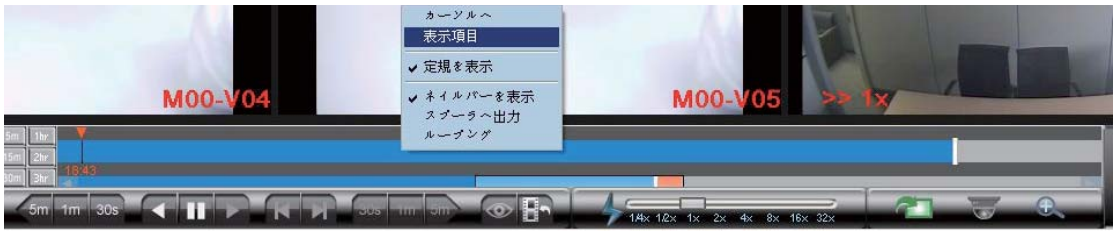

図 3-65 タイムラインの記号 / 文字色の変更

(1) 上方タイムラインを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。「オプションを表示」をクリックして、タイムラインのカラーパネルを開きます。

図 3-66

(2) カラーパネルには、アラームインデックス、録画、モーション活動、アラーム録画、手動録画、およびビデオロスの 6 つのオプションがあります。希望のオプションをタイムラインに表示する、または隠すには、オプションのチェックボックスにチェックをいれるかチェックを外します。

(3) 選択されたオプションのカラースクエアをクリックします。カラーダイアログが現れます。

図 3-67

(4) 新しいカラーを選択します。

(5) 「OK」をクリックします。これでカラーパネルで選択した項目の色に変更されます。

(6) カラーパネルを閉じると、修正された記号 / 文字の色に変更されます。

3.6.8 メガプレイヤの実行

メガプレイヤの概要

メガプレイヤはユーザーが AVA ファイルを再生するのをサポートします。メガプレイヤは、タイムスライダの追加された独立したビューアのように見えます。下図はメガプレイヤの主要要素を表示しています。

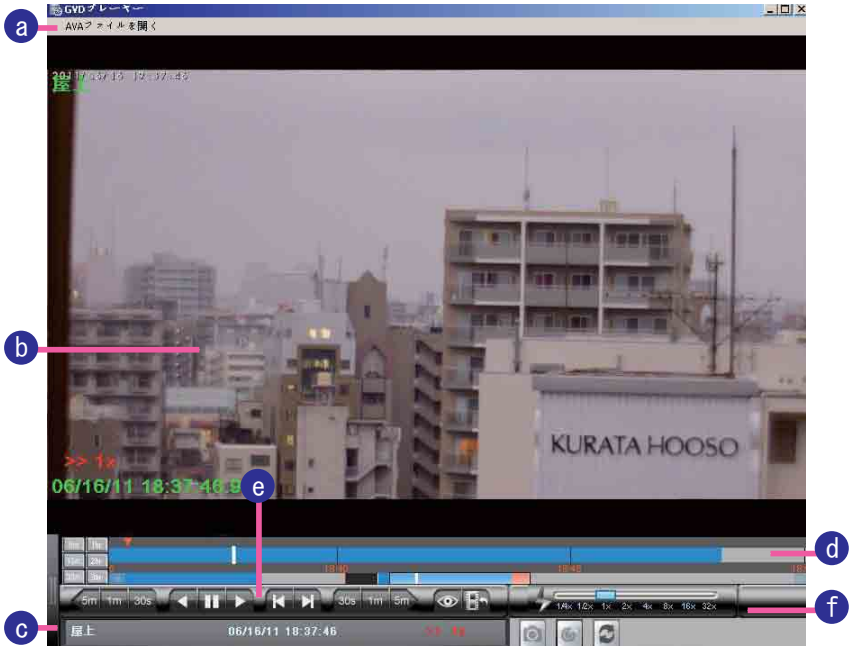

図 3-68

a. メニュー

b. ビューア

c. 情報パネル

d. タイムライン

e. 操作ボタン

f. 速度スライダ

[補足] ボタン操作についての詳細は、75 ページの「過去のビデオを再生」を参照してください。

AVA ファイルをメガプレイヤで再生

AVA ファイルをメガプレイヤで再生するには、以下の手順を参照してください。

図 3-69 AVA ファイルをメガプレイヤで再生

(1) メガプレイヤを実行するには、Windows プラットフォームで「スタート」＞「全てのプログラム」＞「ジーニアスビジョン デジタル」＞「HD NVR」＞「メガプレイヤ」をクリックします。

(2) 表示されたメガプレイヤ画面にて、「AVA ファイルを開く」メニュー項目をクリックします。

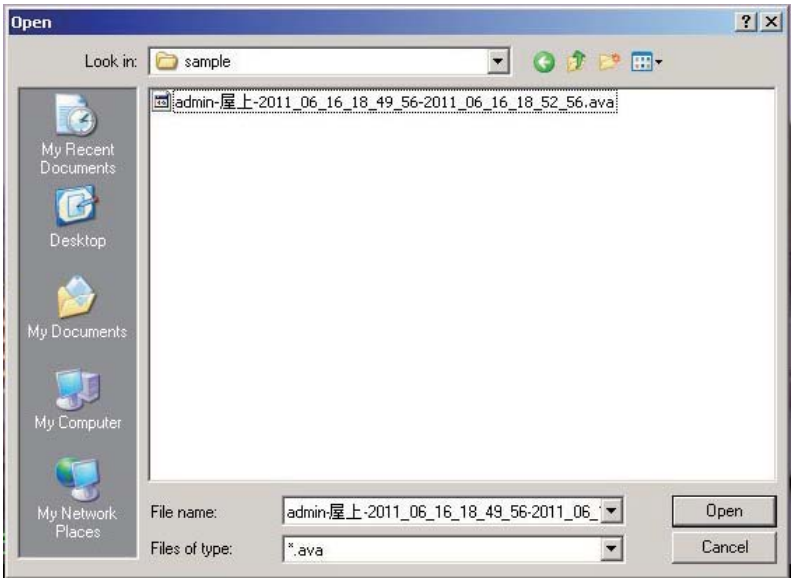

図 3-70

(3)「ファイルを開く」ダイアログが現れます。ファイルのディレクトリを変更し、正しいファイルを見つけます。「開く」をクリックし、AVA ファイルを開きます。

(4) メガプレイヤが AVA ファイルを即時再生します。

3.7 スプーラ

スプーラは画面左下隅にあります。ビデオクリップがスプーラにエクスポートされると、他のストレージデバイスにエクスポートする前に、スプーラはキャプチャされた映像およびビデオクリップのプレビュー機能を提供します。

3.7.1 画像の閲覧

エクスポートされた映像をスプーラで見るには、以下の手順を参照してください。

図 3-71 画像をスプーラで閲覧

(1) スプーラにリストされている中から、ご希望のカメラアイコン付き項目をクリックします。

(2) 選択した項目の小さい画像をダブルクリックします。

(3) 実際の映像が画面に表示されます。

3.7.2 ビデオクリップの閲覧

エクスポートされたビデオクリップをスプーラで見るには、以下のステップを参照してください。

図 3-72 **ビデオクリップをスプーラで閲覧**

(1) スプーラの中から、希望のフィルムアイコン付き項目をクリックします。

(2) 選択した項目の小さい画像をダブルクリックします。

図 3-73

(3) ビデオクリップはメガプレイヤで再生されます。

(4) メガプレイヤは、独立したタイムスライダのついたビューアのように見えます。タイムスライダの操作についての詳細は、70 **ページの「タイムスライダ」を参照してください。**

3.7.3 画像またはビデオファイルを保存

ご希望の項目を USB メモリのような他のストレージデバイスに保存するには、以下の手順を参照してください。

図 3-74

(1) 希望する項目のチェックボックスにチェックを入れます。

[補足] 「全てを選択」チェックボックスにチェックを入れるとスプーラの全項目が選択されます。

(2) スプーラの下端にある「「エクスポート」アイコンをクリックします。「保存先」ダイアログが表示されます。

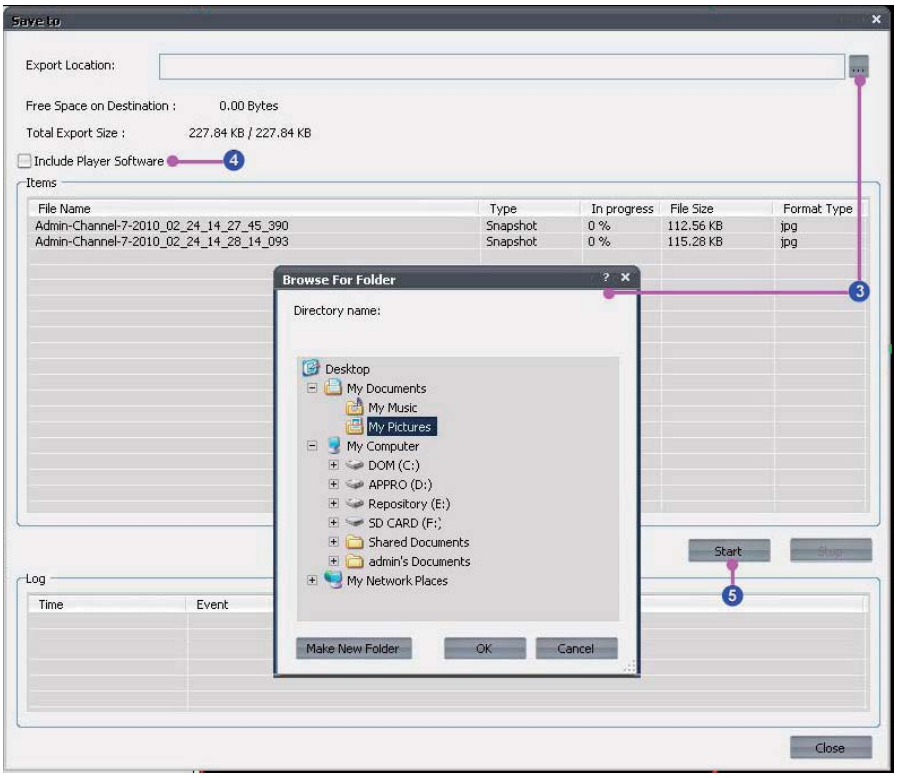

図 3-75

(3)「…」ボタンをクリックして出力パスを設定します。

(4) 選択した項目がビデオクリップなら、「メガプレーヤーを組み込む」のチェックボックスにチェックを入れます。このオプションにより、ビデオクリップを再生する前に自動的にメガプレイヤがインストールされます。

(5)「スタート」をクリックします。「項目」表がダウンロード中のファイルの関連情報を表示します。

(6) ダウンロード過程が完了したら、ダイアログを閉じます。

3.7.4 スプーラのファイルを削除

スプーラ内の項目を削除するには、以下の手順を参照してください。

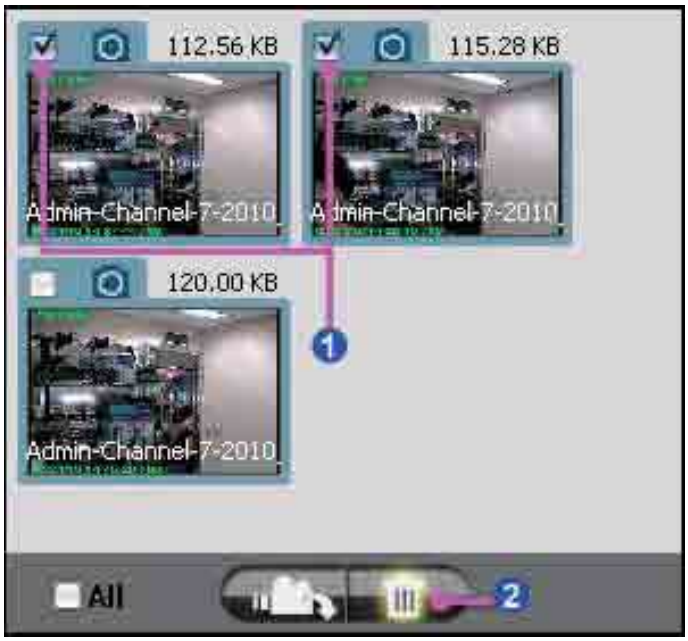

図 3-76 スプーラのファイルを削除

（1）希望する項目のチェックボックスにチェックを入れます。

[注意] 「全てを選択」チェックボックスにチェックを入れるとスプーラの全項目が選択されます。

（2）スプーラの下端にあるまたは「削除」アイコンをクリックします。

図 3-77

（3）「選択項目を削除しますか？」という警告メッセージが現れます。

（4）「Yes」をクリックして確認します。

（5）選択した項目がスプーラから削除されます。

4. アラーム & イベントモード

4.1 アラームモード

アラームモードでは、システムが作成したすべてのアラームを確認し、すべてのアラームをコントロールすることが出来ます。
アラームモードは 3 つの部分で構成されています。画面の左上隅にある検索条件パネルは、ユーザにアラーム検索機能を提供します。
スプーラは左下隅にあります。
タイムスライダ付きのビューアは検索条件パネルの横にあり、アラーム画像を表示します。
アラームリストはビューアの下にあり、システムが作成したすべてのアラームを表示します。

4.1.1 アラームに対処

発報されたアラームは、アラームリストに記載されます。
ポップアップ機能がトリガーされると、アラームは特定パターンのレイアウトで表示され、画面上で数秒間点滅し続けます。
ポップアップアラームの作成についての詳細は、P142 「アラーム規則」を参照してください。

アラームモードにはアクティブ、保留、および完了という順で 3 つのアラーム状況があります。アラームがシステムによって発報された状態は「「アクティブ」と呼ばれます。確認も操作もされていないアクティブのアラームは、アラームリストに記載されます。

ユーザーがアラームを確認した後、いかなる操作（例えばコメントの掲載）も加えていない場合、あるいはアラームの理由が自動的に取り除かれている（例えばビデオ喪失アラームが自動的に再接続されているなど）際、アラームの状況は「保留」となります。ユーザーは随時保留状態のアラームを見ることができます。アラームリストの保留アラームをダブルクリックすると、受信確認のダイアログが表示されます。

受信確認のダイアログが表示されたら、ユーザーはダイアログにコメントを入力するなどの操作をすることができます。操作が加えられた後に「承認」、そして「終了」をクリックします。アラームの状況は 「完了」となり、アラームはアラームリストから取り除かれます。

[補足]　すべての完了したアラームを検索するには、「アラーム検索」機能を実行します。

4.1.2 ポップアップアラームの ON/OFF

図 4-1 ポップアップアラームの ON/OFF

システムタブにあるポップアップアラームアイコンはトグルボタンで、ポップアップアラームをオン / オフすることができます。ポップアップアラームをオフにするにはアイコンをクリックするだけです。これでポップアップアラームが無効になります。ポップアップアラームをオンにするには、アイコンをもう一度クリックします。これでポップアップアラームが有効になります。

4.1.3 アラーム音の ON/OFF

図 4-2 アラーム音の ON/OFF

システムタブにあるアラーム音アイコンはトグルボタンで、アラーム音をオン / オフすることができます。アラーム音をオフにするには、アイコンをクリックします。これでアラーム音はオフになります。アラーム音をオンにするには、アイコンをもう一度クリックします。これでアラーム音が有効になります。

4.1.4 アラームの検索

アラームモードを使用して、さまざまな検索条件により特定のアラームを探すことができます。アラームを検索するには以下の手順を参照してください。

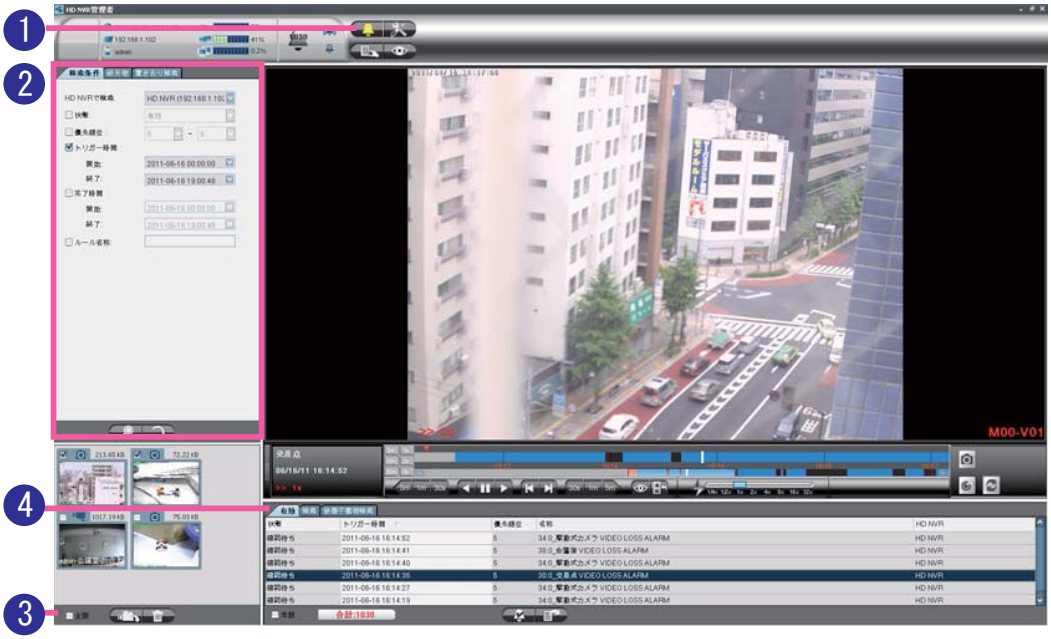

図 4-3 アラームの検索

(6)「アラームモード」ボタンをクリックします。

(7) または「HD NVR で検索」フィールドのドロップダウン ボックスをクリックし、HD NVR 名を選択します。アラームモードには 5 つの検索条件があります。ご希望のオプションのチェックボックスにチェックを入れ、検索条件の値を設定します。オプションには以下が含まれます

「状態」：アラーム状況で検索

「優先度」：アラーム優先度で検索

「トリガー時間」：発報された日付および時間で検索

「完了時間」：完了した日付および時間で検索

「ルール名称」：アラーム規則名で検索

[注意] 複数の検索条件を同時に選択できます。

[注意] 「ルール名称」オプションはアラーム規則名を示します。その値は大文字と小文字を区別せず、また規則名の一部であっても検索できます。例えば、「閉散時モーションアラーム」という規則名がある場合、「モーションアラーム」または「閉散時モーション」という値は有効です。しかし、「時間アラーム」という値は無効です。

(8)「検索」ボタンをクリックします。(もしくは「リセット」ボタンをクリックして、新規検索を再スタートします。)

(9) 検索結果はアラームリストに表示されます。

4.1.5 アラームの受信確認

アラームの受信確認

図 4-4 **アラームの受信確認**

(1) アラームリストにあるアクティブまたは保留のアラームをダブルクリックします。

図 4-5

(2)「アラームの詳細」ダイアログが現れるので、コメント欄にコメントを入力します。

[注意] コメント欄が空白のままだとプロセスを終了することができません。

(3)「完了」をクリックします。ダイアログは次のアラームの詳細を表示します。

(4)「閉じる」をクリックします。これでアラームはアラームリストから除去されました。

グループ受信確認機能

図 4-6 複数のアラームを合わせて受信確認する

（1）アラームリストでご希望のアラームのチェックボックスにチェックを入れます。すべてのアラームを選択するには、「全て」のチェックボックスにチェックを入れます。

（2）「完了」をクリックします。

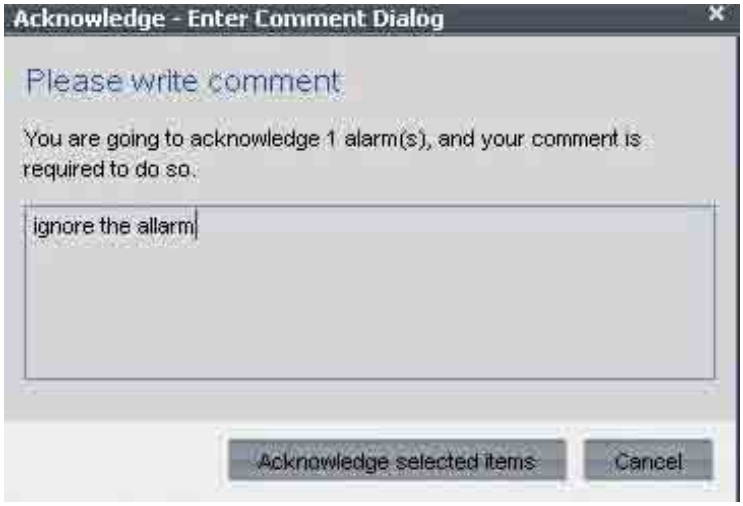

図 4-7

（3）「複数のアラームを完了する」ダイアログが現れます。コメント欄にコメントを入力し、「OK」をクリックします。

（4）選択したすべてのアラームがアラームリストから取り除かれます。

4.1.6 アラームのエクスポート

検索結果をエクスポートするには、以下の手順を参照してください。

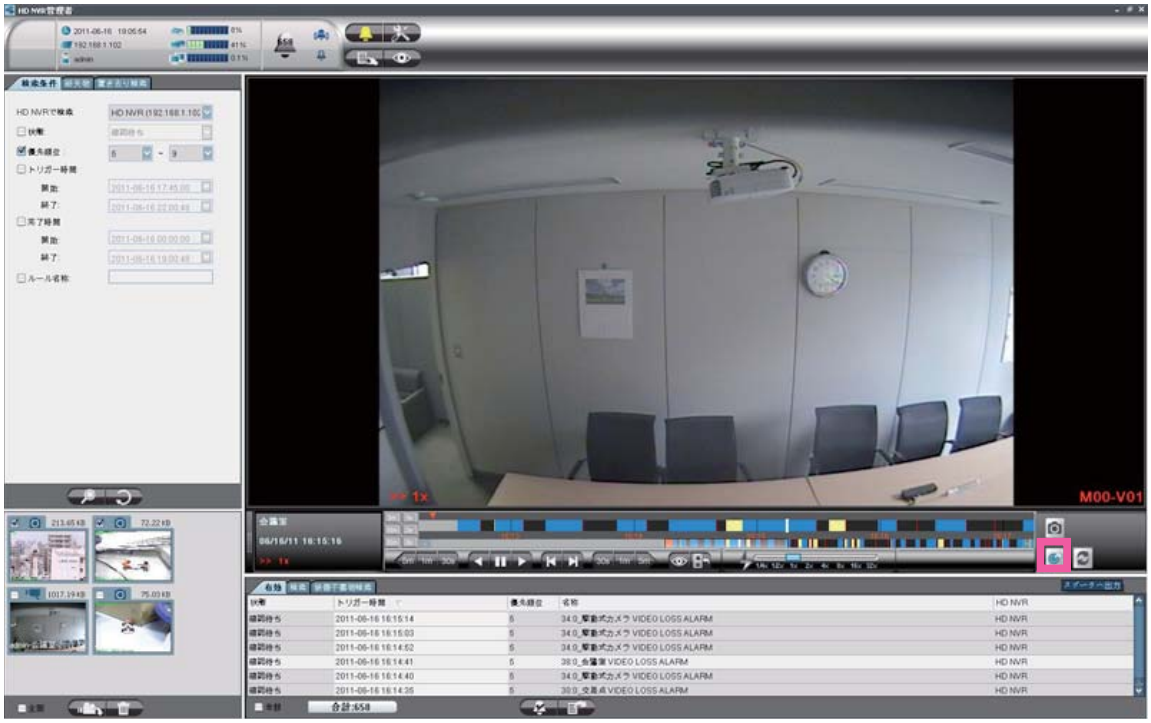

図 4-8 **アラームのエクスポート**

(1) アラームを検索した後、アラームリストの「検索」タブをクリックします。

(2) タイムスライダの右側にある「エクスポート」ボタンをクリックします。映像またはビデオクリップがスプーラにエクスポートされます。

(3) 続く手順については 82 **ページの「スプーラ」を参照してください。**

4.1.7 紛失物検索

紛失物検索機能は再生映像からなくなった対象物を見つけるためのデジタル画像検索メソッドを利用します。「紛失物検索」機能を実行するには、以下の手順を確認してください。

図 4-9 **紛失物検索**

(1)**「アラームモード」ボタンをクリックしてください。**

(2) **検索状態パネルでは、「紛失物検索」タブをクリックしてください。**

(3) **検索を始める前に、まず** HD NVR **とカメラを選択してください。**

(4)「セットアップ」ボタンをクリックすると、「紛失物検索設定」パネルが現れます。

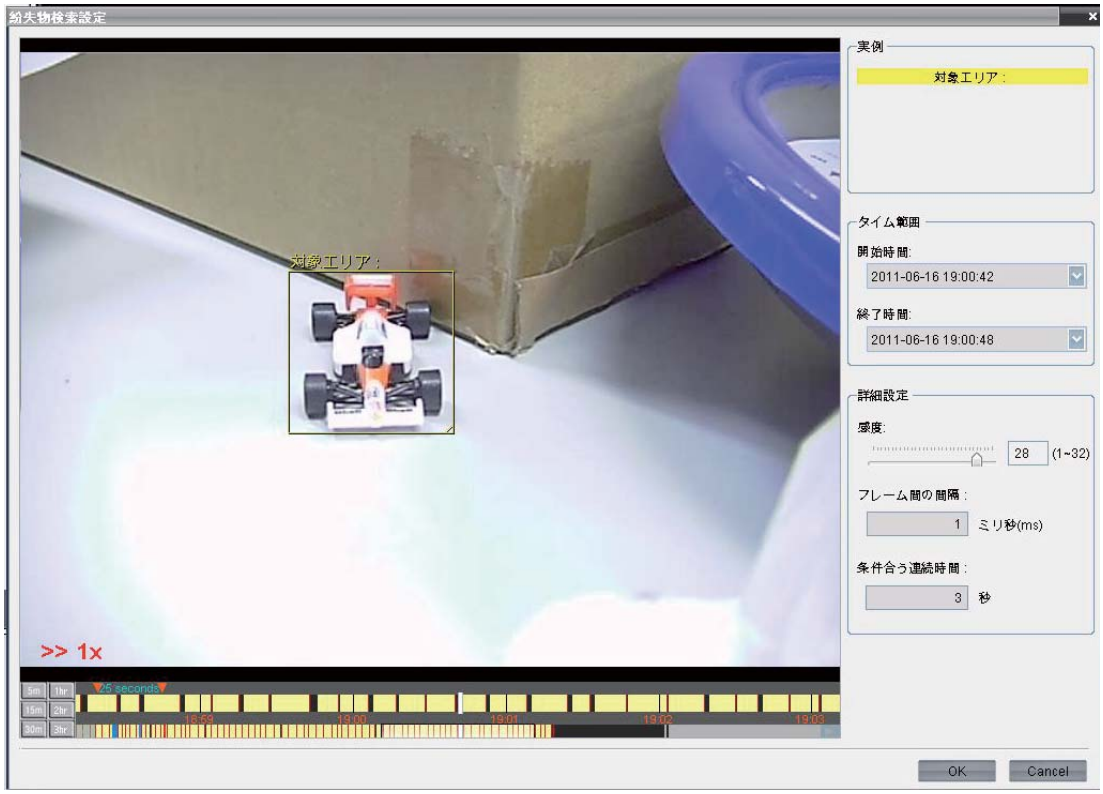

図 4-10

(5) パネルでは、最初に、オブジェクト領域（黄色いフレーム）を設定してください。
サーチエンジンはオブジェクト領域だけをオブジェクトを捜します。
次に、開始時刻と終わりの時間を決めてください。検索結果の精度を上げるために、ユーザは高度なパラメータ設定を設定できます。以下の 3 つのオプションがあります。

- 感度：検索の感度を設定してください。
- フレーム間の間隔：検索中は最小のサンプリング間隔を設定してください。
- 条件合う連続時間：設定された時間を超過して対象がなくなった場合に検知されます。

「検索」ボタンをクリックしてください。

(6) 検索終了時、検索した結果は 「ビデオ紛失物検索」で保存しています。

(7) リストで項目を選択して、検索した結果を確認してください。

4.1.8 置き去り検索

この機能は再生映像から異物を見つけるためのデジタル画像検索メソッドを利用します。「置き去り検索」機能を実行するには、以下の手順を確認してください。

図 4-11 **置き去り検索**

(1)**「アラームモード」ボタンをクリックしてください。**

(2)**検索状態パネルで、「置き去り検索」タブをクリックしてください。**

(3)**検索を始める前に、まず** HD NVR **とカメラを選択してください。**

(4)「セットアップ」ボタンをクリックすると、「置き去り検索設定」パネルは現れます。

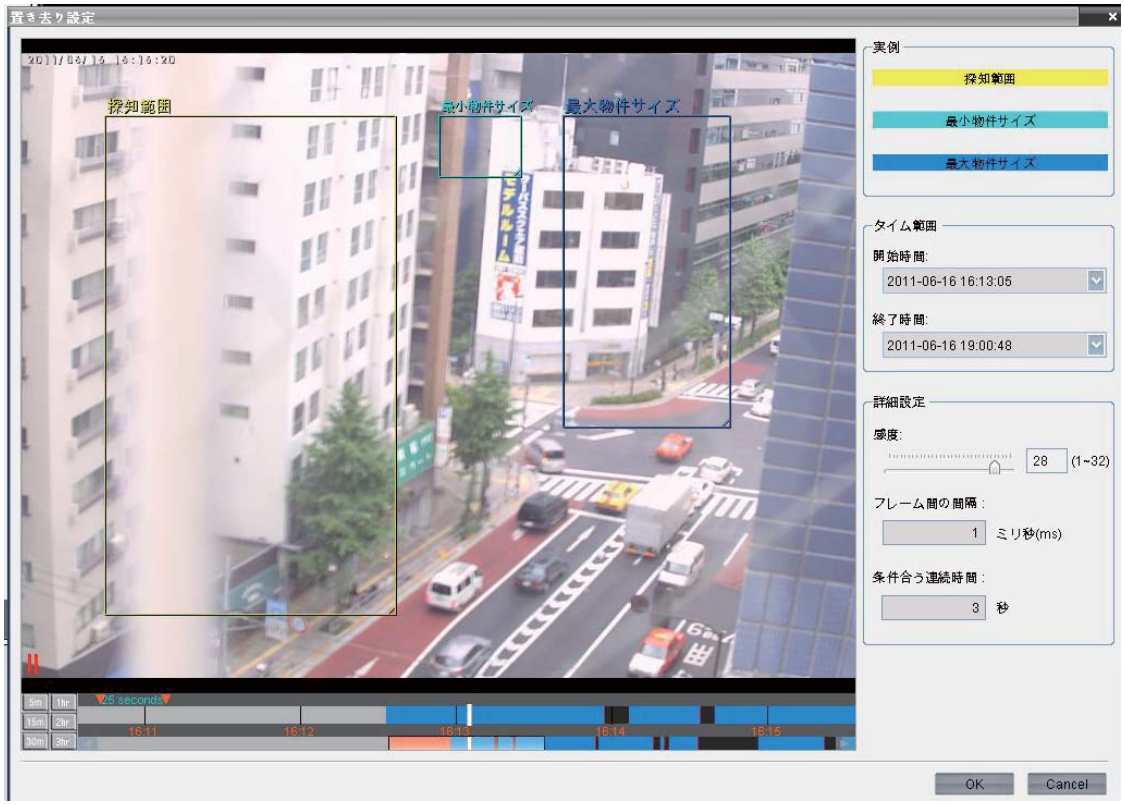

図 4-12

(5) まず始めにパネル内で、黄色のフレームで探知エリアを設定して下さい。探知するオブジェクトのサイズを制限する場合は最大物件サイズ（青いフレーム）と最小物件サイズ（水色フレーム）を設定してください。次に、開始時刻と終わりの時間を決めてください。検索結果の精度を上げるために、ユーザは高度なパラメタ設定を設定できます。以下の 3 つのオプションがあります。

- 感度：検索の感度を設定してください。
- フレーム間の間隔：検索中は最小のサンプリング間隔を設定してください。
- 条件合う連続時間：設定された時間を超過して対象がなくなった場合に検知されます。

(6)「検索」ボタンをクリックしてください。

(7) 検索終了時、検索した結果は 「ビデオオブジェクト検索」で保存しています。

(8) リストで項目を選択して、検索した結果を確認してください。

4.2 イベントモード

イベントモードでは、検知されたイベント情報を見ることができます。すべてのイベントは「イベント」表に表示されています。この表には 4 つの欄があります。

図 4-13 「イベント」表の詳細

a. **カテゴリ：イベントカテゴリ（システム、ユーザー、カメライベントを 含む）を表します。**

b. **イベント：イベントの詳細を表します。**

c. **イベント日時：イベントの発生日時を表します。**

d. **詳細：イベントのチャンネル ID を表します。**

e. **検索対象を表します**

4.2.1 イベントの検索

イベント検索機能が実行されるまでは、イベントリストにイベントは表示されません。イベントモードには、「時間で検索」と「カテゴリで検索」の 2 つの検索条件があります。

時間で検索

イベントモードでは、イベントをトリガータイムによって検索することができます。以下のステップを参照してください。

図 4-14 イベントを時間で検索

(1) **イベントモードアイコンをクリックします。**

(2) **「HD NVR で検索」フィールドでドロップダウン ボックスをクリックし、HD NVR 名を選択します**

(3) **「時間で検索」オプションのチェックボックスにチェックを入れます。**

(4) **「～から」欄で、開始日時を選択します。**

(5) **「～まで」欄で、終了日時を選択します。**

(6) **「検索」ボタンをクリックします。**

(7) **「イベント」表が検索結果を表示します。**

[補足] イベント検索をリセットするには、「リセット」ボタンをクリックします。

カテゴリで検索

イベントモードでは、イベントをカテゴリによって検索することができます。以下の手順を参照してください。

図 4-15 イベントをカテゴリで検索

(1) イベントモードアイコンをクリックします。

(2)「HD NVR で検索」フィールドでドロップダウン ボックスをクリックし、HD NVR 名を選択します。

(3) または「カテゴリで検索」オプションのチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 希望するオプションのチェックボックスにチェックを入れます。

(5)「検索」ボタンをクリックします。

(6)「イベント」表が検索結果を表示します。

[補足] イベント検索をリセットするには、「リセット」ボタンをクリックします。

4.2.2 イベントのエクスポート

イベント表が検索結果を示している際に、イベントモードで結果表をエクスポートすることができます。イベントをエクスポートするには、以下の手順を参照してください。

図 4-16 **イベントのエクスポート**

(1)「イベント」表の下端にある「エクスポート」ボタンをクリックします。「名前を付けて保存」イアログが現れます。

(2)「ファイル名」欄に新しいファイル名を入力します。必要に応じてディレクトリを変更します。

(3)「保存」をクリックします。

図 4-17

(4) システムは「エクスポート完了」というメッセージを表示します。検索結果は .csv ファイル形式で保存されます

5. 構成モード

構成モードはユーザーが NVR および接続デバイスのいくつかの設定を実行する為に使用します。構成モードは以下の部分から構成されています。

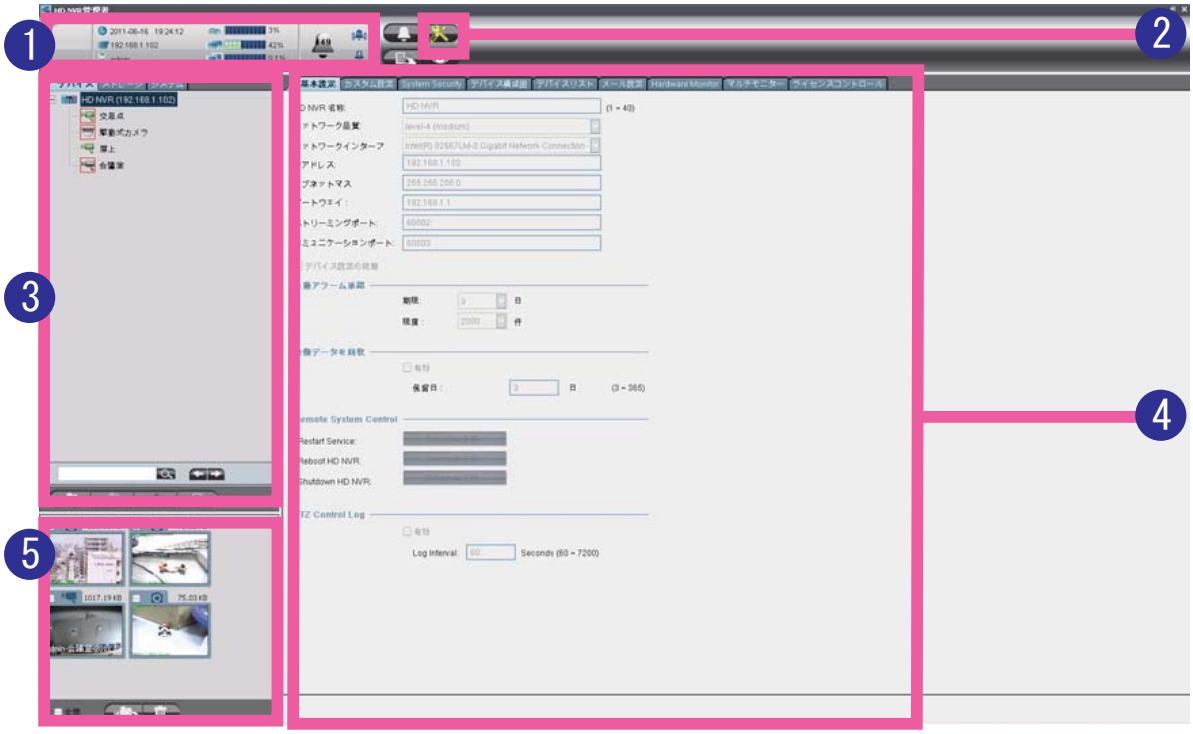

図 5-18 構成モード

（1）システムタブ（29 ページの「システムオペレーション」を参照）

（2）モードボタン（29 ページの「システムオペレーション」を参照）

（3）カテゴリパネル

（4）設定パネル

（5）スプーラ

構成モードへ入る際、システムタブの下のカテゴリパネルにはデバイス設定、ストレージ設定、およびシステム設定の 3 つのタブがあります。カテゴリパネルの右側にある設定パネルは、様々な設定の詳しい値を示します。

5.1 デバイス設定

5.1.1 NVR

NVR 設定では、認証されているユーザー関連する構成を表示し、特定の項目の値を修正することができます。NVR 設定は以下の 9 つのタブから構成されます。

（1）基本設定

（2）カスタム設定

（3）システムセキュリティ

（4）デバイスツリー

（5）デバイスリスト

（6）メール設定

（7）ハードウェアモニタ

（8）マルチプルモニタ

（9）ライセンスコントロール

[注意] デバイスタブの設定値を変更するには、「 」（修正）ボタンをクリックし、構成ページを表示します。変更完了後、「OK」をクリックします。

基本設定

基本設定は接続情報と NVR のその他の設定を表示します。以下は構成された項目および項目内容の説明です。

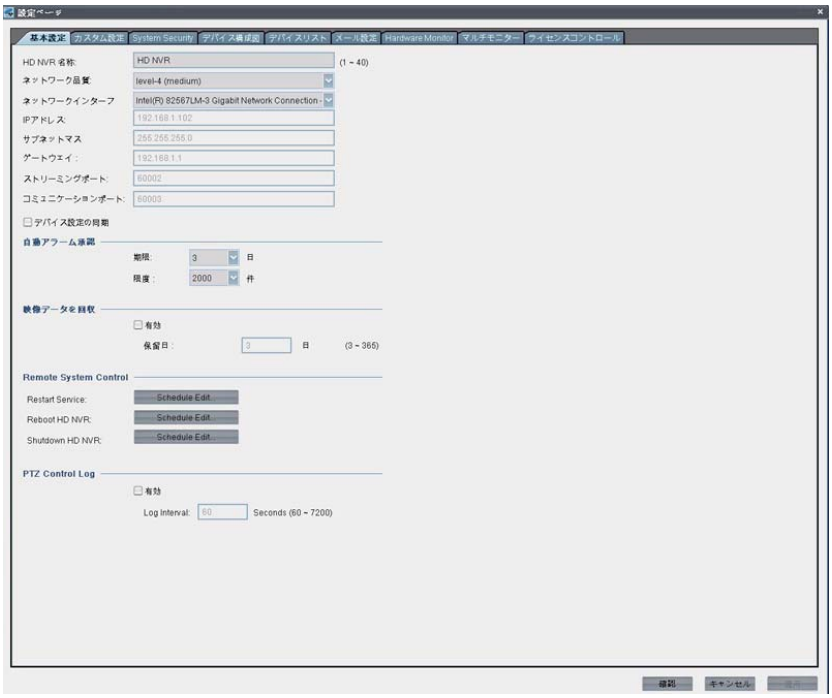

図 5-19

a. 「HD NVR 名」－ HD NVR 名を表します。

b. 「ネットワーク品質」－ネットワーク接続の品質を表します。（レベル 7 ではシステムは 2500ms（ミリセカンド）ごとに接続状況をチェックします。ネットワークパケットが 2000 ms 以上失われると、システムはビデオ損失アラームを発します。レベル 1 では、システムは接続状況を 10000 ms ごとにチェックします。詳しくは P166 「ネットワーク品質」を参照してください。）

c. 「ネットワークインタフェース」－ NVR にインストールされたネットワークカードを表します。

d. 「IP アドレス」－ NVR の IP アドレスを表します。

e. 「サブネットマスク」－ NVR のネットワークマスクを表します。

[注意]　ネットワーク管理者に連絡してストリーミングポートと COM ポートのポート番号を確認してください。

f. Gateway （ゲートウェイ）－ NVR のゲートウェイを表します。

g. Streaming port （ストリーミングポート）－ NVR のストリーミングポートを表します。

h. Communication port （COM ポート）－ NVR の COM ポートを表します。

i. 「同期デバイス設定」－ NVR 設定が遠隔デバイスに保存された設定と同期化されているかを判断します。チェックボックスにチェックが入っている際は、NVR は遠隔デバイスの設定値を上書きします。

j. 「自動アラーム受信確認」－アラームが自動的に受信確認される条件を表します。

カスタム設定

カスタム設定は、以下の部分で構成されます。

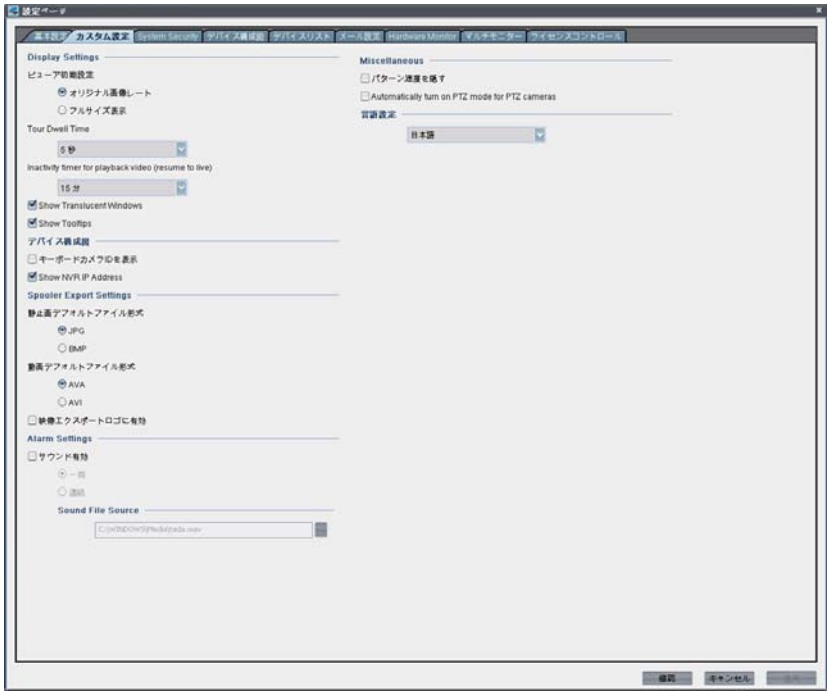

図 5-20

（1）ディスプレイ設定

ディスプレイ設定には次の 4 つのオプションがあります。

- ビューア初期設定 - ビューア画像を元の比率で表示、もしくは延伸して表示を選択します。
- Tour Dwell Time - ツアー時に表示されるカスタムパターンの表示時間を示します（最小 5 秒、最大 300 秒）。
- Inactivity timer for playback video(resume to live) - アラームモードなどで表示する確認映像の表示時間を示します（最小 5 分、最大制限無し）。
- Show Tooltips - Show Tooltips がチェックされている場合、システムコンポーネント上（アラームボタンや速度ボタン）にマウスを置くと簡単な説明文が表示されます。

（2）デバイス構成図

- キーボードカメラ ID を表示 - キーボードに関するキーボードコントローラプログラムに記載されたカメラ ID は、カメラ名の後に追加されます。
- Show NVR IP Address - HD NVR 名の横に IP アドレスを表示します。

（3）Spooler Export Settings

- 静止画デフォルトファイル形式 - スナップショット画像のファイル形式を JPEG/BMP から選択します。
- 動画デフォルトファイル形式 - エクスポートクリップのファイル形式を AVA/AVI から選択します。（AVA ファイルはメガプレイヤで再生可能、AVI ファイルは WindowsMediaPlayer などで再生可能です。）

（4）Alarm Settiongs

- サウンド有効化 - サウンドを有効化－アラームが発生したときにアラーム警報が鳴る

かどうかを示します。1 度鳴る、または連続的に鳴るという 2 つのオプションがあります。アラーム警報を変更するには、サウンドファイルオプションをクリックし、新しいサウンドファイルを選択します。

（5）Miscellaneous

- パターン速度を隠す -「パターン速度を隠す」をチェックすると、リソース消費率によってシステムが自動的にイメージの再生速度を落とす時に、警告文をポップアップします。
- Automatically turn on PTZ mode for PTZ cameras - チェックボックスをチェックすると、ディスプレイモードで PTZ カメラを表示するとき、自動的に PTZ モードが選択されます。

（6）言語設定

言語設定によりデフォルトの言語インタフェースを変更できます。

ディスプレイ設定

ディスプレイ設定には 2 つのオプションがあります。

- ビューアのデフォルト表示モード－ビューアの画像を元の比率に保持すべきか、あるいは延伸すべきかを示します。
- ツアー滞留時間－カスタムパターンがツアーで表示される時間（最小 8 秒、最大 300 秒）を示します。

デバイスツリー

「デバイスツリー」のオプションがチェックされると、K-200PTZ キーボードに関するキーボードコントローラプログラムに記載されたカメラ ID は、カメラ名の後に装置ツリーに追加されます。チェックを外すとコードネームは隠されます。

スプーラエクスポート設定

ファイル形式設定には次の 2 つの部分があります。

次のオプションの内いずれかをスナップショット画像のデフォルトファイル形式として選択します。

- JPEG
- BMP

次のオプションの内いずれかをエクスポートクリップのデフォルトファイル形式として選択します。

- AVA
- AVI

アラーム設定

アラーム設定には次のオプションがあります。

- サウンドを有効化－アラームが発生したときにアラーム警報が鳴るかどうかを示します。1 度鳴る、または連続的に鳴るの 2 つのオプションがあります。アラーム警報を

変更するには、サウンドファイルオプションをクリックし、新しいサウンドファイルを選択します。

その他

- 「Disable　Pattern Speed Slow Down Warning」のチェックボックスがチェックされていない場合、システムのリソース消費率が高くなると、システムは自動的に、イメージの再生速度をおとしリソースの消費を抑える警告を発します。

言語設定

言語設定によりデフォルトの言語インタフェースを変更できるようにします。サポートされている言語については製品仕様を参照してください。

[注意]　言語設定を変更した後は、HD NVR マネージャーを再起動して言語設定を有効にする必要があります。

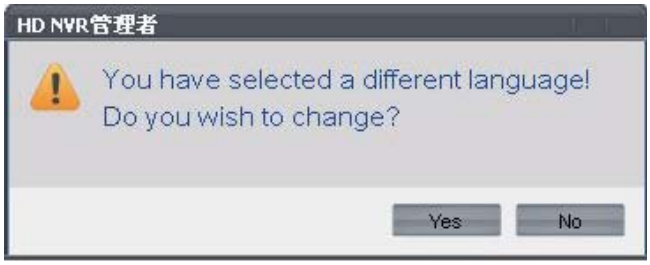

図 5-21

システムセキュリティ

管理者権限でログインしている時のみ、「システムセキュリティ」タブが表示されます。
タブは以下の 4 つのセクションを含みます。

- パスワード保護の適用
  NVR に対して設定変更を行う際にパスワードの入力を求めます。
- アクセシビリティコントロール
  セキュリティレベルのコントロールを行い、一部操作を制限します。
- ローカルシステム設定
  本機の設定画面を呼び出します。
- その他
  自動ログイン / 自動スタートアップの設定を行います。

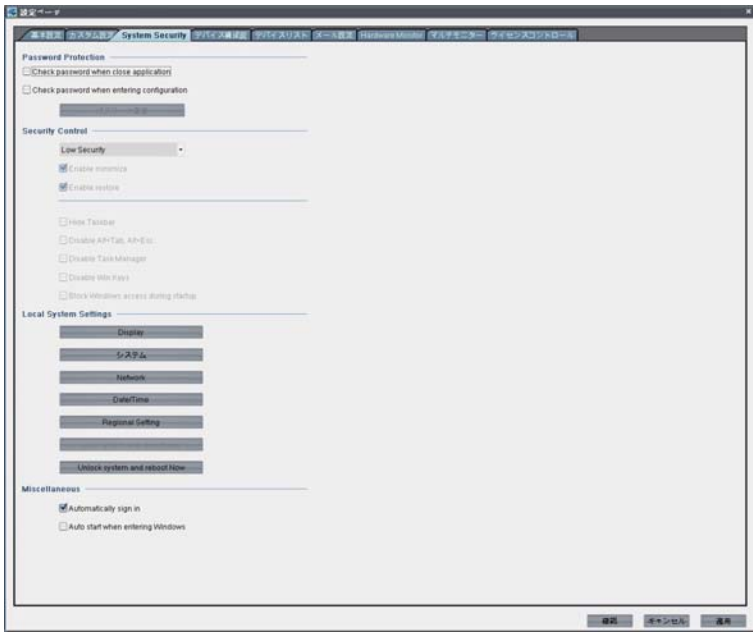

図 5-22

デバイス構成図

デバイス構成図は、接続された NVR とネットワークカメラを表示します。

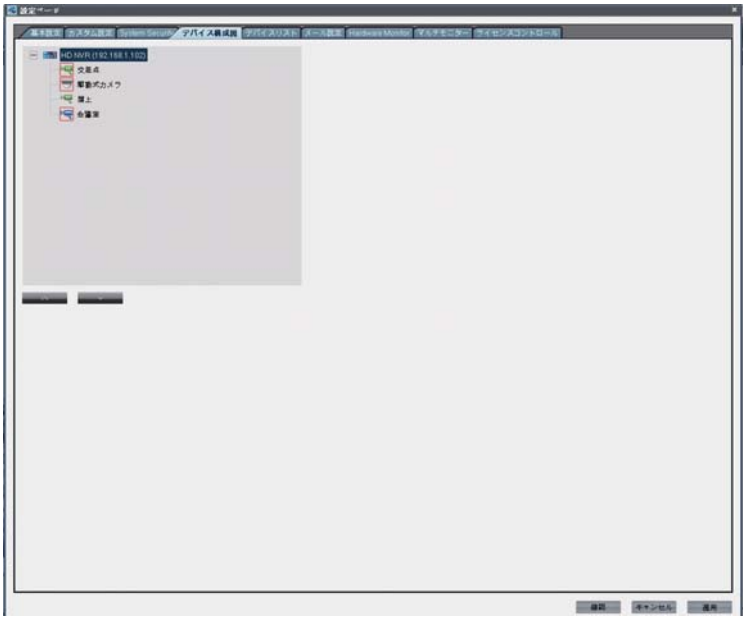

図 5-23

ユーザーはデバイスツリーのチャンネル順番を変えることができます。「デバイスツリー構造」タブのデバイスツリーの下に、チャンネル順番を変えるために、2 個のボタンがあります。目標チャンネルが選択されていたら選択されたチャンネルを上げるために（ ）をクリックするか、または（ ）をクリックして、選択されたチャンネルを下げてください。

デバイスリスト

接続されたカメラの詳細（カメラ名、ID、モデム、ファームウェア、IP アドレス）を提供します。

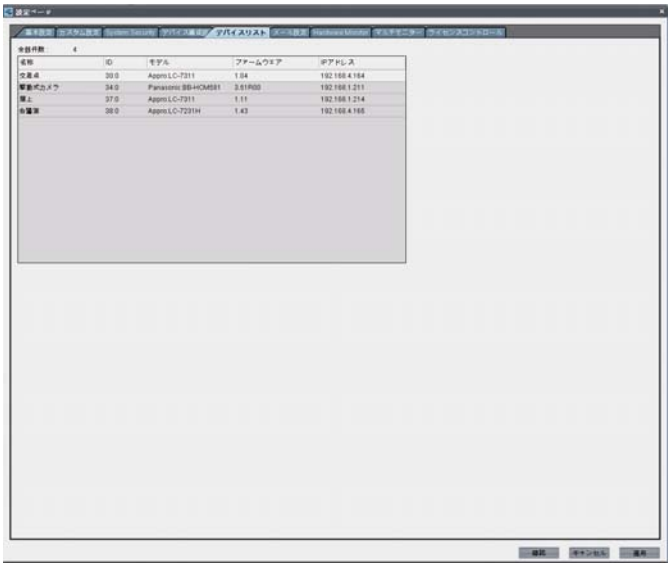

図 5-24 デバイスリスト

メール設定

「メール設定」タブはアラーム通知のメール構成のためのものです。タブは 2 つのアイテムを含んでいます : 「SMTP 設定」と「アラームメール既定の設定」です。以下の記述を確認してください。

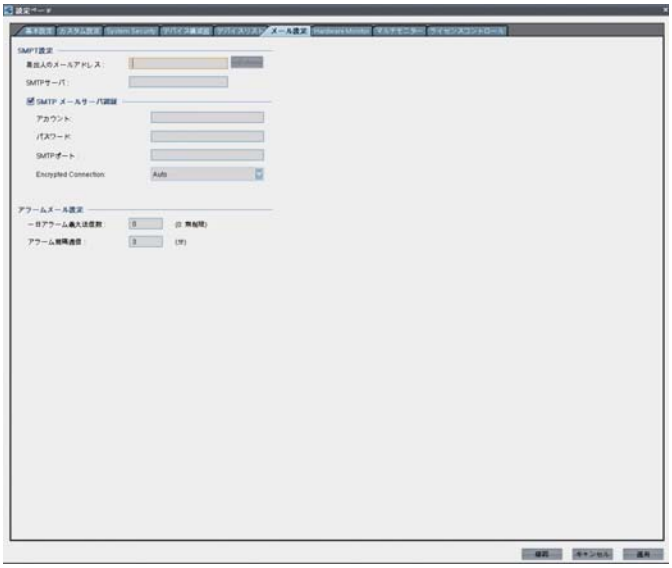

図 5-25 メール設定

SMTP 設定：メール送信の構成したコラムは送付者の E メールアドレス、メールサーバの名前、および認証された SMTP はサーバです。

a. Sender Email Address：送信元のメールアドレスを入力します。

b. SMTP Server：E メールサーバのドメインまたは IP アドレスを入力します。

c. SMTP Account：必要に応じ、E メールアカウントのユーザ名を入力します。

d. SMTP Password：必要に応じ、E メールアカウントのパスワードを入力します。

e. Outgoing Server （SMTP）Port：デフォルトの E メールサーバポートは 0 です。またその他の値を手動で設定も可能です。

f. Encrypted Connections：クリックで接続フォーマットのリストを開きます。（None、TLS、SSL、Auto）

[注意] 「SMTP メールサーバー認証」というオプションがチェックされたら、必要な暗号化されたタイプと必要なSMTPポートを設定してください。情報が正しくない場合、メールは送信されません。

ハードウェアモニタ

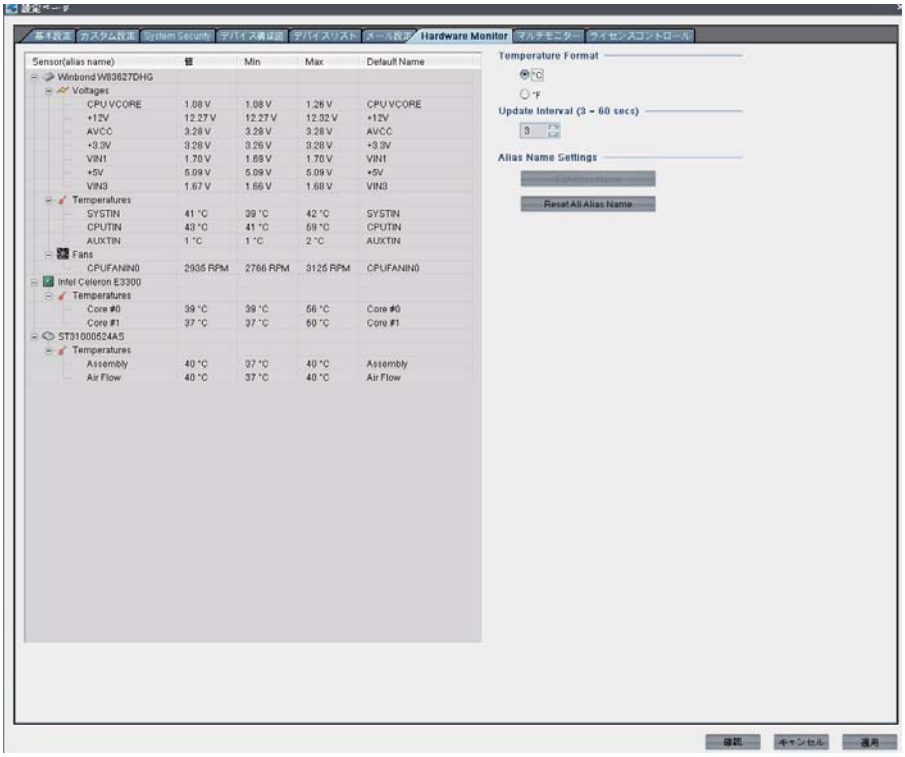

図 5-26

a. Hardware Status ー HD NVR **キーコンポーネントの現在の温度を表示します。**

b. Temperature Format ー**温度スケールを表示します。**

c. Update Interval ー**アップデート間隔を表示します。**

d. Alias Name Settings ー**エイリアス名の設定とリセットを行います。**

マルチモニタ

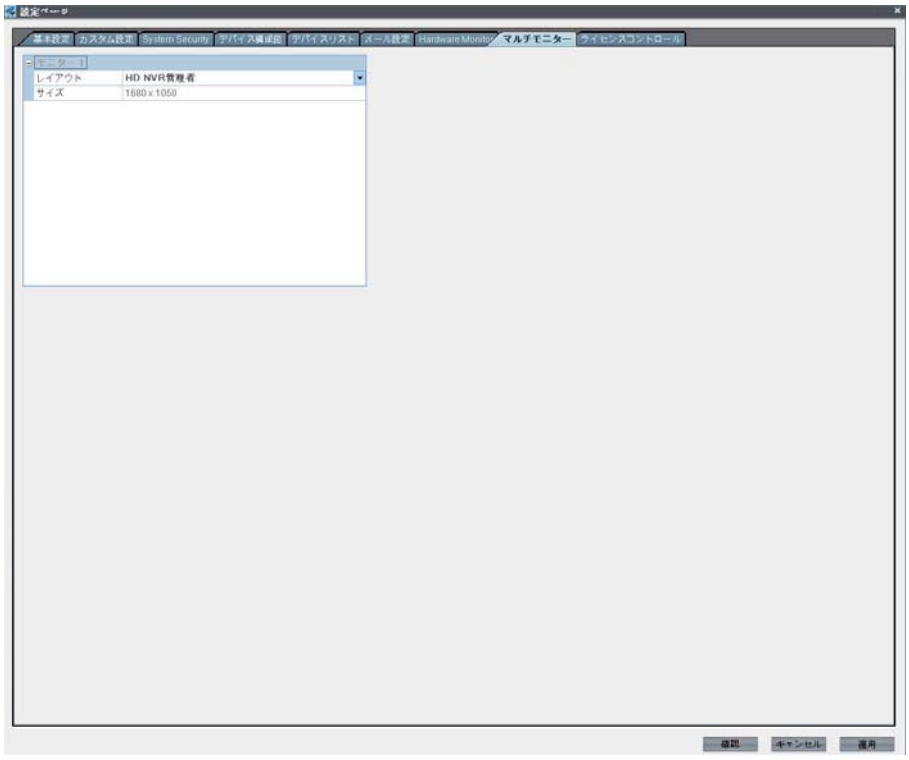

図 5-27 **複数のモニタ**

（1）**レイアウト－** HD NVR **は以下のレイアウトを提供します。**

（2）**サイズ－モニタの解像度設定を表示します。**

ライセンスコントロール

ライセンス制御は以下を含む NVR のライセンス情報を示します。

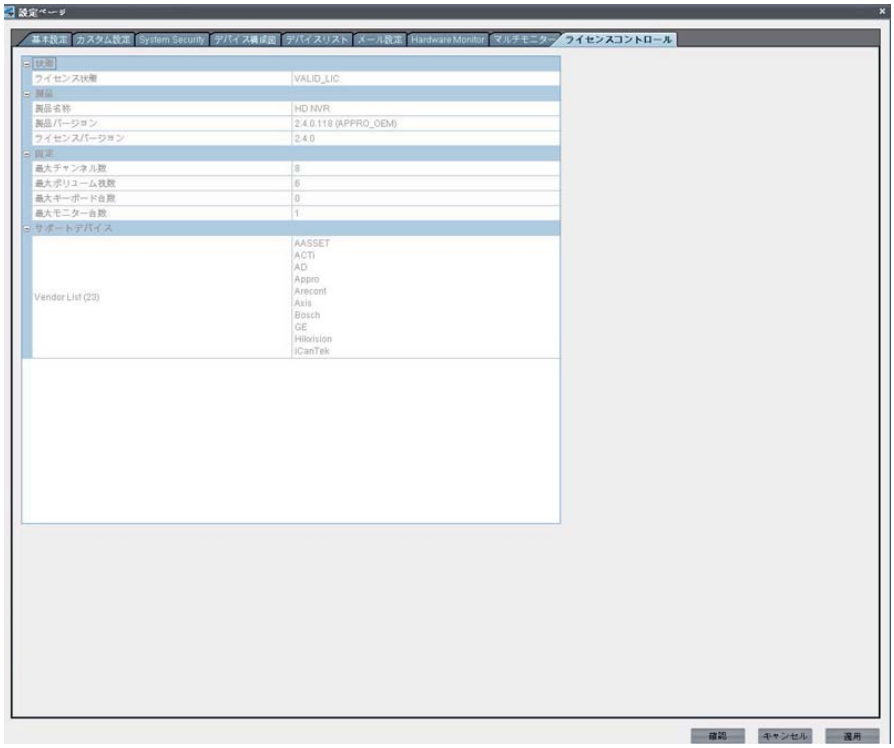

図 5-28

(1)「状況」 ー ライセンスの状況を表します。

(2) または「製品」 ー 製品名およびシステムのバージョンを表します。

(3)「固定」 ー 接続チャンネルおよびリポジトリの最大数を表します。

(4)「サポートデバイス」 ー 対応するカメラのブランドを表します。

5.1.2 カメラ / チャンネル

カメラ / チャンネル設定の概要

構成モードで「デバイス」）タブをクリックすると、カテゴリパネルにカメラツリーが表示されます。ディスプレイモードと同様に、カメラツリーはいくつかのチャンネル、サブチャンネル、および DI/DO ポイントを表示します。カメラツリーの中のチャンネルをクリックすると、設定パネルが詳しい情報を表示します。

この情報はカメラモデルによって異なります。たとえば、Appro 製カメラが選択されると、情報には以下の 6 つのタブが含まれます。

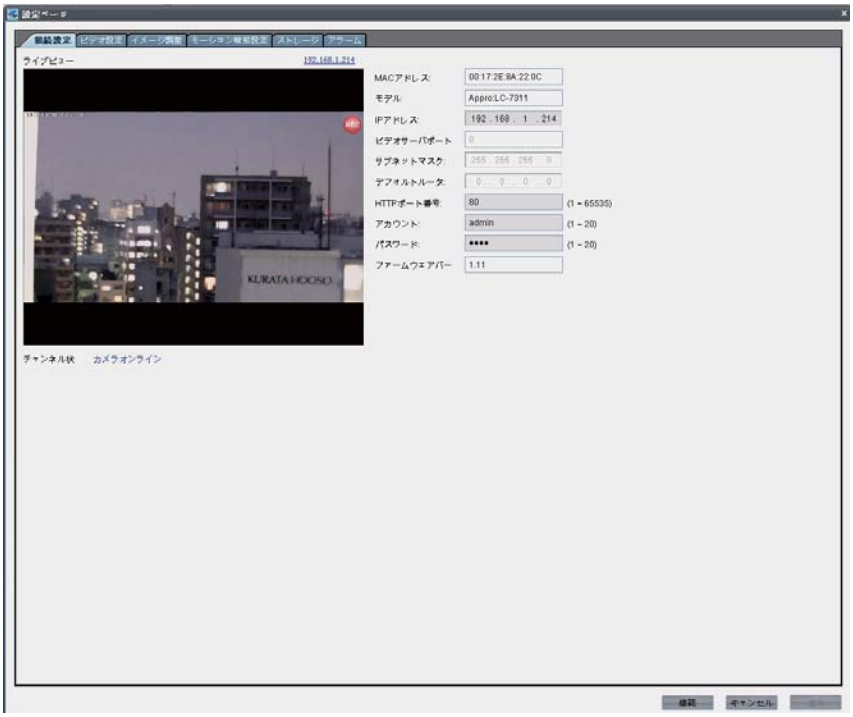

図 5-29 設定パネルのチャンネル情報

a. 接続設定－カメラの接続情報
b. ビデオ設定－カメラの映像設定
c. イメージ設定－画質についての情報
d. モーション検知設定－モーション検知についての感度設定
e. ストレージ－カメラ映像を保存しているボリューム情報
f. アラーム－ビデオロス及びモーション検知のアラーム設定

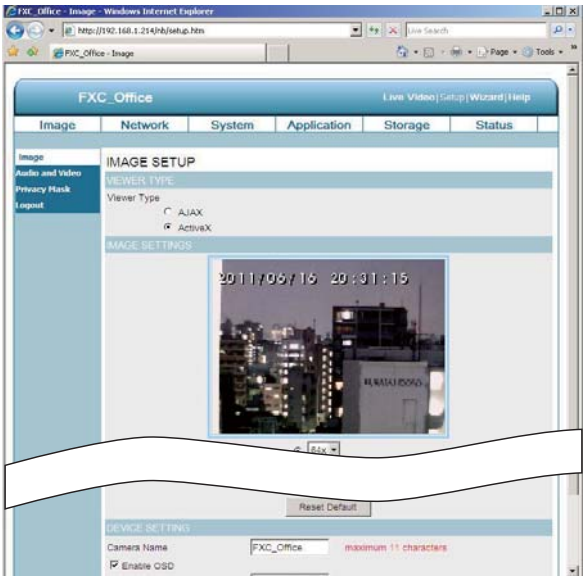

図 5-30 メーカー規定カメラの設定

いくつかのタブはチャンネルのライブ画像を示します。ライブ画像の右上隅に IP アドレスがあります。IP アドレスをクリックすると、ブラウザはメーカーが規定するすべてのカメラ設定を表示します。

システムにカメラ / チャンネルを追加

NVR にチャンネルを追加するには、手動と自動の 2 つの方法があります。

手動でチャンネルを追加

手動でチャンネルを追加するには、以下のステップを参照してください。（Arecont 3130 モデルで例示）

図 5-31 手動でチャンネルを追加

（1）構成モードで、「デバイス」タブをクリックします。

（2）カテゴリパネルの「「追加」ボタンをクリックすると、「カメラデバイスを追加」ダイアログが現れます。

図 5-32

(3)「手動で追加」をクリックし、次に「次へ」をクリックします。「手動で追加」）ダイアログが現れます。

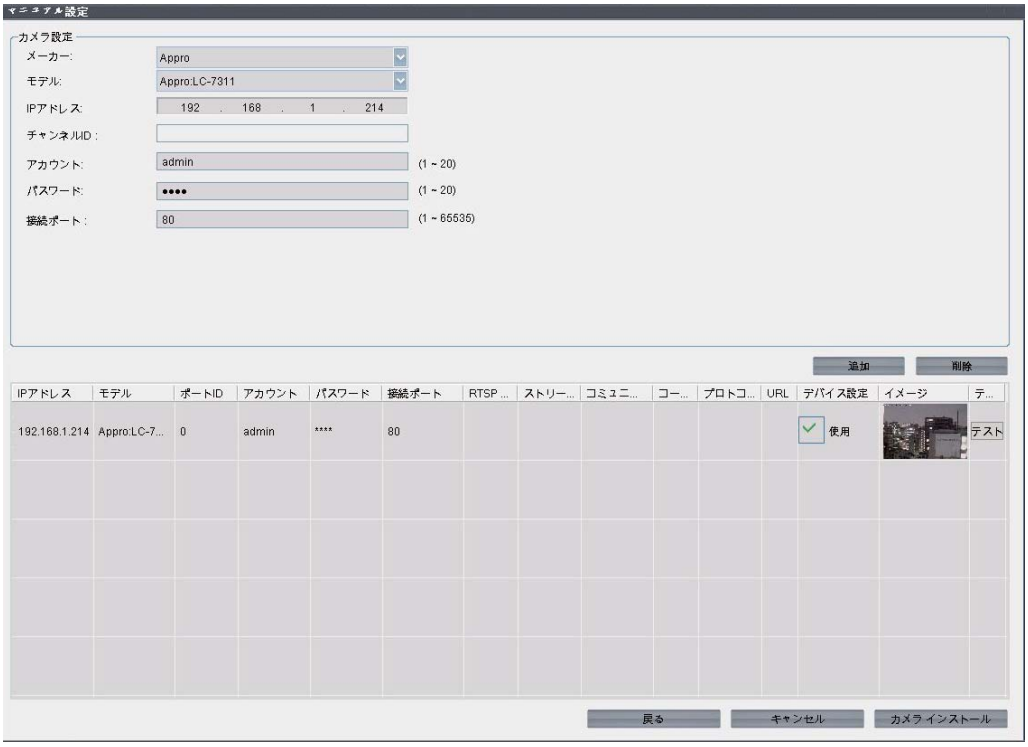

図 5-33

(4) チャンネルを設定する前に、カメラの IP アドレスを取得してください。ベンダーモデル欄のカメラブランドを選択し、カメラの IP アドレスを入力します。

(5)「追加」をクリックします。システムは IP カメラとの遠隔接続を試行します。カメラ情報（カメラのスナップショットを含む）が下のリストに表示されます。

(6)「カメラをインポート」をクリックしてチャンネルを追加します。「戻る」をクリックして「カメラデバイスを追加」ダイアログに戻るか、「取消」をクリックして終了します。）

[注意] 対象となるカメラがネットワークから切断されたり、ネットワークが高負荷となった場合、カメラに設定された設定値からシステムの既定値に変更するかを確認するダイアログが表示されます。

(7) カメラが接続されると、「インポート完了 !」のメッセージが表示されます。「OK」をクリックしてメッセージを閉じます。

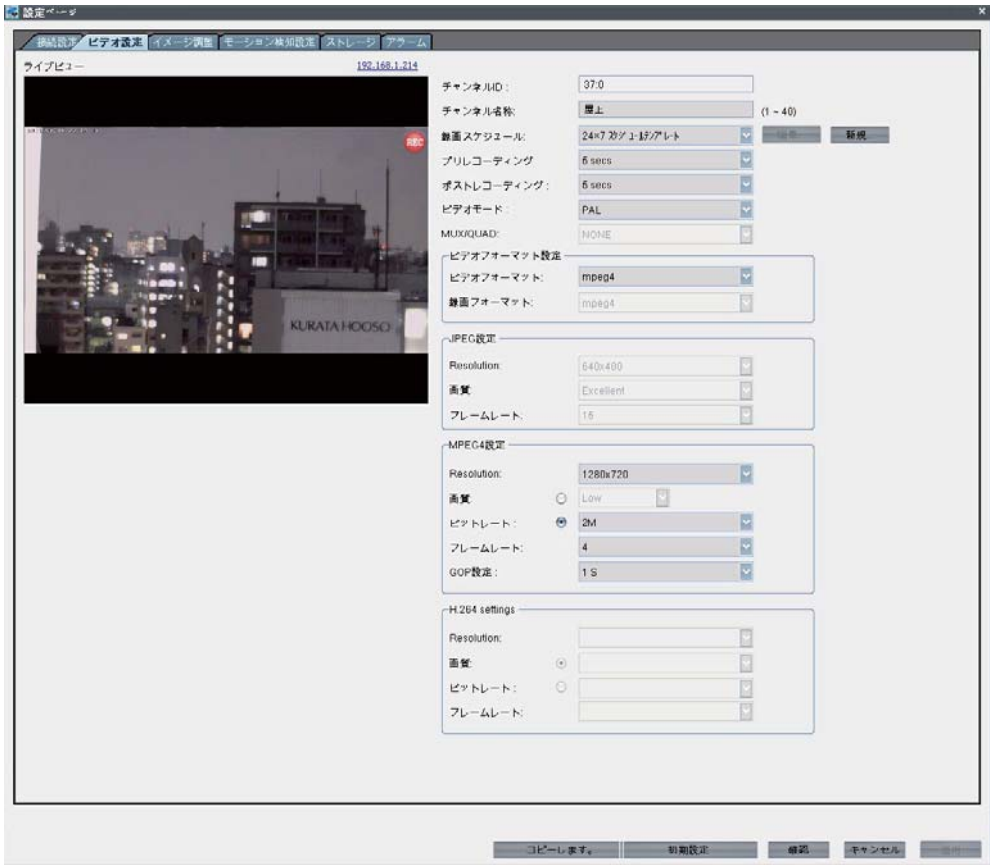

図 5-34

（8）これで新しいチャンネルがカメラツリーに追加されました。カメラの設定値変更のために「構成ページ」が表示されます。

（9）「ビデオ」タブをクリックしてチャンネル名を変更します。必要に応じて他のビデオ設定を変更します。

（10）カメラが「サブチャンネル」機能をサポートする場合は「サブチャンネルを有効にする」チェックボックスにチェックを入れると、「サブチャンネルを有効にしますか？」というメッセージが表示されます。「OK」をクリックしてサブチャンネルを追加します。必要に応じ、サブチャンネルのビデオ設定を変更します。

[注意]　カメラが「デュアルコーデック」特性をサポートする場合は、以下の手順を参照して「デュアルコーデック」機能を開きます。（カメラがモーション jpeg 及び mpeg4 圧縮対応であることを前提とします。）

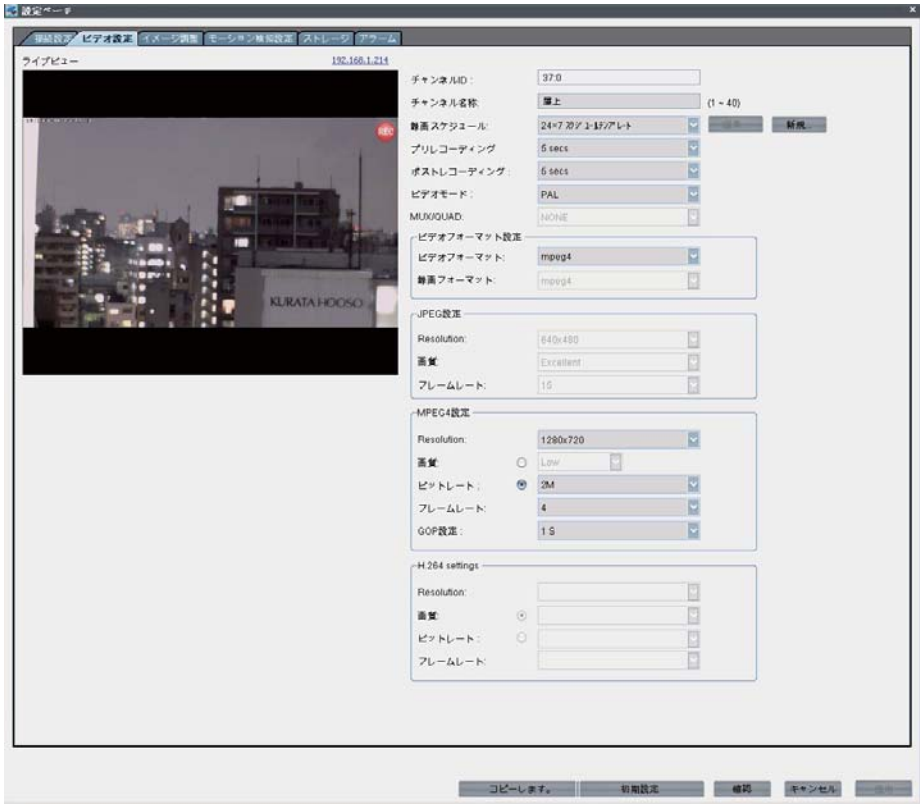

図 5-35

1. 「ビデオ」タブで、「ビデオ形式」コンボボックスをクリックします。ドロップダウンリストから 「jpeg-mpeg4」を選択します。
2. または「録画形式」コンボボックスをクリックします。ドロップダウンリストから「Jpeg」または「MPEG4」を選択します。チャンネルの録画形式が「MPEG4」で、ビューアのコーデックモードが「自動」の場合、システムは自動的に「Jpeg」をライブ画像のデフォルトコーデックとして設定します。詳しくは 68 ページの「コーディックの切り替え」を参照してください。
3. 「適用」をクリックして変更を確認します。
4. JPEG 設定 および MPEG4 設定 で変更を行います。詳しくはカメラのマニュアルを参照してください。
5. 「OK」をクリックして閉じます。

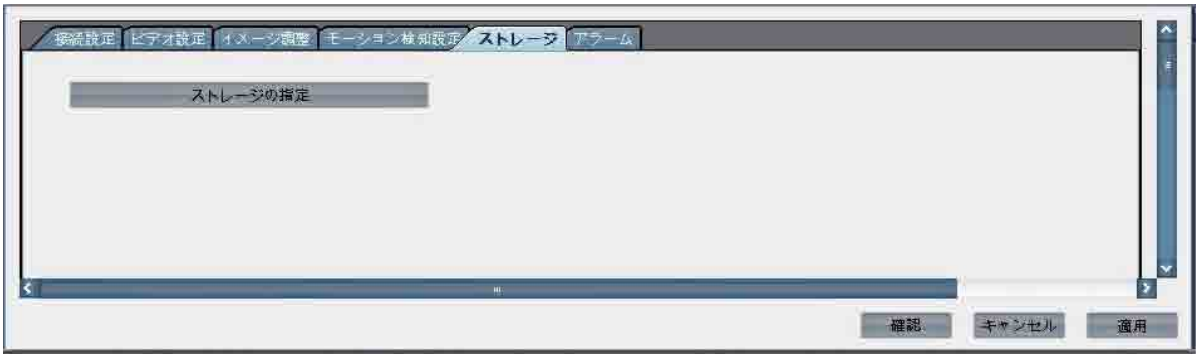

図 5-36

（11）録画を開始するには、「ストレージ」タブをクリックし、それから「ストレージを割り当てる」ボタンをクリックします。

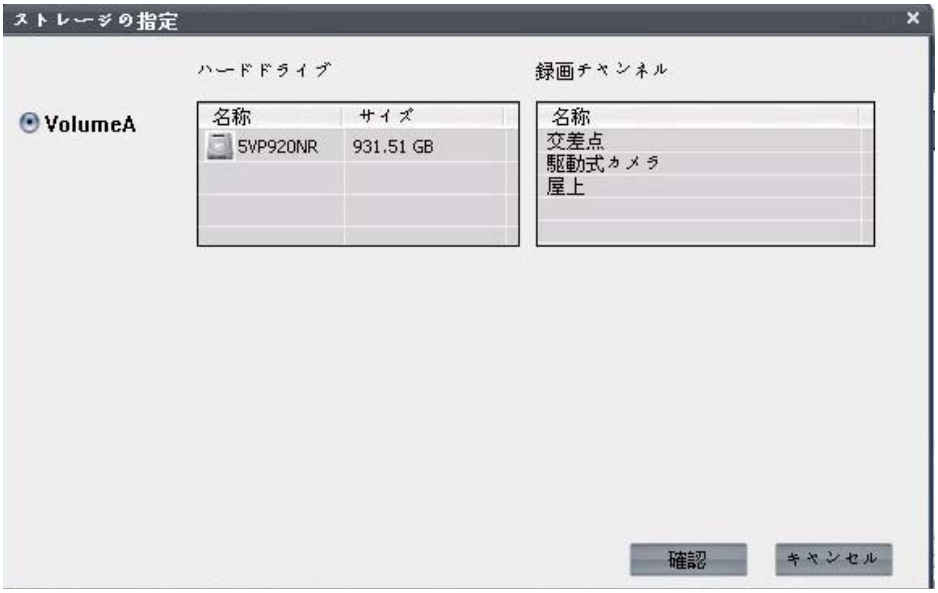

図 5-37

（12）「ストレージを割り当てる」ダイアログが現れます。ご希望のボリュームをクリックし、OK をクリックします。

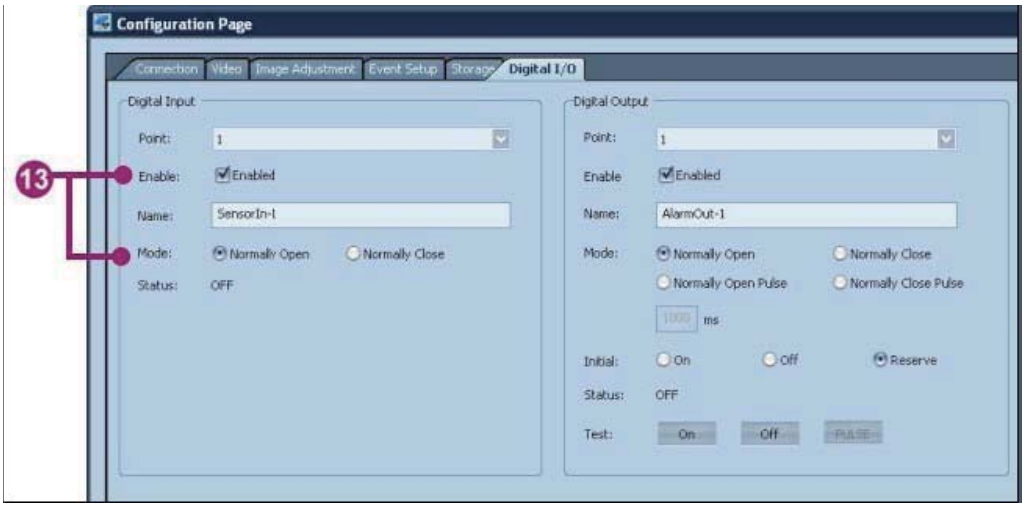

図 5-38

（13）カメラが DI/DO ポイントをサポートする場合、「デジタル I/O」タブが現れます。「デジタル I/O」タブをクリックし、「有効化」チェックボックスにチェックを入れて DI/DO ポイントを追加します。必要に応じ、モード値を変更して DI/DO ポイントを制御することができます。

（14）Alarm タブ内の Use as Alarm がチェックされていた場合、ビデオロスもしくはモーション検出機能での検出をトリガーとし、システムは自動的に Alarm を発報します。さらに Record オプションがチェックされていれば、その Alarm の発報をトリガーとし録画を開始します。

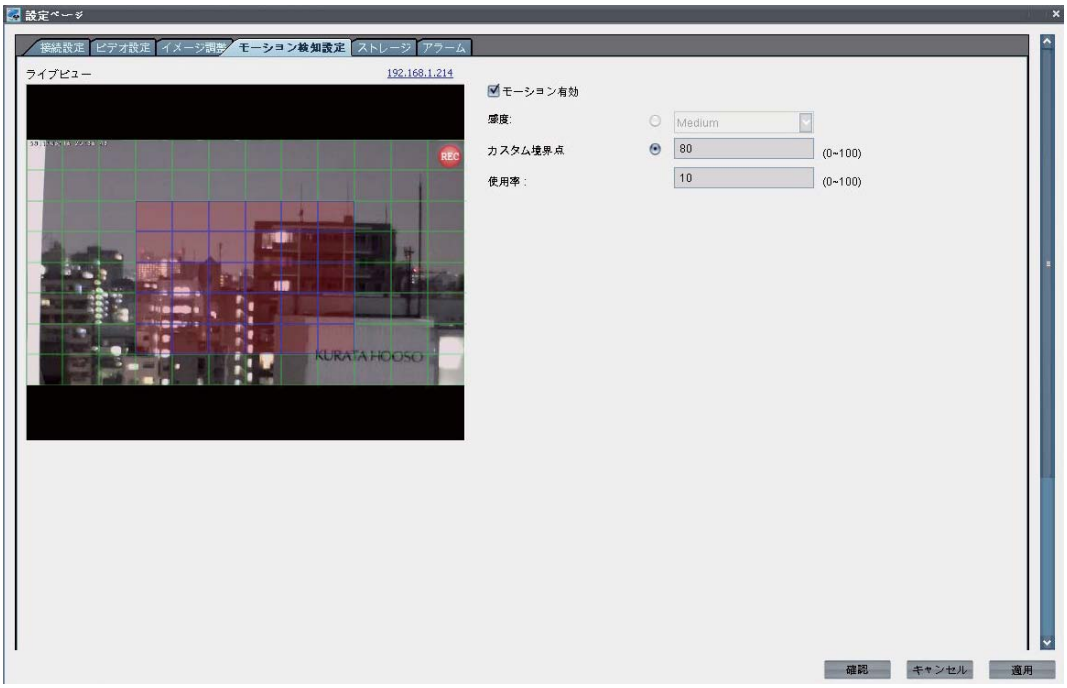

図 5-39

（15）「OK」をクリックして完了します。

[補足]　モーションアラーム区域の設定方法

1. 構成ページで、「モーション」タブをクリックします。
2. ライブ画像上に緑のグリッド線が表示されます。グリッドの各セルは検出エリアを現します。マウスの左キーをクリックして区域を選択します。右キーをクリックすると、区域の選択を解除します。
3. 「OK」をクリックして構成ページを閉じます。

自動でチャンネルを追加

自動でチャンネルを追加するには、以下の手順を参照してください。

図 5-40 自動でチャンネルを追加

（1）構成モードで、「デバイス」タブをクリックします。

（2）カテゴリパネルの「追加」ボタンをクリックすると、「カメラデバイスを追加」ダイアログが現れます。

図 5-41

(3)「自動検出」をクリックし、次に「「次へ」をクリックします。「自動検出」ダイアログが現れます。

図 5-42

(4)「ベンダー」コンボボックスをクリックし、ご希望のベンダー名をドロップダウンリストから選択します。「検索」をクリックして続行します。

(5)「検索」をクリックします。システムが IP カメラとの遠隔接続を試行します。

(6) システムは自動的に、ネットワーク内にあるすべてのベンダーの接続している IP カメラを検索します。検索結果はチャンネル表に一覧で表示されます。

（7）ご希望のカメラのチェックボックスにチェックを入れ、「インストール」をクリックします。

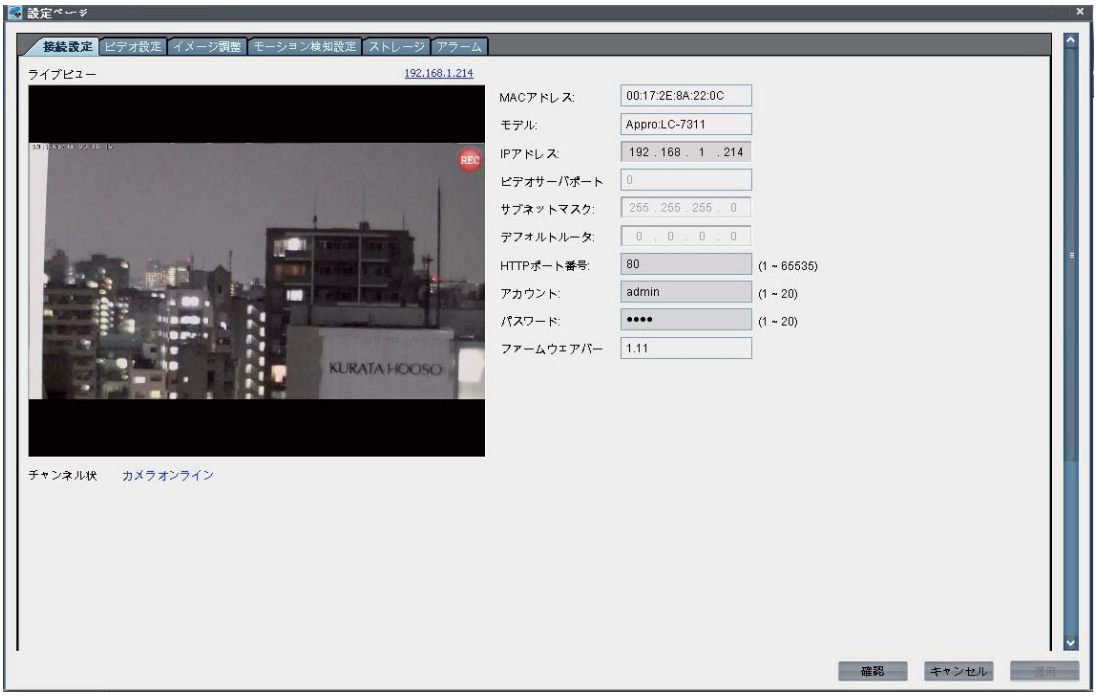

図 5-43

（8）これで新しいチャンネルがカメラツリーに追加されました。カメラの設定値変更のために「「構成ページ」が表示されます。

（9）後続の手順は、P115 「システムにカメラ / チャンネルを追加」の手順 9 ～ 13 を参照してください。「OK」をクリックしてページを閉じます。

［補足］ チャンネルノードを右クリックくると、以下のポップアップメニューが表示されます。「Modify HD NVR」をクリックしてください。カメラの構成ページが表示されます。

図 5-44

カメラ / チャンネル設定を修正する

カメラ / チャンネル設定を修正するには、以下のステップを参照してください。

図 5-45

（1）構成モードで、「デバイス」タブをクリックします。

（2）カメラツリーにあるご希望のチャンネルをクリックします。

（3）「修正」ボタンをクリックすると構成ページを表示します。

[補足]　希望するチャンネルをダブルクリックすると、手順 2 と 3 をスキップできます。

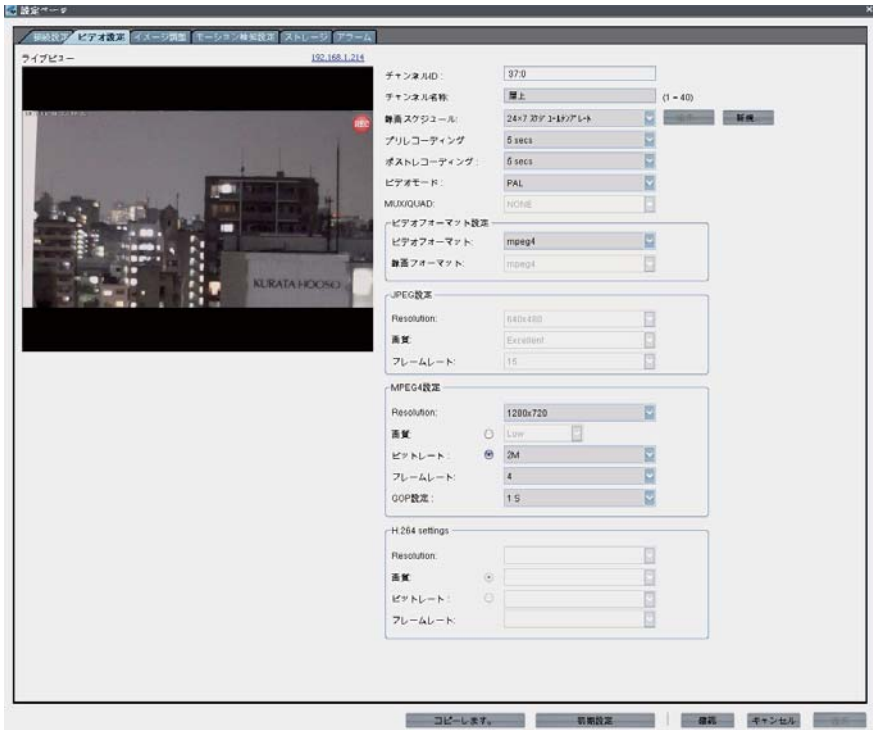

図 5-46

（4）接続チャンネルの設定値をご希望にあわせ変更します。すべてのチャンネル設定はセクション 115 ページの「システムにカメラ / チャンネルを追加」を参照 してください。

（5）必要に応じ、「ビデオ」ページをクリックしてサブチャンネルの設定値を変更します。

（6）カメラに DI/DO ポイントがある場合は、「デジタル I/O」ページをクリックして DI/DO ポイントの構成値を変更します。

（7）「OK」をクリックして完了します。

システムからカメラ / チャンネルを削除

システムからカメラ / チャンネルを削除するには、以下の手順を参照してください。

図 5-47

（1）構成モードで、「デバイス」タブをクリックします。

（2）カメラツリーにあるご希望の主要チャンネルをクリックします。サブチャンネルまたは DI/DO ポイントはクリックしないでください。

[注意] サブチャンネルを削除するには、P124 「カメラ / チャンネル設定を修正する」を参照し構成ページを開きます。「ビデオ」タブにある「サブチャンネルを有効にする」チェックボックスのチェックを外し、「OK」をクリックします。これでサブチャンネルがカメラツリーから削除されます。

[注意] DI/DO ポイントを削除するには、P124 「カメラ / チャンネル設定を修正する」を参照し構成ページを開きます。「デジタル I/O」）タブにある「有効化」チェックボックスのチェックを外し、「OK」をクリックします。これで DI/DO ポイントがカメラツリーから削除されます。

(3)「削除」ボタンをクリックします。

図 5-48

(4) チャンネル画像の画像ストレージ用にボリュームが割り当てられている場合、あるいはチャンネルがアラーム規則で使用されている場合、システムはメッセージを表示します。「OK」をクリックして続行します。(もしくは「取消」をクリックして終了します。)

(5) これで選択したチャンネルがカメラツリーから削除されます。

5.2 ストレージ設定

ストレージ設定は NVR のすべての構成済みボリューム情報を示します。カテゴリパネルのボリュームアイコンをクリックすると、ボリュームの詳細情報が設定パネルに表示されます。

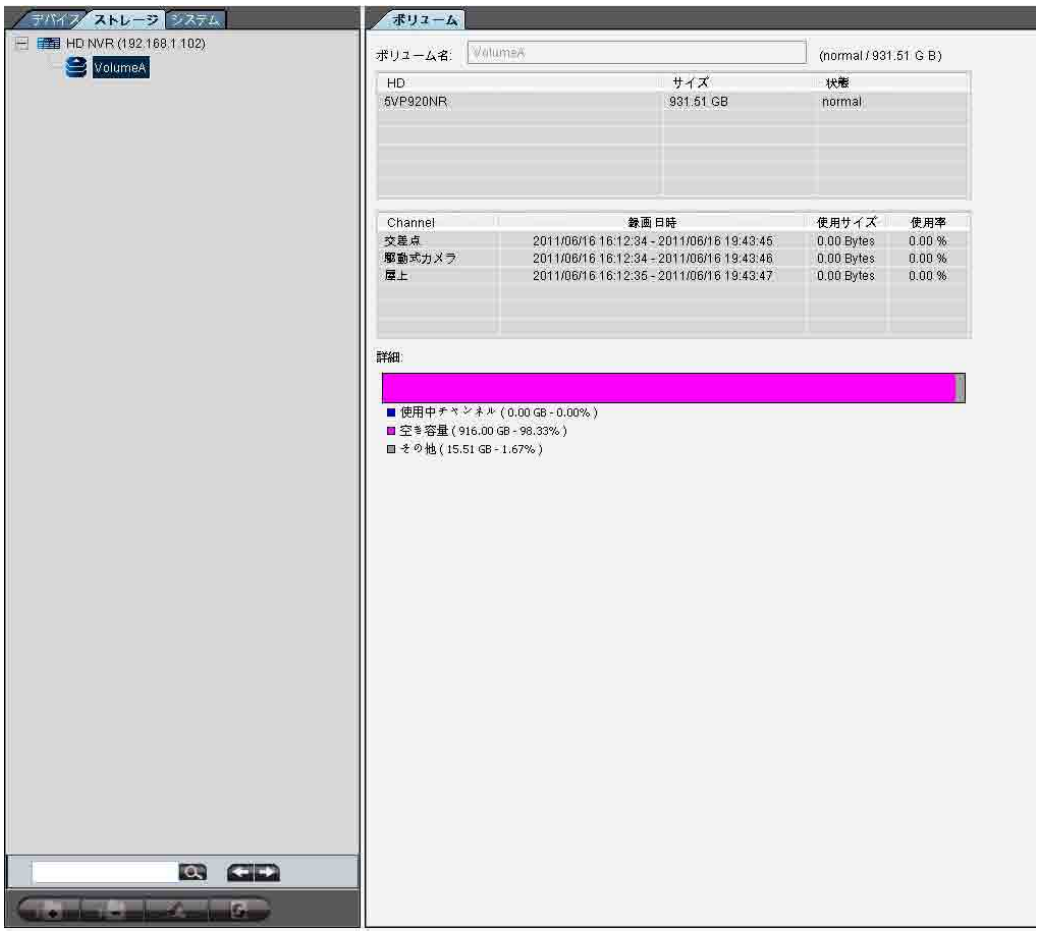

図 5-49

設定パネルは以下の情報を示します：

(1) ボリューム名 －ボリュームの規定名を表します。

(2) HD － ボリュームが管理するリポジトリ情報を示します。

(3) チャンネル－ボリュームに接続されたチャンネルの情報をすべて示します。

(4) 詳細－ボリュームの容量状況を表します。

[注意] ボリューム名を変更したりハードディスクを追加 / 削除するには、SCM プログラムを実行します。

5.3 システム設定

5.3.1 マップ

構成モードでは次の機能が使用できます。

- システムにマップを追加する
- マップを修正する
- システムからマップを削除する
- マップの階層位置を変更する

システムにマップを追加

システムにマップを追加するには、以下のステップを参照してください。

図 5-50

(1) 構成モードで、「システム」タブをクリックします。

(2) カテゴリパネルの「HTML マップ」をクリックします。

(3)「追加」ボタンをクリックすると「新規マップを追加」ダイアログが現れます。

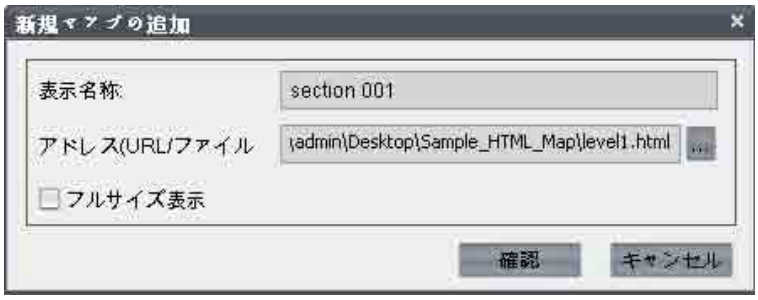

図 5-51

(4)「表示名称」欄に新しい名前を入力します。

(5) 新規マップの URL またはファイルパスを入力します。「…」ボタンをクリックすると「開く」ダイアログが現れます。ダイアログにより正しいマップファイルを探すことができます。「開く」をクリックしてダイアログを開きます。

(6)「確認」をクリックします。

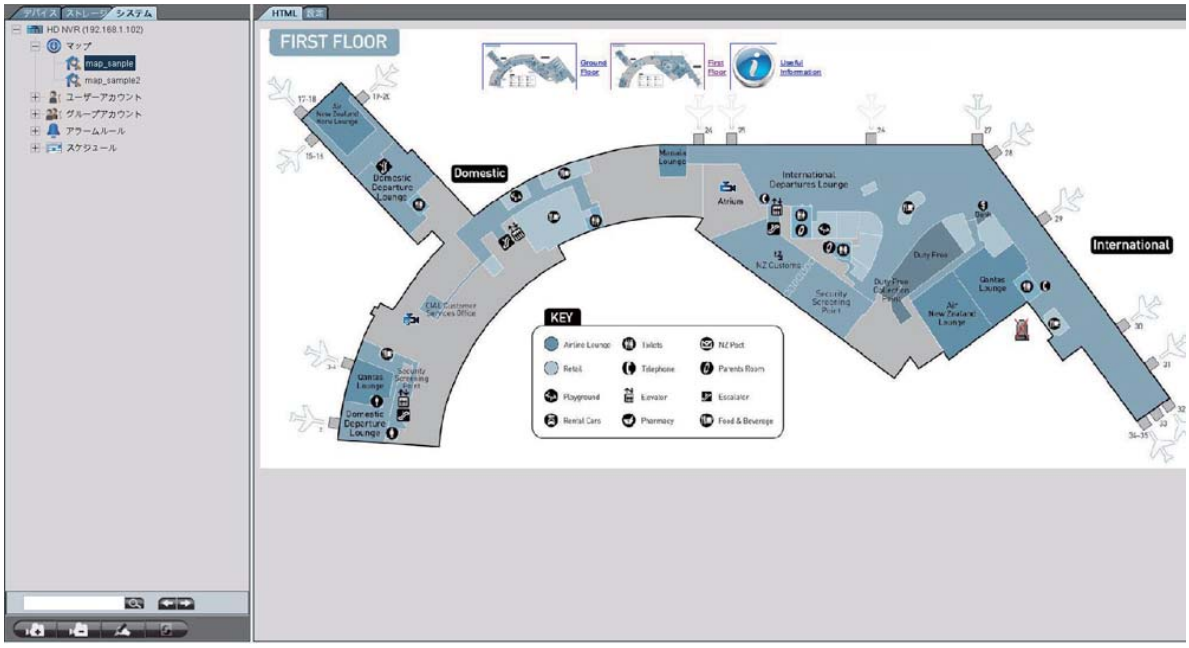

図 5-52

(7) 新しいマップが設定パネルに表示されます。

[補足] マップ構成にインポートできるのは 2 つのファイル形式 .xml または .html のみです。

既存のマップを修正

マップファイルを修正するには、以下の手順を参照してください。

図 5-53 既存のマップを修正

(1) 構成モードで、「システム」タブをクリックします。

(2) カテゴリパネルの「HTML マップ」をクリックします。

(3) ご希望のマップをクリックします。

(4)「修正」ボタンをクリックすると構成ページを表示します。

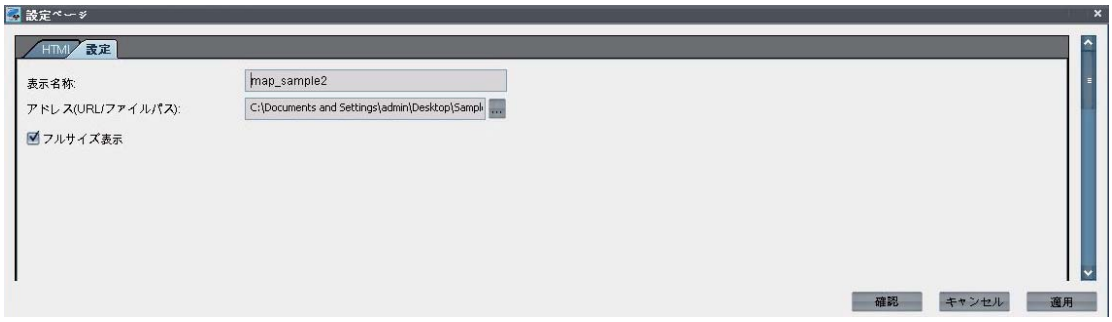

図 5-54

(5) 構成ページには 2 つのタブがあります。「HTML」タブはマップファイルのコンテンツを示し、「構成」タブではマップ名およびマップのファイルパスを変更することができます。「構成」タブでご希望の修正を行います。

(6)「適用」をクリックして修正を確認します。

(7)「OK」をクリックして構成ページを閉じます。

マップの階層位置を変更

マップツリーの階層構造により、マップを属性によりグループ分けすることができます。階層構造を変更するには、以下の手順を参照してください。

図 5-55 マップの階層位置を変更

(1) 構成モードで、「システム」タブをクリックします。

(2) カテゴリパネルの「HTML マップ」をクリックします。

(3)「修正」をクリックすると構成ページが現れます。

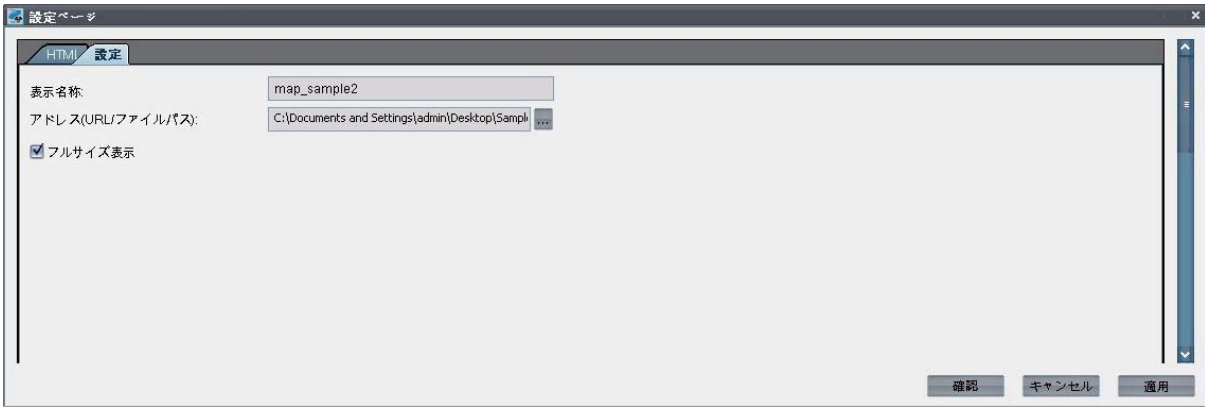

図 5-56

(4) 構成ページには 2 つのタブがあります。「基本」タブには「ビューアをフィットさせる」のオプションがあります。

(5) すべての変更が完了後、「適用」をクリックし修正を確認します。

(6)「OK」をクリックし構成ページを閉じます。

システムからマップを削除

システムからマップを削除するには、以下の手順を参照してください。

図 5-57 システムからマップを削除

(1) 構成モードで、「システム」タブをクリックします。

(2) カテゴリパネルの「HTML マップ」をクリックします。

(3) ご希望のマップをクリックします。

(4)「削除」ボタンをクリックします。

(5) 選択したマップがマップツリーから削除されます。

5.3.2 ユーザアカウント

このシステムには、マネージャーとオペレータの 2 つのユーザーアカウントがあります。それぞれの特権は、オペレータは構成モードにアクセスすることを禁じられているのに対し、マネージャーはすべてのモードにアクセスすることができます。

ユーザーアカウントの設定を確認

構成モードでユーザーアカントをクリックすると、設定パネルが以下の情報を表示します。

図 5-58 ユーザアカウントの設定を確認

- 「名前」 – ユーザーアカウント名を表します。
- 「アクセス権限レベル」 –ユーザーアカウントのアクセス権限レベルを表します。
- 「検証」 –ユーザーアカウントの検証を表します。

ユーザーアカウントのパスワードを変更

ユーザーアカウントの編集は、以下の手順を参照してください。

図 5-59 ユーザーアカウントのパスワードを変更

(1) カテゴリパネルの「システム」タブをクリックします。

(2) カテゴリパネルのマネジャーアイコンをクリックします。

(3)「修正」ボタンをクリックすると「パスワードの変更」ダイアログが現れます。

図 5-60

(4)「新パスワード」および「パスワードの確認」欄に新しいパスワードを入力します。

(5)「確認」をクリックしてダイアログを終了します。

ユーザアカウントの編集

既存のユーザーアカウントを変更するには、以下の手順を確認してください。

図 5-61 既存ユーザアカウントの編集

(1) 「設定モード」で、「システム」タブをクリックしてください。

(2) 「ユーザーアカウント」展開してください。

(3) 変更したいユーザーアカウントを選択してください。

(4) 「変更」ボタンまたは「ユーザーを追加」を押すと、をダイアログを表示します。

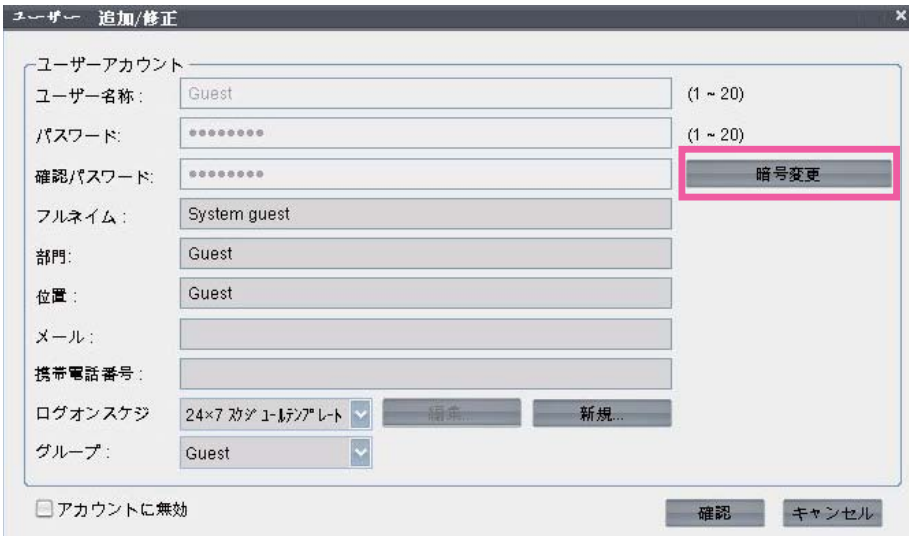

図 5-62

(5) 設定変更した後は「OK」ボタンをクリックしてください。. ユーザーを無効にしたいときは「アカウントに無効」ボタンクリックしてください。暗号変更したいときは「暗号変更」ボタンをクリックしてください。

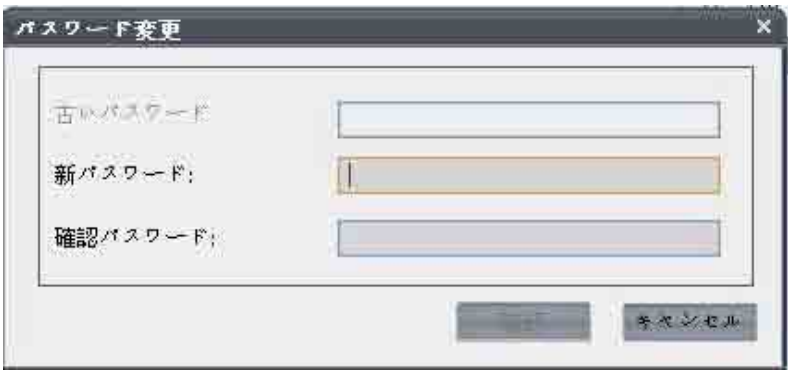

図 5-63

（6）全ての設定終わったら「OK」をクリックしてください。

[補足]　ユーザアカウントノードを右クリックすることで、ポップアップメニューが表示されます。ユーザアカウントのパスワードを直接変更するには「アカウント修正」をクリックしてください。

図 5-64

ユーザアカウントの削除

既存のユーザーアカウントを削除するには、以下のステップを確認してください。

図 5-65

(1) 「設定モード」で「システム」タブをクリックしてください。

(2) 「ユーザーアカウント」展開してください。

(3) 削除したいユーザーアカウントを選択してください。

(4) 「削除」ボタンをクリックすると確認がポップアップします。「OK」ボタンをクリックしたら、ユーザーアカウントを削除されます。

5.3.3 グループアカウント

「グループアカウント」は「ユーザーアカウント」の権限を管理します。ユーザーアカウントは所属しているグループアカウントのルールに基づいて、カメラ、アラーム、設定などの権限を与えられます。

グループアカウントの追加

グループアカウントを追加するには、以下の手順を見てください。

図 5-66 **既存のグループアカウントを追加**

(1)**「設定モード」で、「システム」タブをクリックしてください。**

(2)**「グループアカウント」を展開してください。**

(3)**「編集」ボタンをクリックして、「グループ設定」ダイアログを表示します。**

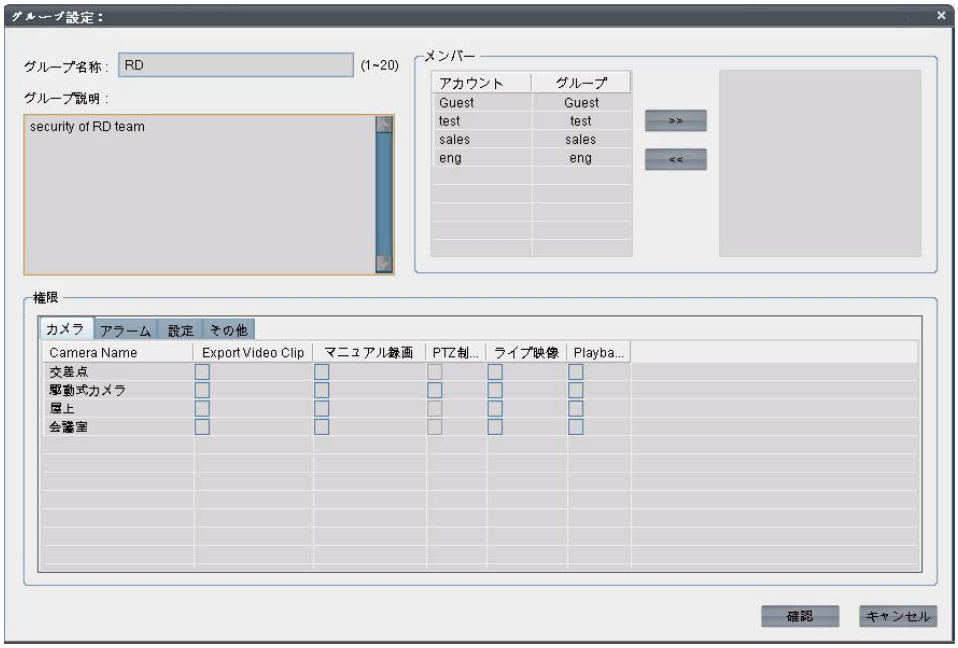

図 5-67

（4）グループ名称欄に任意の名前を入力してください。グループ説明欄に、グループの概要を入力してください。

（5）ユーザーを選んだらを「＞＞」クリックして、グループに配属してください。.

（6）次の設定「カメラ」はカメラと PTZ カメラを見て記録して制御する許可のためのものです。「アラーム」はアラーム承認と検索の許可のためのものです。「構成」はアラーム規則、カメラ、NVR、スケジュール、および格納の設定を変更する許可のためのものです。「他」のはイベント検索と他のシステム開発課題の許可のためのものです。

（7）「OK」をクリックして、ダイアログを閉じてください。新しいグループ名が作成されます。

グループアカウント編集

既存のグループアカウントを編集するには、以下の手順を確認してください。

図 5-68 **既存のグループアカウントを編集**

(1)「設定モード」で、「システム」タブをクリックしてください。

(2)「グループアカウント」を展開してください。

(3)「編集」ボタンをクリックしますと、「グループ設定」ダイアログを表示します。

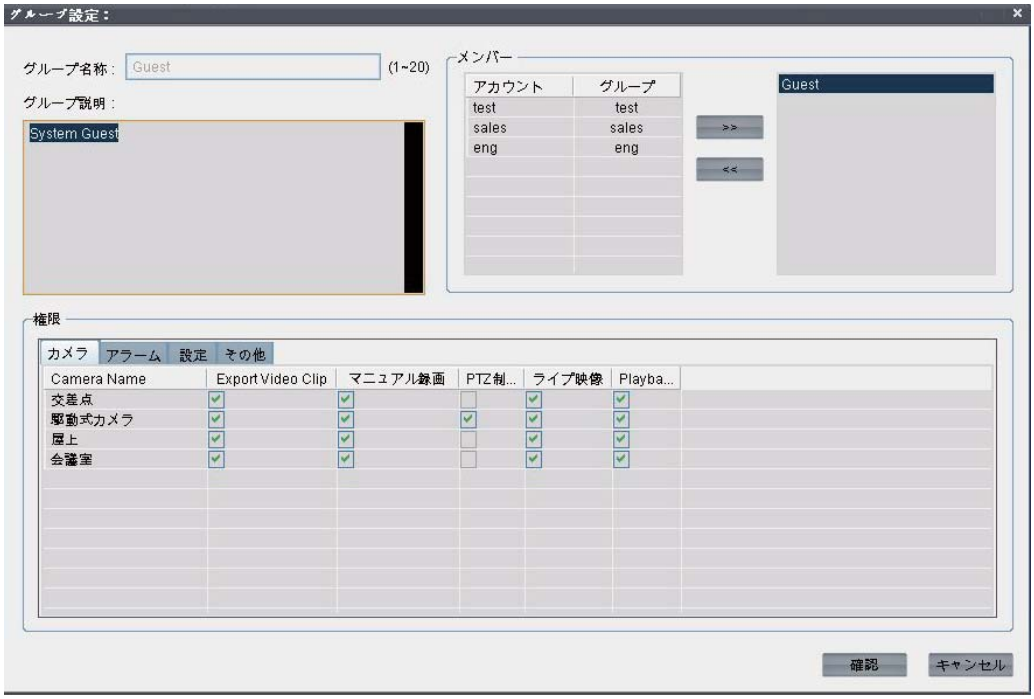

図 5-69

(4) **設定変更が可能になります。**

(5)「OK」ボタンをクリックして、設定保存します。

グループアカウントの削除

既存のグループアカウントを削除するには、以下の手順を確認してください。

図 5-70 グループアカウントの削除

(1)「設定モード」で、「システム」タブをクリックしてください。

(2)「グループアカウント」を展開してください。

(3) 削除したいグループアカウントを選んでください。

(4)「削除」ボタンをクリックして、そして「OK」ボタンをクリックして、グループアカウントを削除します。

5.3.4 アラーム規則

アラーム規則の概要

カテゴリパネルのアラーム規則名をクリックすると、アラーム規則の要約が設定パネルに表示されます。アラーム規則の内容は以下になります。

図 5-71 アラーム規則の概要

(1) 基本設定－名前、説明、優先度、およびスケジュールなどを含むアラーム規則の基本情報を表します。

(2) 条件 －アラームタイプと接続チャンネルを表します。

(3) 操作－アラーム発報後に行われる操作を表します。

アラームルールをシステムに追加

新しいアラーム規則を追加するには、以下の手順を参照してください。

図 5-72 アラーム規則をシステムに追加

(1) 構成モードで、「システム」タブをクリックします。

(2) カテゴリパネルの「規則」をクリックします。

(3)「追加」をクリックすると、アラーム規則ウィザードを表示します。

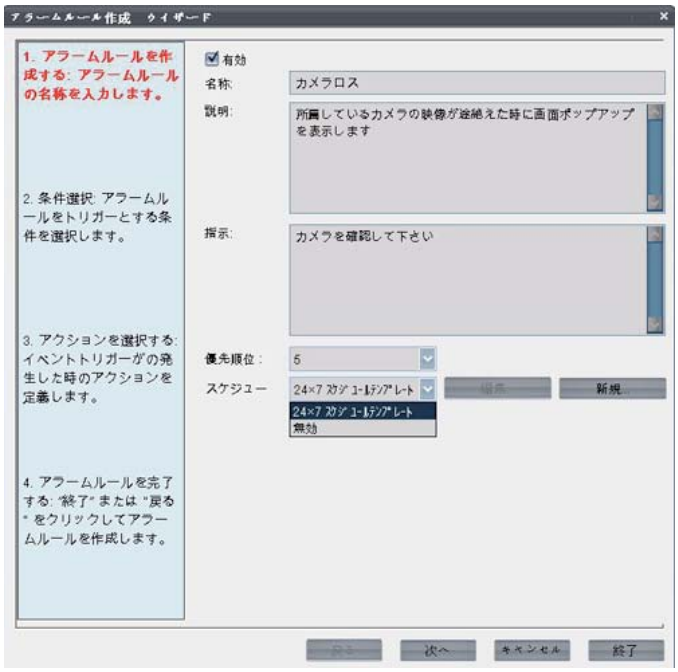

図 5-73

（4）アラーム規則ウィザードのダイアログにより、ユーザはアラーム規則を 4 つの手順で完了することができます。
手順 1 は、アラーム規則の基本設定を定義します。基本設定には名前、説明、指示、優先度、およびスケジュールがあります。アラーム規則の名前と優先度はアラーム検索条件で使用されます。ページ内のすべての設定が完了後、「次へ」をクリックします。

［補足］ 新しいスケジュールを追加しなければならない場合、「新規」をクリックすると構成ページが現れます。詳しい手順は P154 「システムに新しいスケジュールを追加」を参照してください。カスタム化されたスケジュールを修正したい場合、「修正」をクリックすると構成ページが現れます。詳しい手順はセクション P156 「スケジュールの修正」を参照してください。

図 5-74

(5) 手順 2 はトリガー条件を選択します。システム、ユーザー、およびチャンネルイベントという 3 つのカテゴリがあります。希望する条件すべてのチェックボックスにチェックを入れると、下の要約表に選択された条件がすべて一覧されます。「次へ」をクリックして続行します。

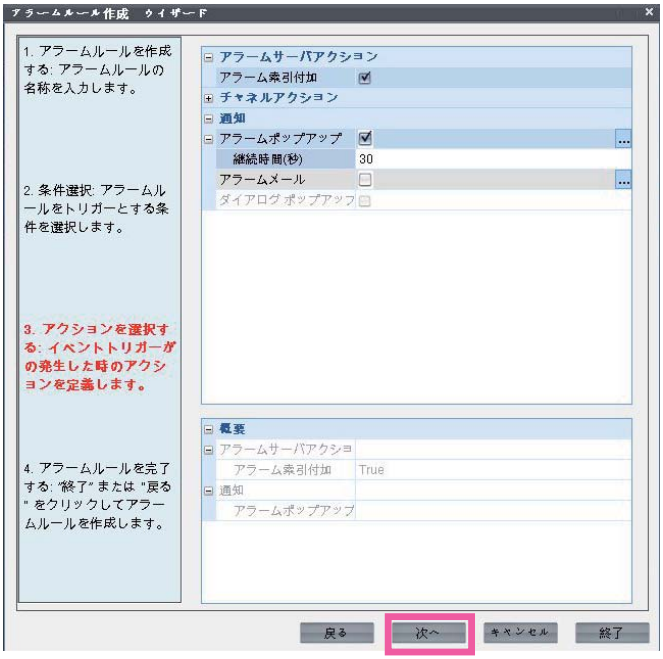

図 5-75

(6) 手順 3 は、アラーム規則の操作を選択することです。この操作は、アラーム規則が有効化されたときに実行されるものです。規則操作、チャンネル操作、および通知の 3 つの操作カテゴリがあります。アラーム規則を有効にするには、「アラームを設定」のチェックボックスにチェックを入れます。チャンネル操作は、アラーム規則がアクティブのときにどのチャンネルをトリガーするかを決定します。チャンネル操作を設定するには、希望するチャンネルをクリックし、希望する操作のチェックボックスにチェックを入れます。一部の操作は、「録画」操作のように、ユーザーが継続時間を設定することができます。通知には、アラーム ポップアップ オプションおよびダイアログ ポップアップ オプションがあります。すべての操作が設定されたら 「次へ」をクリックして続行します。

[補足]　パターンレイアウトをアラーム規則で設定

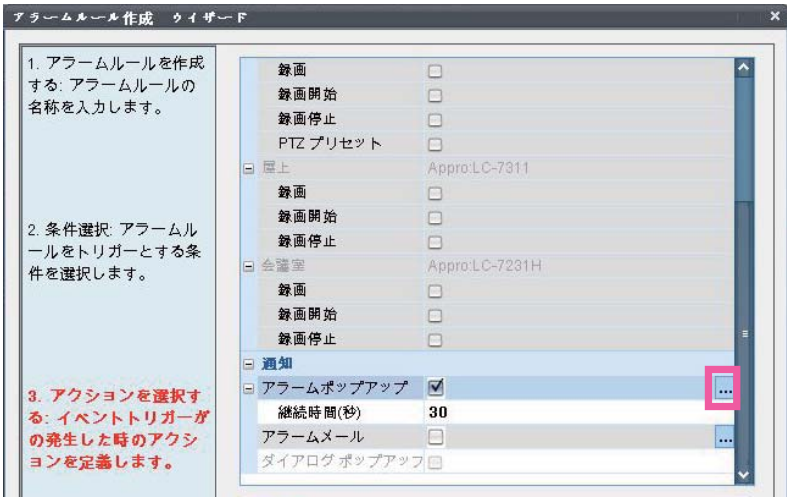

図 5-76

1. **手順 3 の際に、「…」ボタンをクリックすると「アラームポップアップを修正」ダイアログが現れます。**

図 5-77

2. **パターンレイアウト一覧から希望するパターンレイアウトをクリックします。**
3. **希望するチャンネルをドラッグして、ビューアにドロップします。**
4. **すべてのビューアが設定されるまで手順 3 を繰り返します。**
5. **「OK」をクリックしてダイアログを終了します。**

[補足]　アラーム規則でダイアログポップアップを設定

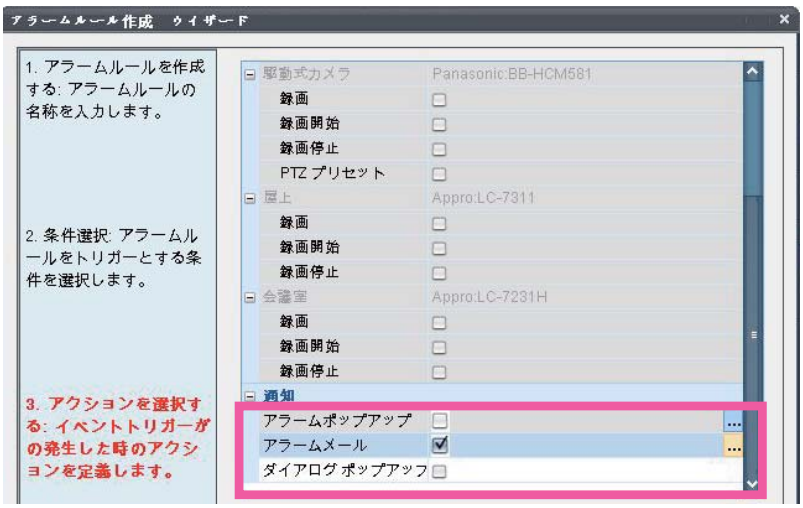

図 5-78

1 手順 3 の際に、「ダイアログポップアップ」のチェックボックスにチェックを入れます。

2. ダイアログ タイトルのテキストを入力します。

3. ダイアログの重要度を設定します。

4. ダイアログのメッセージを入力します。

[補足]　アラーム発生時の E メール通知設定

図 5-79

1. 手順 3 の際に、「アラームメール」のチェックボックスにチェックを入れ、「...」ボタンをクリックすると「メール設定」が表示されます。

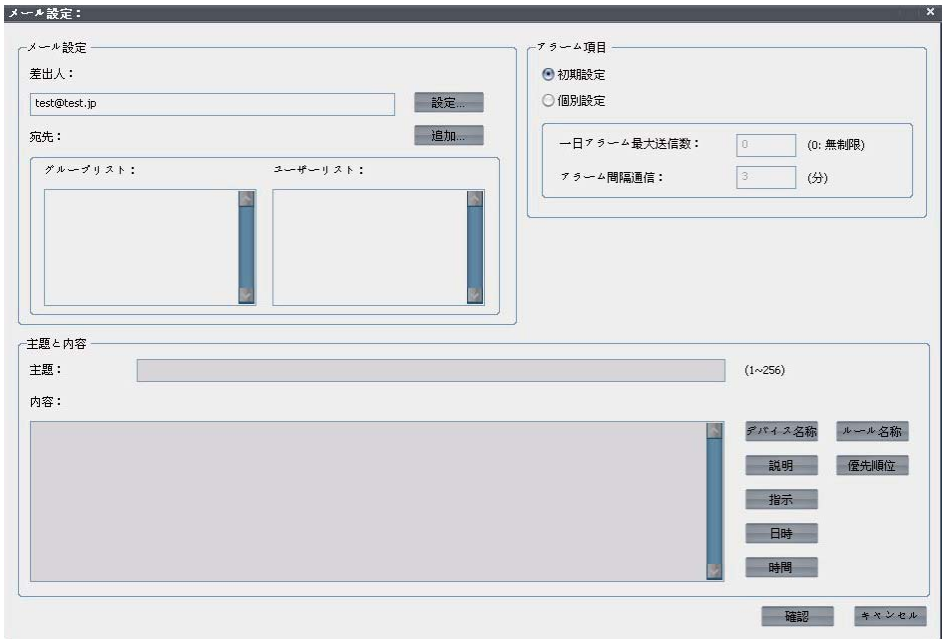

図 5-80

2. **各種設定後「終了」をクリックし完了します。**

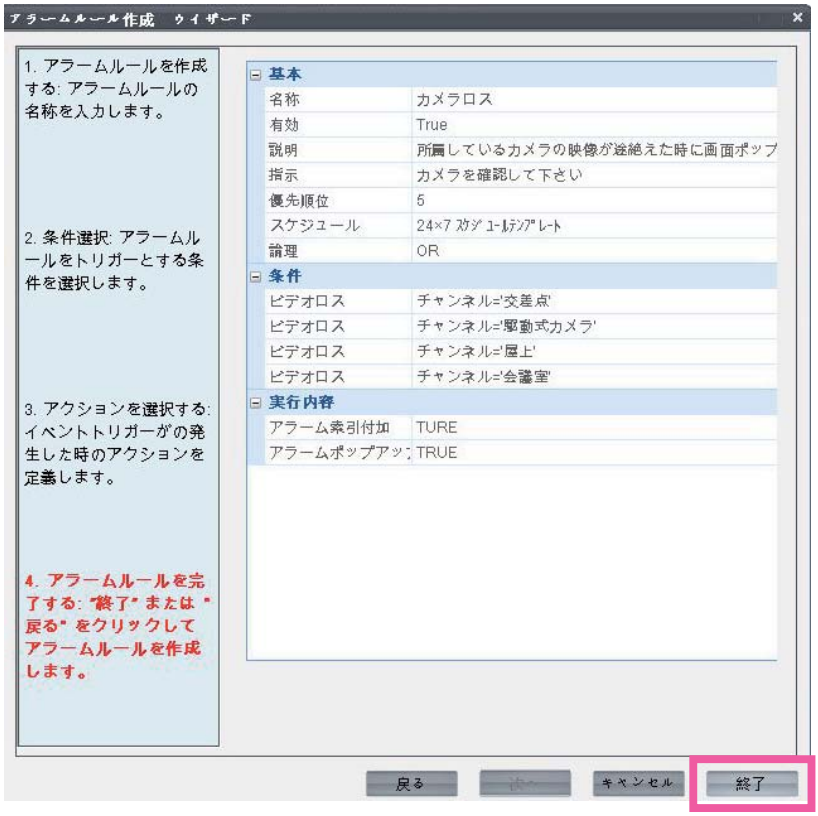

図 5-81

[補足]　アラームノードを右クリックすると、ポップアップメニューが表示され、既存の規則の編集と削除を行えます。

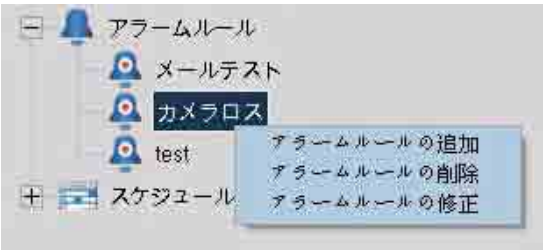

図 5-82

ハードウェア検出アラームをシステムへ追加

ハードウェア検出アラームを追加するには、以下の手順を参照してください。

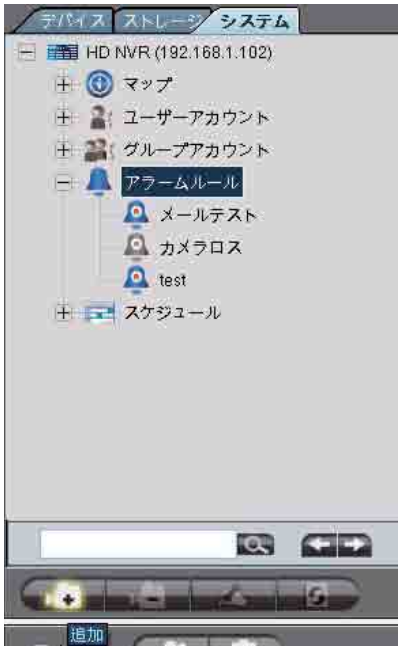

図 5-83 **ハードウェア検出アラームの追加**

(1) 構成モードで「システム」タブをクリックします。

(2) 「「規則」をクリックします。

(3) 「追加」をクリックすると、規則ウィザードを表示します。

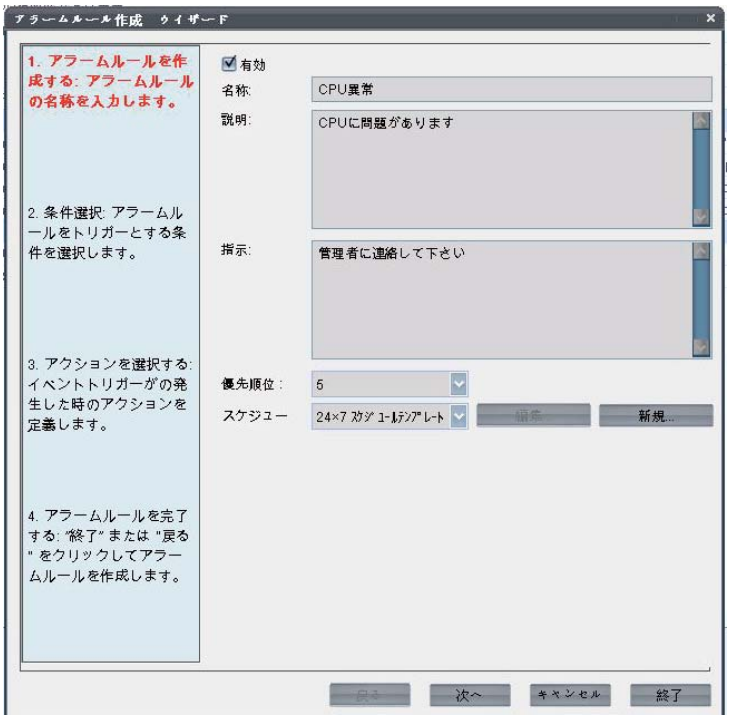

図 5-84

（4）記録ウィザードダイアログでアラーム規則設定を定義してください。「次へ」をクリックし手順 2 へ進みます。

図 5-85

（5）トリガ状態リストから「Hardware Info」オプションにチェックが入っている場合、（+）をクリックすることで展開が可能です。希望する項目をリストから選択します。いくつかの項目はアラームを引き起こす範囲に設定する必要があります。範囲の値を入力し「次へ」をクリックします。

図 5-86

（6）アラームが引き起こされる時の規則アクションを決定します。
全ての設定が完了したら、「次へ」をクリックして続けます。

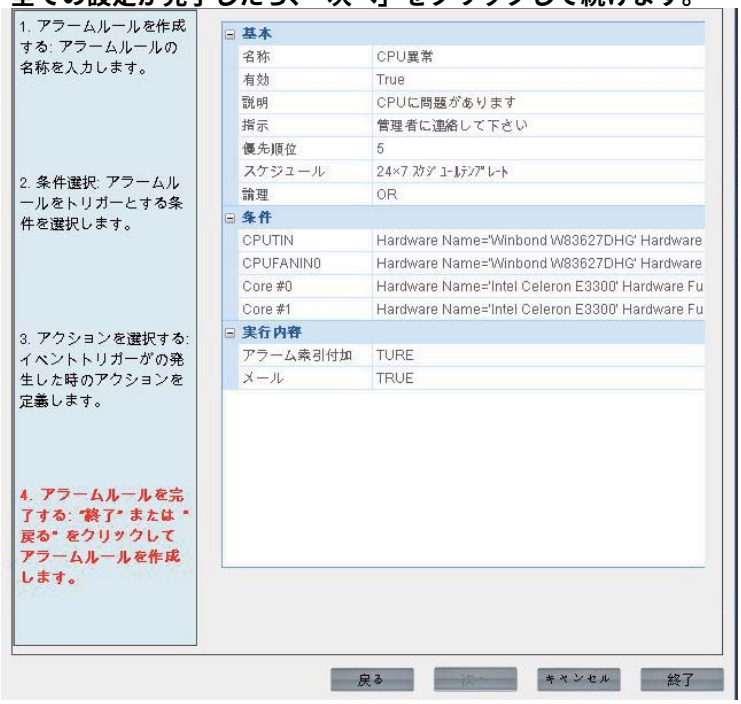

図 5-87

（7）アラーム規則の要約をチェックし、設定が完了したら「終了」をクリックします。

アラーム規則の修正

アラーム規則を修正するには、以下の手順を参照してください。

図 5-88 アラーム規則の修正

(1) 構成モードで、「システム」タブをクリックします。

(2) アラーム規則リストから、希望するのアラーム規則をクリックします。

(3)「修正」をクリックすると、アラーム規則ウィザードが表示します。

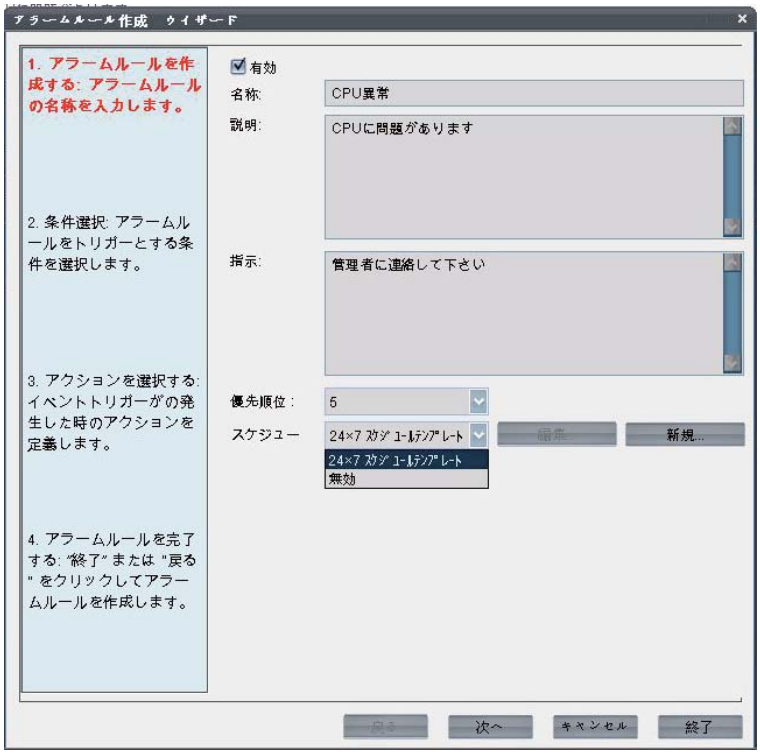

図 5-89

(4)「削除（アラーム名)」というメッセージが表示されます。「Yes」をクリックして完了します。

アラームルールをシステムから削除

システムからアラームルールを削除するには、以下の手順を参照してください。

図 5-90 アラームルールをシステムから削除

(1) 構成モードで、「システム」タブをクリックします。

(2) アラーム規則リストから、削除したいアラーム規則をクリックします。

(3)「削除」をクリックします。

図 5-91

(4)「アラーム名」というメッセージが表示します。「Yes」をクリックして完了します。

5.3.5 スケジュール

スケジュール構成の概要

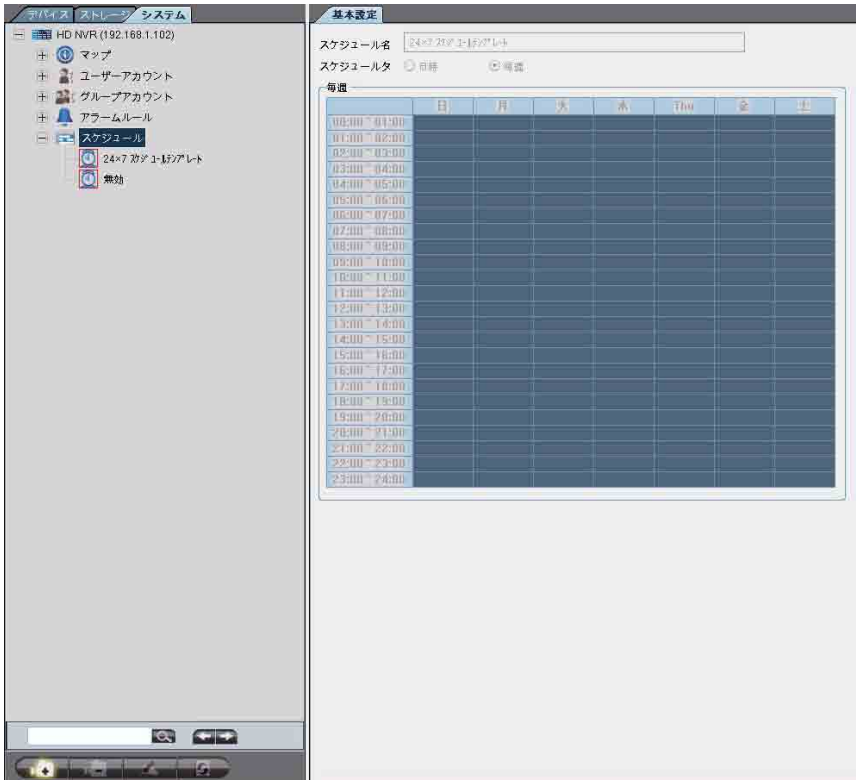

図 5-92 スケジュール構成の概要

スケジュール設定は、録画やアラームトリガーなどの操作スケジュールを設定する際に役に立ちます。

構成モードには、「24 × 7 スケジュール テンプレート」と 「無効化」という 2 つのデフォルトシステムスケジュールがあります。デフォルトスケジュールは削除および修正はできません。

システムに新しいスケジュールを追加

システムに新しいスケジュールを追加するには、以下の手順を参照してください。

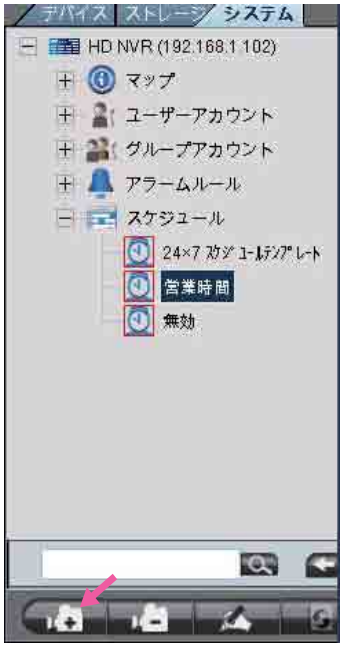

図 5-93 システムに新しいスケジュールを追加

(1) 構成モードで、「システム」タブをクリックします。

(2) スケジュール」をクリックします。

(3)「追加」をクリックすると構成ページが表示します。

図 5-94

(4) スケジュール名を入力します。スケジュール名は最大 40 文字まで入力できます。

(5) スケジュールのタイプを決めます。「日付」または 「週間」の、2 つの限定オプションがあります。「日付」オプションを選択した場合は、開始時間および終了時間を設定します。

(6)「週間」オプションを選択した場合は、タイムテーブルのセルをクリックします。選択したセルは灰色になります。

(7)「OK」をクリックして続行します。

(8) これで新しいスケジュールがスケジュールリストに追加されました。

[注意] スケジュールノードを右クリックして、ポップアップメニューを示します。ポップアップメニューは 3 つの項目を含んでいます。以下の図を参照してください。

図 5-95

スケジュールの修正

カスタマイズされたスケジュールを修正するには、以下の手順を参照してください。

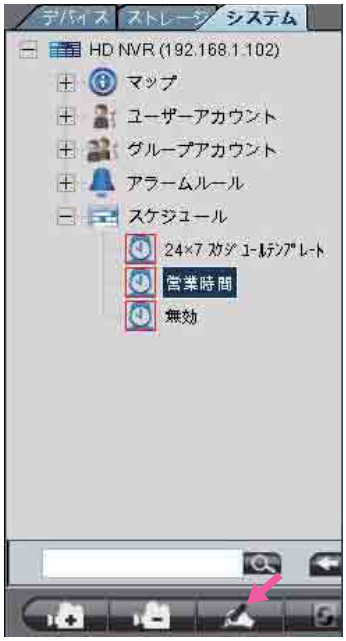

図 5-96 スケジュールの修正

(1) 構成モードで、「システム」タブをクリックします。

(2) リスト内の希望するのスケジュールをクリックします。

(3)「修正」をクリックすると構成ページが現れます。

図 5-97

(4) 修正したいオプションを選択し、オプションの値を変更します。

(5)「OK」をクリックして構成ページを閉じます。

カスタマイズされたスケジュールをシステムから削除

カスタマイズされたスケジュールを削除するには、以下の手順を参照してください。

図 5-98 カスタマイズされたスケジュールをシステムから削除

(1) 構成モードで、「システム」タブをクリックします。

(2) リストから削除したいスケジュールをクリックします。

(3)「削除」をクリックします。

図 5-99

(4)「Delete {Schedule Name}?」のメッセージが表示されます。「OK」をクリックして続行します。

(5) 選択されたスケジュールがリストから削除されます。

6. HD NVR クライアント

6.1 インストール

HD NVR クライアントをインストールするには、次の手順を参照してください。

（1）HD_NVR のクライアントソフトのセットアップファイル
（ファイル名：MEGA_Control_Workstation.exe）をダブルクリックします。

図 6-1 システムのインストール

（2）セットアップウィザードが始まるので「Next」をクリックしてください。

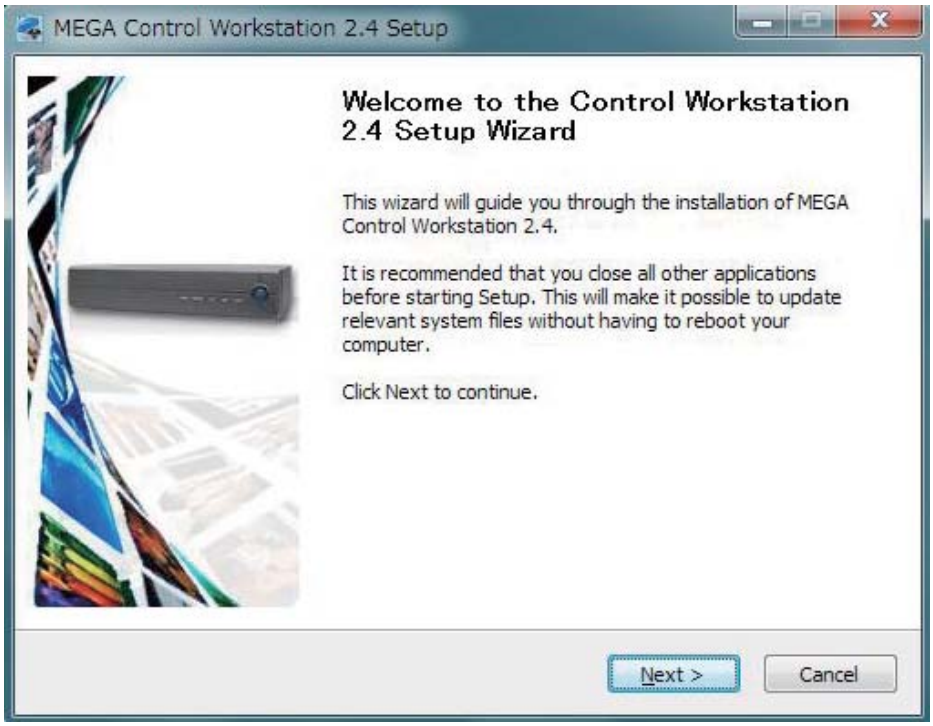

図 6-1

（3）ライセンス許諾のダイアログが表示されます。「I accept the terms in the License Agreement」にチェックを入れ、「Next」をクリックします。

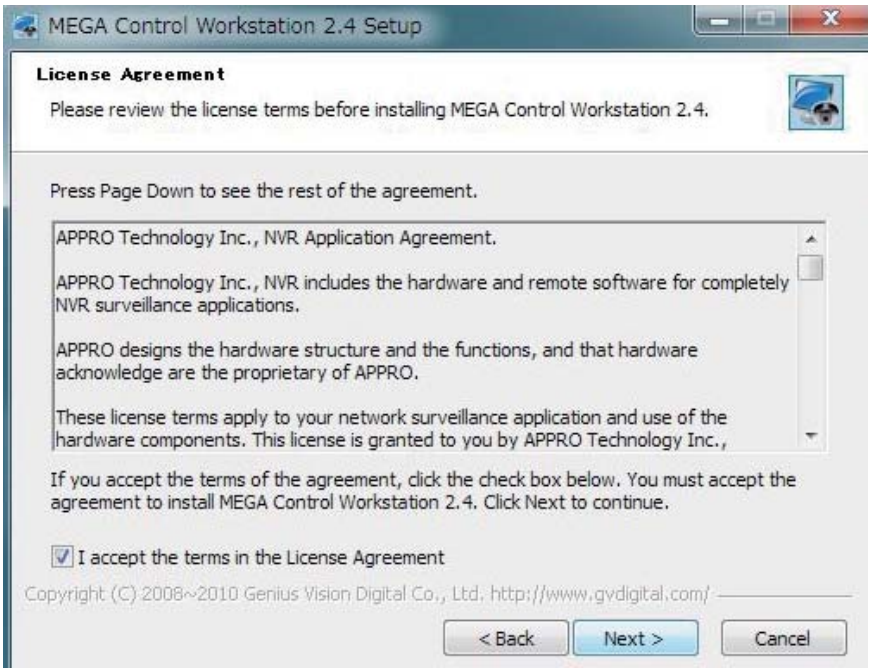

図 6-1

（4）同意したら「Next」ボタンをクリックしてください。

図 6-1

（5）プログラムリストをセットアップするため、推奨のハードウェアスペックが必要です。確認したら「NEXT ＞」をクリックしてください。

図 6-1

（6）正常にシステムを動かすため、Windows のひとつコンポーネント「メッセージ Queuing」が必要です。「メッセージ Queuing」をインストールするには、169 ページの「メッセージキューイングのインストール」を参照してください。

図 6-1

（7）インストールしたいドライバーを選んで、そして、「インストール」ボタンをクリックしてください。セットアッププログラムは選択されたドライバーで自動的に「GVD」というフォルダーを作成します。

図 6-1

(8)「OK」ボタンをクリックしてください。

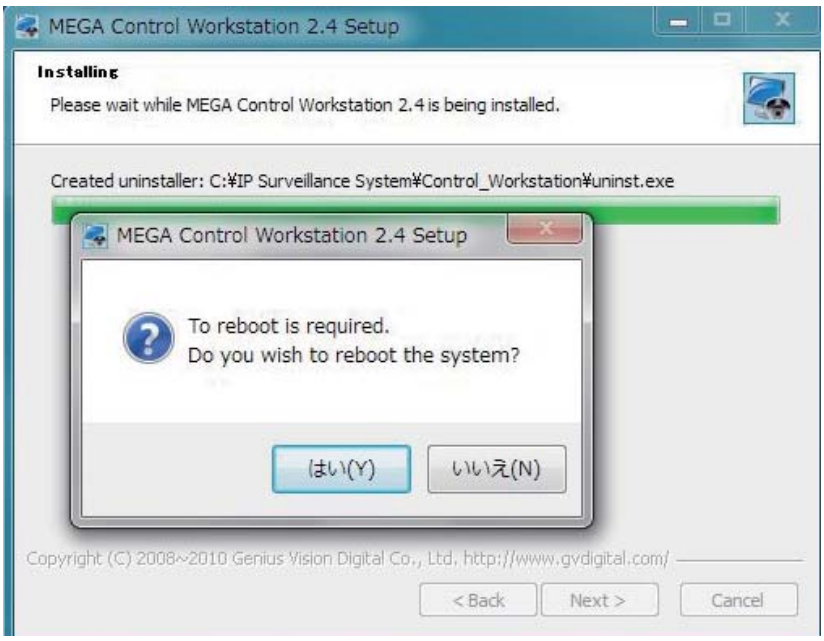

図 6-1

(9)「はい」ボタンをクリックしてください。自動的にバックアップが起動されます。

6.2 操作指令

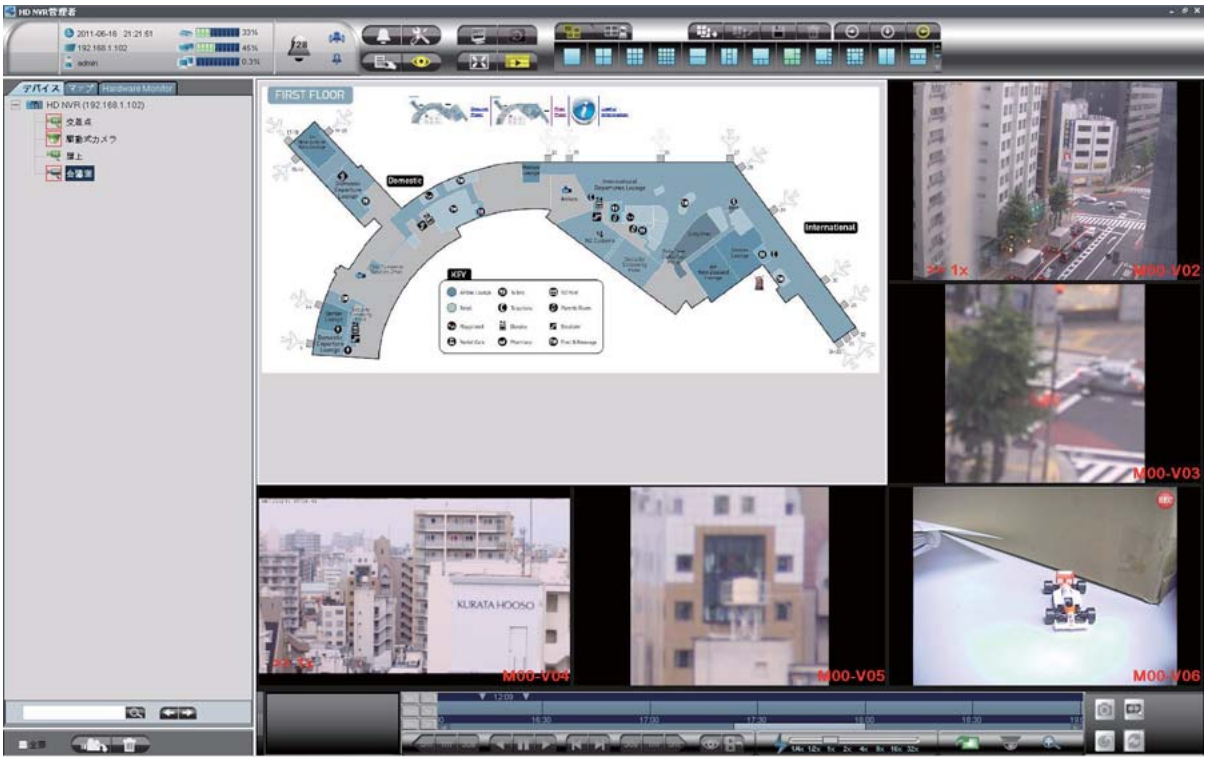

図 6-1 HD NVR クライアントの概約

HD NVR クライアントは、インストールされ、一般的な PC の上で作業できる HD NVR マネージャーの簡単なバージョンです。HD NVR クライアントはユーザーに IP カメラのライブイメージを見て、再生機能を実行し、イメージ・ファイルをエクスポート・チェックし、アラームなどを対処させます。

HD NVR マネージャーの 4 つのオペレーションモードを持っています。HD NVR クライアントには、2 つのモードがあります。1 つは、チャンネルからのイメージを見て操作するための表示モードです。もうひとつは、アラームを見て対処するためのアラームモードです。表示モードに関する詳細は P159 「HD NVR クライアント」をご参考してください。アラームモードに関する詳細は P87 「アラーム & イベントモード」を確認してください。

付録

付録 1. ホットキー

ホットキーテーブル

ホットキー	機能 1	機能 2	Alt との組み合わせ（全ビューア用）
F10; R	手動録画	N/A	YES
F11; E	スナップショット	N/A	YES
F12; Q	ライブへ	N/A	YES
A	後方へ	N/A	YES
S	早送り再生	N/A	YES
W	早送り再生	N/A	YES
D	前方へ	N/A	YES
シフト	ROI を作成	N/A	N/A
コントロール	ROI をドラッグ＆ドロップ	N/A	N/A
O	PTZ	N/A	N/A
Z	デジタルズーム	N/A	N/A
ESC	全画面を閉じる	アラームポップアップを閉じる	N/A
1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 - =	ツアーリスト項目を選択	パターンを選択	N/A
スペース	タイムスライダ	N/A	N/A
← ↑ → ↓	ビューアを選択	N/A	N/A
Enter	1 × 1 ディスプレイ	N/A	N/A
F9	ストリーム情報	N/A	N/A
F6、F7、F8	ユーザイベントキー	N/A	N/A

付録 2. ネットワーク品質

ネットワーク品質

レベル	接続状況監視間隔	パケットロス最大間隔
レベル 1（**最低**）	10000 ms	10000 ms
レベル 2	7500 ms	4000 ms
レベル 3	7500 ms	4000 ms
レベル 4（**中**）	5000 ms	3000 ms
レベル 5	5000 ms	3000 ms
レベル 6	2500 ms	2000 ms
レベル 7（**最高**）	2500 ms	2000 ms

付録 3. カメラまたは DI/DO を HTML マップへ追加

HTML マップが作成されている場合は、カメラまたは DI/DO アイコンはとても容易に HTML マップに追加することができます。以下の手順を参照してください

（1）Dreamweaver や Frontpage のようなウェブページ エディター ソフトウェアを実行します。

（2）HTML マップファイルを開きます。

（3）マップファイルのソースコードを表示します。

（4）<Body> タグの先に、以下の HTML コードを入力します。

IP カメラを追加する場合

```
<img
type = "channel"
nvr-ip="192.168.1.21"
channel-id="2:0"
src="icon\PTZ.png"
src-n = "icon\PTZ_normal.png"
src-r = "icon\PTZ_recording.png"
src-vl = "icon\PTZ_VL.png"
src-a = "icon\PTZ_Alarm.png"
src-ar = "icon\PTZ_Alarm.png"
style="position: absolute; top:685px; left: 1128px; width: 32px; height: 32px;"/>
```

Icon type
NVR IP
Channel ID
Icon status image
Icon size&position

DI ポイントを追加する場合

```
<img
type = "channel-di"
nvr-ip="192.168.1.121"
channel-id="3:0"
point="1"
src="icon\MotionDetector-ON.png"
src-di-disabled="icon\MotionDetector-Disable.png"
src-di-active-alarm="icon\MotionDetector-ON_alarm.png"
src-di-inactive-alarm="icon\MotionDetector-Off_alarm.png"
src-di-active="icon\MotionDetector-ON.png"
src-di-inactive="icon\MotionDetector-OFF.png"
style="position: absolute; top: 101px; left: 291px; width: 32px; height: 32px;"/>
```

Icon type
IP Address
Channel ID
Digital input ID
Icon status image
Icon size&position

DO ポイントを追加する場合

```
<img
type = "channel-do"
nvr-ip="192.168.1.41"
channel-id="3:0"
point="1"
src="icon\Alarm-OFF.png"
src-do-disabled = "icon\Alarm-Disable.png"
src-do-active = "icon\Alarm-ON.png"
src-do-active-alarm = "icon\Alarm-ON_alarm.png"
src-do-inactive-alarm = "icon\Alarm-OFF_alarm.png"
src-do-inactive = "icon\Alarm-OFF.png"
style="position: absolute; top: 42px; left: 1021px; width: 32px; height: 32px;"/>
```

Icon type

IP Address

Channel ID

Digital input ID

Icon status image

Icon size&position

（5）すべてのカメラおよび DI/DO ポイントを追加した後、HTML ファイルを保存します。

付録 4. メッセージキューイングのインストール

「メッセージ・キューイング」をインストールするには、以下の手順をご覧ください。

図 A-1

(1) Windows デスクトップで、「スタート」＞「コントロールパネル」＞「プログラムの追加と削除」をクリックします。

(2)「プログラムの追加と削除」ダイアログが表示されます。続行する前に、Windows セットアップディスクをロードします。

(3)「Windows コンポーネントの追加と削除」をクリックします。

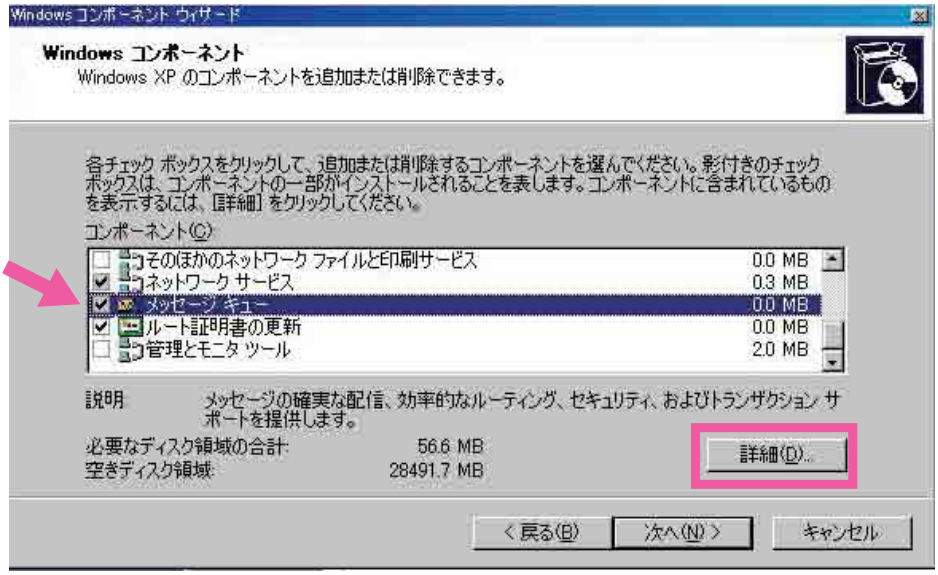

図 A-2

(4)「Windows コンポーネント ウィザード」ダイアログが表示されたら、「メッセージ・キューイング」のチェックボックスにチェックを入れます。「詳細」ボタンをクリックすると「メッセージ・キューイング」ダイアログが現れます。

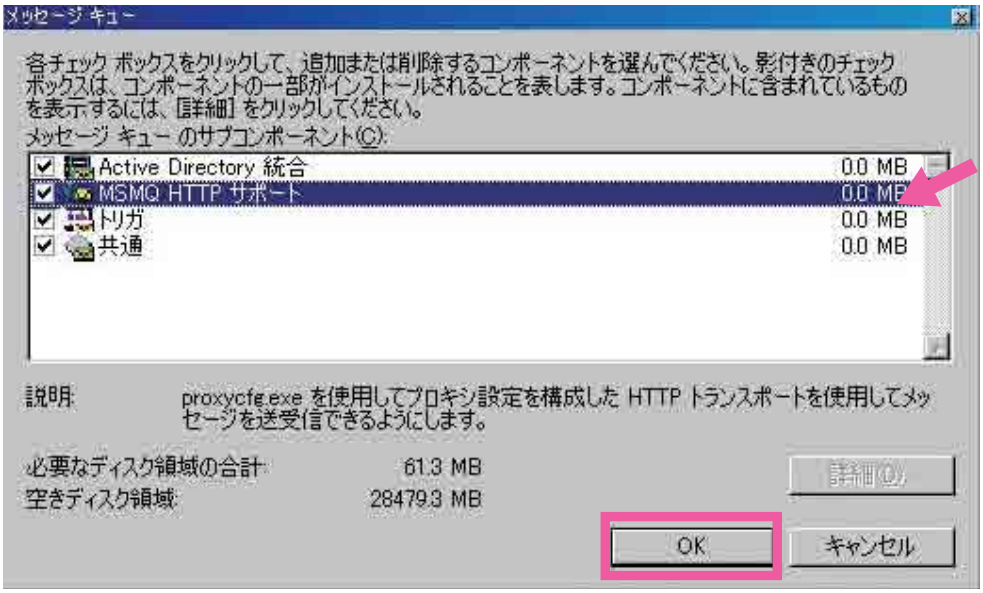

図 A-3

(5) **サブコンポーネントの一覧で「**MSMQ HTTP **のサポート」チェックボックスにチェックを入れます。**

(6)「OK」**をクリックして続行します。**

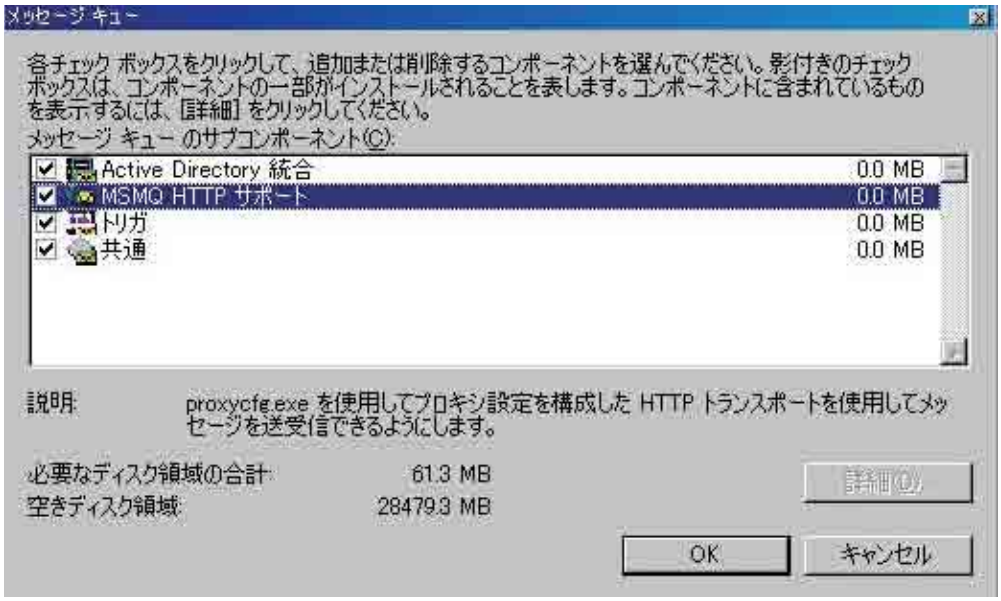

図 A-4

(7) Windows コンポーネント ウィザードで「次へ」をクリックして 続行します。

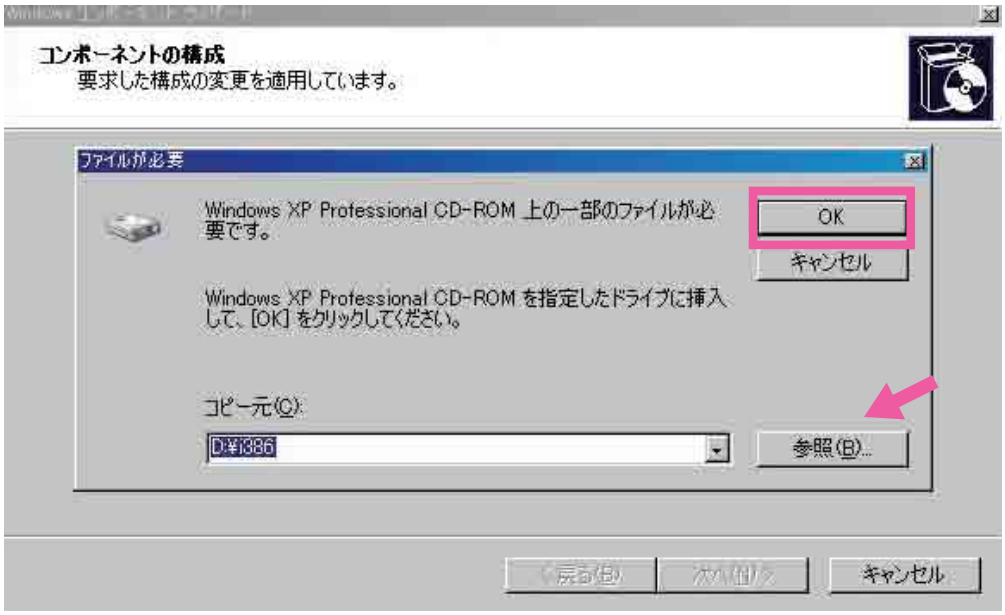

図 A-5

(8)「必要なファイル」ダイアログで、ソースディレクトリが正しいことを確認してください。さもなければ「参照」をクリックしてセットアップディレクトリを選択します。

(9)「OK」をクリックして続行します。

(10) インストールが完了した後、Windows コンポーネント ウィザードで「次へ」をクリックし、ダイアログを閉じます。

付録 5. IP カメラ登録における対応表

FXC 製の IP カメラを登録する際には、下記型番にて登録をお願い致します。

表 5-1

FXC 型番	メーカー名	モデル名
FXC-PV1200CN	Appro	LC-7231H
FXC-PV1210CN	Appro	LC-7331
FXC-PV1350CN	Appro	LC-7317S
FXC-PV1360CN	Appro	LC-7311

NVR2000 Series User Guide

（FXC11-DC-200019-R1.0）

初版　　2011 年 9 月

- 本ユーザマニュアルは、FXC 株式会社が制作したもので、全ての権利を弊社が所有します。弊社に無断で本書の一部、または全部を複製 / 転載することを禁じます。
- 改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますが、ご了承ください。
- 予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますが、ご了承ください。
- ユーザマニュアルの内容に関しましては、万全を期しておりますが、万一ご不明な点がございましたら、弊社サポートセンターまでご相談ください。

User Guide
NVR2000 Series

NVR2000 Series User Guide

FXC11-DC-200019-R1.0

FXC株式会社